

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	ID221
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1IC000400
講義名	国際ビジネス論
担当者名	荒井 将志
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、実際の国際ビジネスの比較検討を行い、企業国際化の諸問題を解決に導く思考プロセスを養うことを目的とする。海外で事業活動を行う企業には、本国で蓄積したブランドや技術などの経営資源を効率よく進出先国に移転できる能力と、現地の環境に上手く適応できる能力を持つことが求められる。また国際化の進展とともに、複数国に分散した研究開発・生産・販売の各拠点を有機的に結合するグローバル組織を開発する必要性が高まる。本科目ではこうした企業独自の経営資源の国際移転と経営現地化に関わる諸問題を分析する視点についても学ぶ。
授業の内容	2000年頃より情報通信技術の発展とグローバル化の進展により、各国の企業のビジネス活動は急速に国際化を進めてきた。もはや、経営資源のヒト、モノ、カネ、情報は、世界中から最適調達がなされる時代となった。日本など先進国の経済成長が鈍化する一方で、中国や韓国、そしてASEANなどの新興国の経済成長は著しく、企業の競争の中心は、先進国市場から新興国市場へとシフトしている。したがって、従来の先進国市場をターゲットとした経営戦略のみならず、新興国市場に合わせた経営戦略も同時に考えてゆかなければならない。本講義では、こうした企業の国際的な活動、特にイノベーションについて、事例やデータからその構造を理解し、課題を考えてゆく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	基礎的な国際ビジネスに関する知識と考え方を身につけ、視野を世界に広げることを目的とする。また、企業について理解を深めることで、将来、業界研究や企業研究を行う際に必要な知識を身につける。さらに、ビジネスに対する心構えができ、自分のキャリア選択において前向きになれる。
授業形態	講義
授業方法	授業形態は、パワーポイントによる講義形式である。 授業時に、パワーポイントのスライドを資料として配付する。 毎回の授業の最後にはその日の授業に関する小レポートを課す。 また現在の企業の国際ビジネス活動を深く理解してもらうために、映像資料なども適宜用いる。
授業計画	【第1回】ガイダンス(本講義の概要説明) 【第2回】グローバル化と国際競争優位 【第3回】ICT時代の情報と知識 【第4回】イノベーション戦略 【第5回】グローバル・イノベーションと研究開発 【第6回】異文化経営 【第7回】国際人材マネジメント 【第8回】国際マーケティング 【第9回】国際標準化 【第10回】研究開発の国際化 【第11回】海外アウトソーシング 【第12回】企業の社会的責任 【第13回】新興国市場とBOPビジネス ※その時々トピックも取り上げるため、講義の順番や内容が変わることがあります。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前・事後学修の指示は、履修登録完了後にmanabaを通じて履修者に対して行う。各自が確認し、しっかりと取り組み、分からないことがある場合はメールで問い合わせること。 配布する講義資料をよく確認しておくこと。

成績評価方法・基準	試験80%、平常点20%で評価する。 なお、平常点は、授業内の小レポートの内容により評価する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）のフィードバックおよび解説については、授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書：指定しない。 毎回、資料を配布する。 指定図書：各回、そのテーマに合った参考文献を紹介する。
履修上の留意点	詳細は、初回の授業時に説明するので、1回目の授業には出席すること。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	ID311
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1IC000500
講義名	経済政策論
担当者名	中村 周史
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、不況、失業、分配の不平等、社会保障の不備、国際収支の不均衡など、さまざまな経済問題の解決を目指す経済政策論を学習する。経済政策論では、経済成長、完全雇用、物価安定、分配の公正、国際収支の改善、生活環境の改善などの諸目的を達成するため、マクロ経済学の分析枠組みに基盤をおくマクロ経済政策と、ミクロ経済学の分析枠組みに基盤をおくミクロ経済政策とを、いかに利用するかを考える。また、経済政策論の基礎は経済理論であるが、経済社会の制度面の理解も重要である。
授業の内容	経済政策は、経済学に基づいてそれを現実に応用し、実施される。そのため、各経済政策を実施する際の政府の目的や意図を理解するためには、その背後にある理論的な仕組みを学び、理解する必要がある。本科目では、ミクロ・マクロ両面から実例を交えてその解説を行っていく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	市場の失敗がなぜ生じ、政府介入を必要とするのかを理解し、自身で説明できるようになること、また、マクロ経済政策について、経済環境に応じてどのような効果が生じるのかを論理的に説明できるようになることを、本科目における到達目標とする。
授業形態	講義
授業方法	教員が作成した講義資料を基に授業を行う。講義資料は事前にアップロードされるため、各自で持参すること。なお、適宜復習を兼ねた小テスト(確認テスト)を行い、知識の定着を図る。
授業計画	第1回 イン트로ダクション: 経済政策と私たちの生活 第2回 復習: 市場経済の仕組み 基本的な市場の仕組みや市場の種類について解説し、経済学の基礎の復習とする。 第3回 外部性と公共財 外部性の存在や公共財の存在について学び、それらが存在するとどのような問題が起こるのかを理解する。 第4回 市場の失敗と政府の役割 市場の失敗の発生と、それに対処する政府介入の必要性について学ぶ。また、政府介入による問題についても解説する。 第5回 不確実性と不完全情報 取引における不確実性や情報の非対称性が存在することで生じる、様々な問題について学ぶ。 第6回 GDPと景気循環 経済をマクロ的側面から理解するため、GDPの仕組みと性質を学ぶ。また、景気循環とはどのようなものかを理解し、マクロ経済政策の必要性について解説する。 第7回 有効需要と乗数メカニズム マクロ経済における需要は景気とどのように関係するのか、その基本的な仕組みとして乗数メカニズムを学ぶ。 第8回 45度線分析と乗数メカニズム 前回学習した乗数メカニズムを図解し、理解するため45度線分析を学ぶ。これを通じ、需要と供給の関係によって、物価や失業にどのような変化が起きるのかを理解する。 第9回 IS-LM入門 経済には複数の市場が存在し、そこでは互いに影響を及ぼしあっており、金融政策の影響を考えるためには、貨幣市場や金融市場と財市場がどのように関係するのかを理解する必要がある。ここでは、IS-LM分析の入門として、各市場と国民所得の関係について学ぶ。 第10回 IS-LM分析 財政政策や金融政策は、どのような経路をたどり、国民所得へ影響するのか。また、その効果を左右する要素は何なのか。経済政策分析の基礎であるIS-LM分析について解説する。 第11回 労働市場と物価、期待の関係 失業が経済政策によってどのように解消されるのかを考えるためには、労働市場を考慮する必要がある。物価や期待の変化がマクロ経済においてどのような影響を持つのか解説する。 第12回 AD-AS分析とフィリップス曲線 経済政策が短期的、長期的にマクロ経済においてどのような変化をもたらすのかを学ぶため、AD-AS分析の解説を行う。また、そこから派生し、物価と賃金の間にはどのような関係があるのかについても学ぶ。 第13回 総まとめ ここまでの内容を全て網羅した期末課題を実施し、経済政策の総復習とする。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	事前にmanabaに講義資料を掲示するので、各自授業前に確認しわからない点を整理しておくこと。また、日頃から日本経済新聞など経済報道に目を通しておくこと。
成績評価方法・基準	確認テスト30%、期末課題70%により評価する。 確認テストは講義時間中に行い、期末課題のアナウンスはmanabaのコースメニューを通じて行う。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は用いず、担当教員が作成した講義資料をmanabaを通じて配付する。
履修上の留意点	経済学の基礎について、講義のなかで適宜補うが、できるだけ各自で学習しておくこと。 1年次の「経済学概論」を履修していることが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	ID322
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1IC000600
講義名	国際マーケティング論
担当者名	金 炯中
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目は、生産販売拠点を複数国に配置し規模の経済と現地適応のバランスをはかる多国籍企業で行われている国際マーケティングを対象とする。社会文化・所得水準の異なる各地域の顧客が求める真のニーズを探索し、合致した製品と価値を創造し、なおかつ受け入れられる価格で提供することによりグローバル市場で競争優位を確立するマーケティングの考え方や戦略の展開について教授し、さらに競争優位の持続化に向けて取り組まなければならない課題について考察する。
授業の内容	グローバル化が深化している今日において、企業活動をグローバルな視点から把握することは非常に重要である。市場のグローバル化が加速するなか、企業の経営活動は国境を越えて様々な形で行われている。近年は、従来の製造企業のみならず、サービスや文化コンテンツ関連企業も海外に進出し、現地市場獲得のため、マーケティング活動を進めている。本授業では、企業の国際マーケティング活動にかかわる様々な事例を用い、国際マーケティングの基礎概念について学ぶと共に、多様な企業及び市場のグローバル化現状に触れながら、国際マーケティングの中心となる戦略について学習する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本授業の主な到達目標は、以下の通りである。 1. 国際マーケティングに関連する基礎的概念について説明できる。 2. 多様な国籍及び産業に属する企業の国際的事業活動の特徴について説明できる。 3. マーケティング活動が国境を越える際に考慮しなければならない国際マーケティングの諸問題について分析できる。
授業形態	講義
授業方法	本授業は、講義の形式で実施する。授業では補助的ツールとして、manabaを用いる。授業の中では随時、小テスト、あるいはレポート課題をmanabaに提出してもらう。また、各授業内容に関連する新聞記事や映像資料を活用し、履修者同士でディスカッションを行うこともある。なお、授業内容を考慮し、現場で活躍している外部講師を招待した授業を行う予定である。
授業計画	【第1回】ガイダンス：グローバル化とマーケティング 授業の概要説明、企業活動の国際化の現状、国際マーケティングの重要性について理解する。 【第2回】国際マーケティングの概念 国際マーケティングの定義や特徴を理解すると共に、発展段階論的アプローチの考え方について学習する。 【第3回】国際マーケティングの環境(1) 国際マーケティング活動に影響を及ぼす経済的環境、文化的環境(言語、宗教など)について学ぶ。 【第4回】国際マーケティングの環境(2) 国際マーケティング活動に影響を及ぼす法的環境(著作権、特許など)、政治的環境などについて説明する。 【第5回】国際マーケティング調査 国際マーケティング調査の実施理由、国際マーケティング調査の方法論及びプロセスについて学ぶ。 【第6回】国際市場細分化戦略 国際市場細分化の重要性、国際市場細分化の基準、国際市場細分化の3つのシナリオについて理解する。 【第7回】国際市場参入戦略 海外市場に進出する際の参入方式(輸出・ライセンス・直接投資など)、参入時期の選択などについて学ぶ。 【第8回】国際製品戦略 製品の構成要素、製品の標準化と適応化戦略、標準化・適応化戦略の5つの類型について学習する。 【第9回】国際価格戦略 価格設定の領域、国際価格設定の影響を与える諸要因、国際価格設定の類型について理解する。 【第10回】国際流通チャネル戦略 流通チャネルの構造、国別に異なる流通構造、国際流通チャネルの選択基準などについて学ぶ。 【第11回】国際プロモーション戦略 国際広告と文化、広告の標準化・適応化戦略、グローバル広告のパターンについて学習する。 【第12回】グローバル・マーケティング戦略 プログラム、プロセス、ネットワークの概念を中心にグローバル・マーケティング戦略について学ぶ。 【第13回】総括(理解度確認と解説) これまでの授業内容及びテスト(最終テスト実施)を総括しながら、国際マーケティングの考え方について解説する。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	毎回manabaに記載する講義資料をダウンロードまたはプリントアウトし、事前に学習すること。また、基礎的な用語に関してはインターネットなどを活用して下調べしておくこと。 レポート課題あるいは小テストに備えつつ、授業内容をしっかり理解し、講義ノートなどで要点をまとめておくこと。 授業で解説した理論や事例と関連する事例（新聞・雑誌記事など）を探し、各自解釈・分析してみる。
成績評価方法・基準	本講義の成績は次の基準（平常点）に基づいて評価する。 具体的には、授業内に実施する小テスト・課題（約20%）、中間テスト（30%）、そして最終テスト（50%）を総合的に評価する。 詳細は、必要に応じて適宜授業内で説明する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（テストやレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書なし。 （参考文献） 金炯中『未来を創造する国際マーケティング戦略論』ミネルヴァ書房、2016年。 三浦俊彦・丸谷雄一郎・犬飼知徳『グローバル・マーケティング戦略』有斐閣アルマ、2017年。
履修上の留意点	毎回manabaを必ず確認すること。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IE221
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ID000500
講義名	国際人権法
担当者名	妻木 伸之
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目は、20世紀の後半に国際連合により推進された、人権尊重のための国際協力の歴史と現状の理解を目的とする。具体的には、世界人権宣言の採択や人権諸条約の締結、そこで定立された人権規範の内容や、履行状況を監視するための実施措置についても学習を深める。更に人権の主流化が実現したと言われる21世紀において、今後どのような発展が必要とされ、又いかなる課題が残されていて、早急な解決を迫られているのかを検討する。
授業の内容	本科目は、第2次世界大戦後、急速に発展・主流化した国際人権法の概要を講義するものである。 講義の前半では、国際人権法一般についてとりあげ、その全体的な姿について学ぶ。 なお、講義の後半では、特定の人権問題のテーマ(個別テーマ)についてとりあげ、より深い検討を行う予定である。また、国際人権法に隣接・重複する国際法の他の分野(国際刑事法・国際人道法)についてもとりあげ、国際人権法との重なりおよび相違などより広い理解にも努める。
科目の到達目標 (理解のレベル)	履修学生が国際人権法に関する基本的な知識を獲得することを、本科目の基本的な到達目標とする。 その上で、追加的な目標として、履修学生が人権に関連する諸問題・課題を、国際人権法の観点から検討できるようになることも設定する。
授業形態	講義
授業方法	対面での講義形式での実施を基本とする。 manabaを通じて、講義レジュメおよび復習用の資料などをファイルで配布するとともに、試験および休講などのお知らせを行う予定であるので、講義前後に各自確認すること。
授業計画	【第1回】導入(1): 国際法の特徴(復習)・国際法における「個人」の地位 【第2回】導入(2): 国際人権法の歴史的展開—「人権」の歴史 【第3回】「国際人権章典」—世界人権宣言と国際人権規約 【第4回】さまざまな普遍的国際人権条約と地域的国際人権条約 【第5回】国際人権の実現(1): 日本の国内法体系における実現 (議論の前提として、国際法の国内法体系での取扱い含む) 【第6回】国際人権の実現(2): 国際人権規約の履行確保制度 【第7回】国際人権の実現(3): その他の国際人権条約の履行確保制度 国連の人権機関・地域的な人権機構 【第8回】個別テーマ(1): 古くて新しい難民問題—出入国に関する国家の権限と人権 【第9回】個別テーマ(2): 国際人権法と日本国憲法—「表現の自由」などをめぐって 【第10回】個別テーマ(3): 企業活動と人権 【第11回】国際人権法の隣接分野(1): 国際刑事法—人権と犯罪? 【第12回】国際人権法の隣接分野(2): 国際人道法—武力紛争における人権? 【第13回】まとめ—国際法による人権保障をふりかえる (諸般の事情により、変更・修正の可能性があるので留意)
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	授業計画などを参考に、講義前に、教科書の関連箇所に目を通すことを推奨する。 また、講義後には、配布する資料および教科書・参考書などで、講義内容をふりかえっておくこと(特に、欠席した場合は、復習用の資料に必ず目を通すこと)を推奨する。 なお、自学では不明な点は、講義前後・講義内での質問で、解消することを薦める。
成績評価方法・基準	定期試験期間中の実施する筆記試験(ただし、期末レポートへの変更の可能性あり)100% 1回の筆記試験(またはレポート)のみで評価するので、しっかり準備すること (試験の方式・参照物などの詳細については、講義内およびmanabaで周知します)。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	試験実施後に、manabaに解答のポイントを簡単に説明する資料を用意する予定である。
教科書・指定図書	(教科書) 横田洋三編『国際人権入門』法律文化社、2021年 なお、このほか、講義用のレジュメ・資料を配布する。 (参考文献)その例として、 森川幸一ほか編著『ビジュアルテキスト国際法(第3版)』有斐閣、2022年 芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法(第2版)』信山社、2017年など なお、条約集および判例資料集などがあると便利です。
履修上の留意点	法学概論・国際法入門(その他国際法系の科目)を履修済みまたは並行して履修することが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IE211
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ID000600
講義名	国際政治学
担当者名	向 和歌奈
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本講義は、政治学をベースにした国際関係論の中・上級科目である。国際政治学の理論や諸問題(issues)を最先端のところまで、しかも包括的に、採り上げていきたい。入門的な科目と比較した場合、抽象的な概念や理論も学ぶことになる。しかしながら、国際政治学はあくまでも社会科学に属するひとつの「学問」であって、時事問題の単なる集積ではない。したがって、相対論や量子力学等のない物理学などあり得ないのと同じように、いわゆる「パラダイム」(クーン)のない国際政治学もあり得ないのである。以上の点に、本講義の趣旨がある。
授業の内容	昨年「安全保障」という言葉をより一層多く耳にするようになった。では、国際安全保障には具体的にどのような課題があるのだろうか。本授業は、安全保障というキーワードを軸に、我々が生きる世界で起こるさまざまな国際情勢について理解を深めることを大きな目的とする。国際政治学のなかでも伝統的な概念として、その中核を担ってきた「安全保障」を学ぶということは、過去から現在に及ぶ世界に点在するさまざまな課題を理解することにつながり、現在そして未来を担う人材には不可欠な作業でもある。本授業はそのような考えをもとに、毎回特定のトピックを軸にしつつ、国際政治のなかでもとりわけ安全保障に焦点をあてて、課題を捉えるための理論、時代の流れ、そして主要な課題の整理など、さまざまな切り口から安全保障の諸問題について検討するとともに、それらを活用して時事問題を正確に理解し、また各自がそれぞれに思考する能力を養い、安全保障の問題が我々の身近な問題であることを確認する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	国際政治の理論、時代の流れ、世界に散見される主要な課題について、ニュースなどがより深く正確に理解するための、応用的な知識を身に付ける。 授業内容を正しく理解し、また学生自身が授業では補えなかったような部分をリサーチする意欲を養うことで、大学在学中はもちろんのこと、卒業後も自分自身がその一員である国際社会で起こっている、さまざまな事象に興味関心を持ち、理解をし続ける力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	講義形式での授業を実施する。毎回特定のテーマについて取り上げ、担当教員によるパワーポイントをを用いた講義を行う。履修生は、各自ノートをとりながら受講することが必須となる。講義の最後には、講義内容に沿った設問を提示し、responを通して回答を提出してもらう。設問への回答は、出欠確認も兼ねている。 なお、授業で使用するスライドは、授業支援システム(manaba)で授業終了後より適宜共有する。
授業計画	第1回目:「オリエンテーション」+「国際安全保障を学ぶ意義」 (内容) 国際安全保障とはどういった学問なのか。授業を通して何を学ぶのかについての全体像を把握するとともに、国際安全保障を軸にみる現在の国際社会について理解する。 第2回:「国際政治の理論(1) 現実主義、国際社会論、機能主義、新機能主義、国際的相互依存論」 (内容) 国際政治の理論のうち、リアリズムとリベラリズムについて、入門科目より具体的に深掘りして理解する。 第3回:「国際政治学の理論(2) 国際レジーム論、グローバル・ガバナンス論、デモクラティック・ピース論、コンストラクティビズム、政策決定論」 (内容) リベラリズムのさまざまな視点について第2回からの続きで理解を深めるとともに、コンストラクティビズムとの対比、および政策決定論について理解する。 第4回:「安全保障の概念」 (内容) 安全保障とはなにか。さまざまな安全保障の概念を概観しつつ理解を深めることを目指す。 第5回:「人間の安全保障」 (内容) 安全保障のうち「人間の安全保障」という視点に着目し深掘りしていく。 第6回:「権力移行と国際関係」 (内容) 冷戦終結後アメリカによって牽引されてきた国際社会は、中国の急激な台頭により一極支配構造が崩壊し、現在では米中関係に翻弄される構造をとる。このような米中関係がどのように国際政治に影響を及ぼしているのかについて理解する。 第7回:「核兵器と安全保障」 (内容) 1945年以降、国際政治の中核を担ってきたのが核兵器の存在である。核兵器がなぜ国際政治を動かしてきたのかについて理解する。 第8回:「日本と核兵器」 (内容) 日本は唯一の被爆国として積極的に核軍縮を主張してきた。他方で、日本はアメリカの核の傘(核抑止)に頼る安全保障政策を遂行する。このような矛盾についての考えを整理し理解する。 第9回:「情報と安全保障」 (内容) 偽情報(ディスインフォメーション)は、我々の生活に深く浸透し、時には国際政治を動かす。なぜだろうか。ディスインフォメーションについての理解を深める。 第10回:「保健分野と安全保障」 (内容) コロナウィルス感染症の世界的な拡大と蔓延によって、国際政治は大きく揺らいだ。だが感染症が国際社会を動揺させたのは、今回が初めてではない。感染症と国際政治について振り返りながら、どのような課題が提示されてきたのかについて理解する。 第11回:「日本の安全保障政策の変容」 (内容) 国際政治では新たな安全保障の課題の台頭や、国家間対立が絶えない。そのなかで日本はどのような安全保障政策を展開してきたのだろうか。そしてそれが現在、どのように変化していつているのだろうか。国際安全保障の分野における日本の政策と課題について理解する。 第12回:「揺らぐ国際政治の未来」

	(内容)動揺し続ける国際政治について総合的に整理し考える。 第13回:「まとめ」 (内容)授業を通して学んだことを、課題形式で確認する。 ※ なお、国際情勢の変化に鑑みて、授業内容を場合によっては変更することもある点に、留意すること。また、上記講義中2回程度は外部の専門家による講義も可能であれば実施予定である。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	授業中の講義が中心となるが、授業で学ぶ内容は、時間の制限上、限定的になる。そこで、常日頃より新聞を読む習慣を身に付け、世の中で起こっていることを理解し、知見を蓄積していくことが、講義を受ける前提となる。また、参考図書に挙げる文献のみならず、積極的に図書館などを活用して、国際政治や国際安全保障に関連する書籍を読むことで、知識を身に付ける。 授業後は、授業中にとったノートをいまいちど見直したうえで、整理しなおす復習が求められる。また必要に応じて、理解不足の範囲は参考文献等を活用して、補足のためのリサーチを行う。これに加えて、新聞やニュースを通して最新の国際動向を継続的にチェックし、授業の内容と照合していくことで、自身の知見を深めていくことが求められる。
成績評価方法・基準	成績評価は、以下のとおり行う。 (1)授業内課題(授業内に課す課題の内容を点数化して、採点を行う。各回の課題を5点満点として評価し、授業内で行う最終課題を除く12回の講義での点数を合算する):60% (2)最終課題(第13回目授業内で実施予定です):40% 上記を足し合わせたうえで、100点満点中、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下をDとする。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は指定しない。毎回授業時にmanabaにてその回の資料を配布する。 【参考図書】 ・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将『国際政治学をつかむ』有斐閣、2023年。 ・中西寛、石田淳、田所昌幸編『国際政治学』有斐閣、2013年 ・ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ著、田中明彦、村田晃嗣訳『国際紛争:理論と歴史[原書第10版]』有斐閣、2017年。 ・高坂正堯『国際政治—恐怖と希望』中公新書、1966年。
履修上の留意点	授業で触れる諸問題について包括的に理解するとともに、重要な用語や概念についての的確に説明ができるようになることは当然ながら、それらを活用して新聞やニュースを読み解く力を養うことを目指すため、「国際政治入門」を履修した「後」に本授業を履修することが望まれる。したがって、同じ学期中に「国際政治入門」と「国際安全保障論」を履修することは推奨しない。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IE322
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ID000800
講義名	国際機構と法
担当者名	秋月 弘子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	今日では、国家と同様に国際社会における主要な行為主体として認識される国際機構の重要性を理解させ、国際社会における国際機構の役割、国家と国際機構の関係、国際機構を通しての国際法の発展などを理解させる。カリキュラム体系上では、法学概論→国際法学→紛争解決と国際法、と続く国際法制科目の応用科目である。
授業の内容	国際機構の目的、組織、権限などに関する理論、および、安全保障、人権・人道、開発、環境などの各分野における国際機構の活動の実態と、それを支える法について学習する。 それにより、国際機構が国際法理論を修正している現状、および、国際法領域の中の国際機構法という新たな法領域とその特徴、などを理解させる。 具体的には、国際機構の定義・歴史、国際機構と法の関係、国際機構の設立・組織構造、意思決定手続・予算、国際機構と国家の関係、国際機構の法主体性、国際機構相互の関係、安全保障・平和行動の分野における活動、武力紛争の事例と国連の対応、人権の国際的保障、人道支援、開発援助、さらには、国際機構による国際法の変容について、具体的な事例を取り上げ、考えていく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講義を履修することにより、学生は、国際機構とは何か、どのような分野においてどのような国際機構が活動しているのかについて、理解することが目的である。 学生は、具体的な国際問題に関連する国際法(条約)にはどのようなものがあるのか、その問題に取り組む国際機構にはどのようなものがあるのか、各国はその問題に対して国際法、国際機構を利用してどのように解決しようとしているのか、解決できないとしたら何が問題なのか、を自ら調べ、考え、国際法に照らした一応の判断を出せるようになることが目標である。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム(manaba)で事前に課題や資料を配布する。 学生は、配布された資料や指定された教科書を読んだ後、課題に取り組み、提出した上で、授業に参加する。 授業は、原則として、対面授業で実施する。 授業支援システムはmanaba、出席管理システムはresponを使用する。 基本的には講義を中心に授業を進めるが、適宜、視聴覚教材を用いたり、答案の書き方を練習したり、課題や時事問題に関する討論も行う。
授業計画	1. 講義概要説明 (なぜ国際機構について学ぶのか) 2. 国際機構法総論 (国際機構の定義、歴史、国際機構と法) 3. 国際機構と法(1) 国際機構の設立、組織構造 (設立基本条約、三部構成) 4. 国際機構と法(2) 意思決定、予算 (全会一致、コンセンサス、加重表決、拒否権、決議の法的効果) 5. 国際機構と国家の関係 (原加盟国、加盟要件、代表権、権利義務、加盟国の主権と国際機構) 6. 国際機構の法主体性 (国際法主体、国内法主体、ベルナドッテ伯爵殺害事件、国際機構の特権免除) 7. 国際機構相互の関係 (専門機関、連携協定、地域的機関) 8. 安全保障 (国際連盟、戦争の違法化、集団安全保障、集団的自衛権) 9. 平和維持・平和構築 (PKOの原則、平和構築委員会、人間の安全保障、武装解除・動員解除・社会復帰) 10. 武力紛争の事例と国連の対応 (武力行使容認決議、多国籍軍、人道的介入/保護する責任、先制自衛) 11. 人権の国際的保障 (国際人権基準、履行監視制度、人権理事会、普遍的定期的審査(UPR)、人権基盤アプローチ) - 人道支援 (難民条約、難民の国際的保護と法的地位、難民問題の恒久的解決、国内避難民) 12. 開発援助(開発援助の形態、持続可能な開発目標 (SDGs)、貸付協定、人間開発) 13. 国際機構と国際法の変容 (国際社会の制度化、国際法と国際機構法)、まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	事前にmanabaで課題を出すので、各自で教科書、資料等を読み、課題に取り組み、提出した上で、授業に参加すること。 課題は、成績評価方法・基準の欄に示す通り、30パーセントを占める。各自しっかり取り組み、分からないことがある場合には、メール等で問い合わせること。
成績評価方法・基準	期末試験：70% 課題の提出状況・内容および平常点（積極的な発言、議論への参加の程度）30%に基づいて、総合的に評価する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書： 渡部茂己・望月康恵編著 『国際機構論 総合編』 国際書院、2015年。 指定図書： 加藤・植木・森川・真山・酒井・立松編著『ビジュアルテキスト国際法』有斐閣、2017年。 岩沢雄二『国際法』東京大学出版会、2020年。 参考文献：講義の中で適宜指示する。
履修上の留意点	本講義は、「法学概論」、「国際法入門」、「国際人権法」、「紛争解決と国際法」を履修していることを前提として進める。したがって、これらの科目を未履修の学生は、法学の基礎知識、および、国際法の基礎を身につけるよう、早急に自習すること（参考テキスト：加藤・植木・森川・真山・酒井・立松編著『ビジュアルテキスト国際法』有斐閣、2017年）。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IE313
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ID000900
講義名	比較政治論
担当者名	川中 豪
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	政治学の応用科目であり、戦後の米国において発達した学問分野である。各国の政治体制の特質を概念的に把握するとともに、民主主義体制の定着という重要問題にアプローチする。内容的には、比較政治学の歴史と基本概念の解説、民主主義概念の起源と展開の説明をまず第一とする。更に、先進国における民主政治の諸形態と課題、途上諸国における民主化の起源と課題についての説明を加える。具体的には、1970年代以降に民主化を開始した、南欧、ラテンアメリカ、中東欧、旧ソ連、東アジア諸国を主たる考察対象とする。
授業の内容	実証主義的なアプローチに基づき、国内政治の諸問題を理解し、説明しようとするのが比較政治学です。本科目では、その基本的な概念、理論、実証を学び、日々発生する政治現象を比較政治学という道具を使って理解できるようになることを目的とします。授業では、比較政治学の入門的教科書に沿って主要なトピックを丁寧に理解していきます。さらに教科書の記述を超えて発展的な問題も取り上げる予定です。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1. 比較政治学の基本的な概念、理論、実証の成果に関する知識を得る。 2. 比較政治学の理論と方法を使って、各国の政治現象を説明できるようになる。
授業形態	講義
授業方法	パワーポイントのスライドを提示しながら説明する講義形式とします。授業日までにその日の授業に関連するパワーポイントスライドをmanabaに掲載する予定です。授業内で参加者に対して口頭でコメントを求めることも考えています。なお、毎回の授業でその日に学習したことについて小テストを実施します。
授業計画	【第1回】イントロダクション: 比較政治学の考え方 比較政治学の対象と基本的な考え方の紹介。記述、説明、検証という作業について解説します。 【第2回】国家 主権を軸に国家の性格を解説します。 【第3回】民主化 民主化の原因とプロセスを説明します。 【第4回】民主主義体制の持続 民主主義が持続する条件を示します。 【第5回】権威主義体制の持続 権威主義の強靱さを支える条件を説明します。 【第6回】内戦 内戦の発生と継続の要因を説明します。 【第7回】執政制度 政府の形態、特に大統領や内閣の特徴とその違いが生む帰結の相違を説明します。 【第8回】政党制度 政党のタイプ、政党システムのタイプを提示した上で、それが生み出す影響を説明します。 【第9回】軍 政治と軍の関わりについて説明します。 【第10回】社会運動 社会運動のタイプや社会運動が生み出す帰結について説明します。 【第11回】民族集団 民族としてのアイデンティティが及ぼす政治的影響について説明します。 【第12回】民主主義の質 民主主義の質、特に統治の質について説明します。 【第13回】新自由主義改革 政治と経済の関係、特に新自由主義と呼ばれる市場重視の政策について解説します。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	教科書の該当章に事前に目を通し、学習内容について把握しておいてください。事前に完全に理解していなくても、何が対象となっているのか、そして、わからないことがあれば、自分は何が理解できていないのかを自分なりに整理しておくことが肝要です。また、各回のトピックに関係のある問題について、授業中に学生に対して質問することもあるので、常に新聞・テレビ・その他のメディアで日本を含め世界の政治の動きに注意を払っておいてください。事後には授業での要点を整理し、理解を深めるようにしてください。
成績評価方法・基準	評価の構成と比重は、(1) 授業中の小テストで40パーセント、(2) 学期末試験で60パーセントとします。
課題(試験やレポート等)につ	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

いてのフィード バック方法	
教科書・指定図 書	【教科書】 久保慶一・末近浩太・高橋百合子(2016)『比較政治学の考え方』有斐閣。 個々のトピックについてさらに深めたい時には、内容がやや高度ですが、以下の参考書をお薦めします。 【参考書】 粕谷祐子(2014)『比較政治学』ミネルヴァ書房。
履修上の留意 点	本授業の内容を十分理解するために、他の政治学系科目を合わせて履修することを推奨します。また、何よりも各国の政治現象に関心があることが重要です。なお、毎回小テストを実施するので、欠席があった場合は小テストでの得点とその分減ることに留意してください。また、わからないことがあれば、躊躇せず、質問してください。 授業に関する連絡は授業中の口頭での伝達のほか、manabaに掲示します。manabaで掲示したものは連絡が伝わったという前提で進めますので、注意して確認してください。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IE212
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1ID001200
講義名	アメリカの政治と外交
担当者名	伊藤 裕子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	本科目は、今日の国際関係において大きな影響力と発言力を持ち続けるアメリカ合衆国の内政と外交の基本的特質を理解することを目的とする。あわせて国際関係理論モデルの実証的検証にも努める。具体的にはアメリカの政治理念と政治機構の変遷、諸外国への政治・経済・軍事的な関与、国際秩序形成における影響力の行使、さらには国内の政治要因としての民族・宗教・ジェンダー等にも目を配りつつ、国際関係におけるアメリカの存在とそのパワーの盛衰を包括的に理解する。
授業の内容	国際関係の政治・軍事・経済・文化等、様々な分野で絶大な影響力を行使するアメリカを理解することは、国際社会を理解するうえで必須である。本講義では、そうしたアメリカの政治と外交を時系列的に考察する。 まずアメリカの政治理念を理解するために、独立宣言と合衆国憲法を学ぶ。そしてアメリカ的価値観がアメリカの国内政治と外交政策に現れる理念と現実の間のギャップにも着目しつつ、アメリカの民主主義がどのように変容してきたのかを歴史的・重層的に理解する視点を提供する。学期前半においては国内政治、特にアメリカの価値が表出され、あるいは国内の分断が見られるトピックを取り上げる。後半には外交政策に注目し、自由、民主主義、人権といったアメリカの価値観がどのように表出されるのか、そしてそれらの価値観と現実の外交政策との間のギャップがなぜ存在するのかを検証する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	アメリカの政治機構と政治理念の発展、アメリカ社会を分断する様々な価値観を学ぶ。また、それらが国内政治と外交政策にどのように表れ、世界の中心的アクターとしてのアメリカ合衆国がどのように国際関係に影響を与えているのかを理解する。 アメリカへの留学を考えている学生は、本講義を履修することによりアメリカへの理解を事前に深めることが可能となる。
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。パワーポイントを使って解説し、時折オンラインの動画等も利用する。
授業計画	第Ⅰ部 アメリカの政治理念と政治制度 【第1回】アメリカの政治理念 アメリカ独立宣言と合衆国憲法に見られる政治理念 【第2回】アメリカの政治制度と大統領選挙 アメリカの選挙、議会制度、3権分立といった政治制度、特に異例の事態に陥った2020年大統領選挙の問題点とそのアメリカ民主主義への影響 第Ⅱ部 現代アメリカ社会と国内政治－民主主義の在り方を模索して 【第3回】ブラック・ライブズ・マターとアメリカの人種差別との闘い 400年に及ぶアメリカ人種差別の歴史と差別撤廃のための戦いの歴史 【第4回】歴史と多様性をめぐるアメリカ社会の包摂と分断(1) 移民国家アメリカ 【第5回】歴史と多様性をめぐるアメリカ社会の包摂と分断(2) ジェンダー、銃問題、民主主義の定義 【第6回】前半のまとめと中間テスト 第Ⅲ部 現代アメリカの外交関係 【第7回】現代国際関係とアメリカのインド・太平洋戦略(1) トランプ・バイデン政権の対中政策 【第8回】現代国際関係とアメリカのインド・太平洋戦略(2) オバマ政権からトランプ政権のアメリカ・ファースト主義外交、そしてバイデン政権へ 第Ⅳ部 覇権国家アメリカと国際秩序 【第9回】覇権国家アメリカと戦後国際秩序の構築－アメリカの帝国主義的膨張と二つの世界大戦 【第10回】冷戦と戦後世界秩序(1) 冷戦構造の起源とヨーロッパ ヨーロッパにおける冷戦の始まりと進展 【第11回】冷戦と戦後世界秩序(2) 冷戦の進展とアジア アジアにおける冷戦の拡大状況と朝鮮戦争、ベトナム戦争 【第12回】冷戦終結とポスト冷戦期のアメリカ外交 【第13回】まとめと授業内テスト 上記を予定しているが、適宜時事問題も取り入れて解説することもあるため、変更が生じる可能性もある。また、進捗状況により定期試験期間に試験を実施することもある。

事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	【事前学修】 アメリカの政治外交に日ごろから関心を持ち、よく理解しておく。また短い新聞記事、論文、統計資料などを配布するので、必ず事前に読んでくること。CNN、New York Times等のアメリカのメディア報道にも関心を持ち、アメリカ現代政治外交の動向を理解しておくこと。 【事後学修】 テキストと授業を復習し理解を深めておくこと。また小テストを実施するので、その準備と小テスト実施後の復習も各自でしておくこと。
成績評価方法・基準	学期中に適宜実施する小テストと課題により50%、中間テストと期末テストにより50%を評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は特に指定しない。毎回レジュメ、資料、新聞記事等を配布する。
履修上の留意点	前提科目として政治学概論、法学概論、日米関係入門など、グローバルガバナンスコースの1年次科目を履修していることが望ましい。 また、3、4年次科目の「外交政策論」、あるいは次年度開講の「アメリカ・アジア国際関係論」の受講を希望する場合には、本科目を履修しておくことが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IF331
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1IE000700
講義名	環境と開発
担当者名	福岡 崇
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、開発途上国における環境問題を講義する。地球環境問題は現代社会において差し迫った課題である。特に開発途上国においては経済開発によって伝統的な生業様式の変容とそれに伴う環境の破壊、劣化が進行している。この科目では学生に開発途上国における環境問題の実状と原因を事例に基づき理解させ、環境問題が社会に与える影響を理解させると共に、持続可能な開発のあり方を考えさせることを目的とする。
授業の内容	この科目では、開発途上国における環境問題を取り扱う。地球環境問題は現代社会において差し迫った課題である。近年の環境問題はグローバル化、越境化、加害者・被害者関係の複雑化などによって特徴付けられるが、開発途上国は多くの地球環境問題において、主たる起因者ではないにも関わらず、その悪影響を甚大に被る被害者でもある。 この科目では気候変動問題、エネルギー問題、森林減少問題などを取り上げ、学生自身が開発途上国における環境問題の実情と原因を事例に基づき理解し、環境問題が社会に与える影響を理解すると共に、持続可能な開発の観点から、トレードオフの関係にあるとされる環境と開発のバランスのあり方を考えることを目的とする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	環境・開発問題においては何が正しいのか、どのようなアプローチが正しいのかなどについて「絶対的な正解」などなく、個々の国や地域、アクターごとに異なる見解・立場が存在する。こうした「多様性」に対する理解・姿勢を養うと共に、この理解をもとに諸問題に関する現状や課題を様々な視点から吟味した上で、「持続可能な開発」のあり方について学生が自分なりの視点で考え、判断出来るようになることがこの科目の到達目標である。
授業形態	講義
授業方法	授業は対面式の講義形式を基本として実施する。各回の資料配布及び課題提出は授業支援システム(manaba)を活用する。講義の際に課す課題については、提出された課題に基づき講義を行う場合もあればその日の講義内容をさらに深めるためのものもあることから、毎回の課題については決められた期限までに必ず提出すること。 詳細については、受講生の学習環境を勘案したうえで初回講義の際に指示する。
授業計画	【第1回】イントロダクション:「世界がもし100人の村だったら」を題材に 【第2回】タンザニアの生活(1):最貧国(LDC)の1つであるアフリカ・タンザニアの多民族性、政治、貧困、教育などの現状・課題 【第3回】タンザニアの生活(2):タンザニアの観光・環境開発 【第4回】タンザニアの生活(3):タンザニアの村落社会と格差問題 【第5回】気候変動問題:京都議定書・パリ協定の特徴・課題 【第6回】エネルギー問題(1):原子力エネルギーの特徴・課題 【第7回】エネルギー問題(2):RPS法とFIT制度の制定経緯、取り組みの成果・課題 【第8回】森林減少問題:多面的機能を有する資源としての森林の特徴、植林の難しさ 【第9回】企業の社会的責任(CSR)の現状・課題 【第10回】フェア・トレードの現状・課題 【第11回】廃棄物処理問題:特にプラスチックゴミ問題、海洋ゴミ問題に焦点を当てて 【第12回】世界遺産とツーリズム:観光が環境・資源に与える影響 【第13回】環境と開発のトレードオフ ※ただし、最新のトピックスについても適宜取り上げるため、講義の内容・順番が一部変更になる可能性がある。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	講義でも取り上げるため、世界各国の環境と開発に関する最新のニュースを常にチェックし、理解するよう努めること。 提出された課題に基づき講義を行う場合には、事前学修として各自でちゃんと課題に取り組み、授業に臨むこと。その日の講義内容をさらに深めるための課題が課される場合には、事後学修としてその日の講義内容を改めてきちんと理解したうえで課題に取り組むこと。 いづれにしても、各回の学修を前提として講義が進むため、特に事後学修をしっかりと行い、前回の内容を理解したうえで翌週の講義に臨むこと。

成績評価方法・基準	目標「世界の多様性及び「環境と開発」に関する諸問題に対する知識の習得・理解」、「諸問題に対し自分なりの視点で考え、判断出来るような姿勢・能力の養成」 平常点30%、小レポート20%、期末課題(期末試験or期末レポート。現時点では未定)50%。 ただし、2/3 以上の出席・課題の提出を単位認定の前提とする。また、期末課題への対応(期末試験の受験／期末レポートの提出)は単位の必須要件である。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は特に指定せず、毎回授業支援システム(manaba)を通じ資料の配布を行う。 各回の講義の際に適宜指示する。
履修上の留意点	初回講義の際に説明するので、必ず出席すること。 なお、この講義概要／シラバスの内容は暫定的なものであり、講義を進めながら修正が行われ、詳細が示されるので、その指示に従うこと。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部国際関係学科
科目ナンバー	IF313
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1IE001600
講義名	比較文化論
担当者名	角田 宇子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	この講義では、文化人類学の概念を用いて、現代社会の諸現象を読み解くことを目的とする。この「現代の民族誌」は従来文化人類学ではあまり取り上げられてこなかった研究分野であるが、現在我々をとりまく国際社会で注目を集め、今後ますます重要になる課題群であるといえよう。
授業の内容	人類はその歴史の中で、狩猟採集、牧畜、農耕という伝統的な生業様式を編み出すことで、地球上の様々な場所で生存することを可能としてきた。本講義ではまず、多様な自然環境への人間の適応手段として、狩猟採集民、牧畜民、農耕民の伝統的生業様式を紹介する。その上で、これらの社会が近年世界システムや国家のシステムに編入されることにより、本来その地域の自然環境に最も適応していたこれらの人々の生業が成り立たなくなり、国家の中での周辺化と貧困化を伴う社会変容が生じていることを説明する。 次に現代のグローバルな国際社会において重要な課題の一つといえる先進国と開発途上国の格差(南北格差)と開発途上国が抱える低開発に目を向ける。これらの問題には国、地域ごとに様々な要因が存在しているが、本講義ではその中の歴史的要因に焦点を当て、文化人類学の視点を用いて、非西洋社会から見た歴史を辿りながら解説していく。講義ではまず非西洋社会が西洋社会に植民地化され、世界システムに編入されることで、経済・政治・社会・文化的に大きく変容し、自律性を失い、西洋社会に従属化される過程を見ていく。さらに、これらの社会は独立後は多民族を擁したまま国民国家の形成を目指す、冷戦終結後、先住民族問題、エスニシティ問題、民族紛争など、元々国家が抱えていた矛盾が表面化し、国家が分裂し細分化されるような様々なゆらぎが内部で生じていることを解説する。一方で現代社会において国境を越えて経済、政治、文化が一体化する現象であるグローバリゼーションにも目を向け、グローバル化が社会にもたらす影響について見ていく。 これら現代社会の諸現象に対しては、経済学、政治学、社会学など様々なディシプリンによりアプローチが可能であるが、ここでは文化人類学のアプローチによってこれらの課題を捉えていく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	上記の現代社会の諸現象を文化人類学の視点から理解することを目指す。またそれを通じて、現代の国際社会における先進国と開発途上国との格差、開発途上国の低開発が生じる歴史的要因について理解することを目指す。
授業形態	講義
授業方法	対面式授業を行う。 manaba、Responを使用する。適宜DVD視聴を行う。 授業支援システム(manaba)で事前に配布された資料を読んだ後、授業の前半に各自課題に取り組み、また質問をResponで提出する。(授業内容に関してもっと詳しく・わかりやすく解説(講義)してほしい箇所、用語の意味・解説などどんな質問でもよい。)授業の後半では資料の講義・解説及び質問への回答を行う。 第1回から第3回まで、及び第12回の講義では講義時間内にDVD(50分)を視聴する予定である。その他の回でも適宜DVDを視聴する。 質問を提出でき、また課題に十分解答できるよう、事前に配布された資料をよく学習した上で授業に臨むこと。 なお、各回の授業方法は以下のとおりを予定している。 ①受講生は事前に配布された資料を読み、課題の準備しておく。 ②授業開始後その日の授業のテーマについてまず自分なりに考えるために、Responで導入クイズに解答する。 ③受講生は3回の授業セッションにおいて、資料を学習し、課題に取り組む。質問があればResponで提出する。(授業中にビデオを視聴する場合は、自己学習の時間は短くなるので、その時の授業運営方法を確認すること。) ④スライド資料の講義・解説及び質問への回答を行う。授業中に紹介された質問のうち、良い質問については課題の加点を行う。 ⑤受講生は課題に解答し、manabaを通じて提出する。(当日中)(課題レポートは100字以上、200字程度。ただし解答は無理に短くする必要はない。長くなっても構わない。) ⑥授業終了後、授業で分からなかったことと授業の感想を書いてResponで提出する。(当日中) ⑦翌日0:00からmanabaのコースコンテンツで課題の解説が公開されるので、自分の解答と照らし、自分の解答が適切であるか、確認する。
授業計画	第1回 自然環境と生業の多様性(狩猟採集民) 内容:人間の生業様式、狩猟採集民の生業様式、狩猟採集民の社会(平等主義)、DVD視聴(狩猟採集民パカ・50分) 第2回 自然環境と生業の多様性(狩猟採集民の社会変容) 内容:狩猟採集民の事例(サン):サンの生業様式、サンの社会制度、近代化による狩猟採集民の社会変容、DVD視聴(狩猟採集民の社会変容サン・50分) 第3回 自然環境と生業の多様性(牧畜民) 内容:牧畜民の生業様式、牧畜民の社会制度、近代化による牧畜民の社会変容、DVD視聴(牧畜民レンディーレ・50分) 第4回 自然環境と生業の多様性(農耕民・焼畑移動農耕民) 内容:農耕文化の類型、焼畑移動農耕民の生業様式、焼畑移動農耕民テンボ、DVD視聴(農耕民コンソ・25分) 第5回 国家の成立とゆらぎ(植民地主義の成立と展開) 内容:西洋における大航海時代と産業革命、植民地主義の成立、植民地主義の拡大、DVD視聴(大航海時代の残照スリランカ・ゴール12分) 第6回 国家の成立とゆらぎ(植民地主義の影響) 内容:植民地主義の伝統社会への影響、民族独立運動と植民地主義の終焉、人類学者と植民地主義との関わり 第7回 国家の成立とゆらぎ(植民地主義の現代の社会への影響・世界システム論) 内容:世界システム論とは、資本主義の世界化、世界システムへの接合(経済的变化、社会・文化的変化)、世界システムの接合の事例 第8回 国家の成立とゆらぎ(植民地主義の現代の社会への影響・オリエンタリズム、ポスト・コロニアリズム) 内容:オリエンタリズム、新植民地主義、ポスト・コロニアリズムの状況

	第9回 国家の成立とゆらぎ(国民国家) 内容: 国民国家とは、ナショナリズム、国民統合の手段としての国民文化の形成、国民国家形成の事例・インドネシア 第10回 国家の成立とゆらぎ(先住民族問題・先住民族運動) 内容: 先住民族とは、先住民族運動(アメリカ先住民の事例)、世界の先住民族復権の動向、先住権 第11回 国家の成立とゆらぎ(エスニシティ問題) 内容: エスニシティ現象の興隆、エスニシティ概念の理論(実体論、用具理論・状況理論、エスニック・バウンダリー理論)、エスニシティの政治性 第12回 国家の成立とゆらぎ(民族紛争) 内容: 民族紛争発生の要因、民族制支配(エスノクラシー)、民族制支配と植民地統治、民族紛争の事例・ルワンダ、DVD視聴(ルワンダ平和構築・50分) 第13回 国家の成立とゆらぎ(グローバリゼーション) 内容: グローバリゼーションとは、越境者の増大、文化と社会のグローバル化、グローバリゼーションの肯定論・否定論
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学修 ①授業支援システム(manaba)で事前に配布された資料を読んでおく。 ②資料を読んだうえで課題の作成準備、質問の準備を行う。 事後学修 ③課題に解答し、manabaを通じて提出する。(当日中) ④授業終了後、授業で分からなかったこと(授業への質問)と授業の感想をResponを通じて提出する。(当日中) ⑤翌日0:00からmanabaのコースコンテンツで公開される課題の解説を見て、自分の解答が適切であるか、確認する。 ⑥授業で提出した課題について課題の解説に基づき復習し、最終レポートへの準備を行う。
成績評価方法・基準	毎回の課題: 80%、最終レポート: 20%。授業中に紹介された質問のうち、良い質問については課題の加点を行う。 なお、課題レポートについては配布されたテキスト(スライド資料)を読んで、そこから得られる情報を要約して書くこと。これはテキストの内容をよく勉強するためである。ただし、スライド資料の文章を丸写し(コピペ)した解答は不合格となる。またスライド資料以外の資料(インターネット資料、生成AI等)を参照して書いた場合は不正行為(カンニング)とみなし、不合格となるので、十分注意すること。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(レポート)の解説についてはmanaba上でおこなう。(授業翌日0:00時にmanabaのコースコンテンツに課題の解説を公開するので、自分の解答と照合し、自分の解答が適切であるか確認する。)
教科書・指定図書	教科書: 授業資料は授業支援システムを通じて指示、または配布する。 指定図書: 特になし。 主要参考図書: ① 江淵一公『文化人類学—伝統と現代』放送大学教育振興会 ② 米山俊直編『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社。 ③ 米山俊直・谷康編『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社。
履修上の留意点	「文化人類学入門」などを通じて、人間の文化を比較・研究する上での基礎概念を理解していることが望ましいが、これらの科目を履修していなくても受講は可能である。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011100
講義名	地域言語(中国語)中級 I A組
担当者名	徐 送迎
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、中国語初級学んだ学生を対象に、1200語前後の単語を使用した中級文法(①補語、②アスペクト、③処置文、存現文等各種文、④等位複文で常用される相関語句等)の学習を行う。授業では、講師による文法の解説と練習問題を併用した方式を採用し、上記の学習内容の定着を図ることで中国語検定試験3級に合格出来るだけのレベルに到達することを目標とする。
授業の内容	この授業は『仲間て話そう 中国語』という青春や友情、旅をテーマとしたテキストを用い、アメリカ人大学生や、中国人大学生、日本人新米社会人といった主人公を通じて展開されている。学習者自身がその主人公になって、旅に出たり、友達を作ったり、熱く夢を語り合ったりして、楽しんでいるうちに中国語の読む、聴く、話す、書く総合的な能力を高めていくことを目指す。同時に、今まで学習した文法事項を復習しつつ、作文したり、翻訳する技能のトレーニングも合わせて行う。読む力をしっかり身につけるように頑張ってもらおう。 * 履修する学生の中国語レベルや要望によって予定の変更があります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	下記の目標をもって頑張て行こう。 1. 中国人の日常的な会話を理解できる 2. 簡単な現代中国語の文章を読める。 3. 日常の事柄を中国語で表現でき、日常のコミュニケーションにおける会話表現を習得する。 4. 習得した文法事項を正確に把握していき、作文もできる。 5. 読む、聴く、話す、書く、翻訳するといった総合的な能力が一段と向上する。
授業形態	演習
授業方法	2回1課のテンポで学習し、教員と学生の双方とも毎回明確な目標を持って授業に臨む。一つの課の文法と本文を終了した後、トレーニングをし、学習の効果を確認する。105分授業の間、内容や形式の様々なバリエーションによって学習の効果を高め、中国語の楽しさと達成感を実感してもらう。暗唱練習や、グループによる会話練習もしたりする。毎回小テストを行う。
授業計画	【第1回】第1課 认识一下儿好吗? (語句、本文、ポイント) 1. 助動詞“会”(1) 2. 介詞“在~” 3. 動量補語 4. “是~的”構文 5. 助動詞“想” 【第2回】第1課 认识一下儿好吗? (トレーニング1-5) 【第3回】第2課 想去的地方很多 (語句、本文、ポイント) 1. 介詞“给~” 2. 複文“除了A,还(也)B” 3. 動詞“打算” 4. 反語文“不是~吗” 5. “连A都(也)B” 【第4回】第2課 想去的地方很多 (トレーニング1-5) 【第5回】第3課 好久不见 (語句、本文、ポイント) 1. 動態助詞“了” 2. 複文“一边A, 一边B” 3. 様態補語 4. 使役文 5. 二重目的語 【第6回】第3課 好久不见(トレーニング1-5) 【第7回】第4課 让爱子去旅行(語句、本文、ポイント) 1. 複文“因为A, 所以B” 2. 助動詞“要” 3. 助動詞“应该” 4. 複文“如果A(的话), 就B” 5. 助動詞“会”(2) 【第8回】第4課 让爱子去旅行 (トレーニング1-5) 【第9回】第5課 外国人都喜欢吃(語句、本文、ポイント) 1. 複文“先A, 然后B” 2. 複文“A是A, 不过B” 3. 可能補語 4. 複文“不管A, 都B” 5. 複文“既A, 又B” 【第10回】第5課 外国人都喜欢吃 (トレーニング1-5) 【第11回】第6課 今天我请客 (語句、本文、ポイント) 1. 複文“不但A, 而且B”

	2. 複文“要么A, 要么B” 3. “提议”の使い方 4. 語気助詞“了” 5. 結果補語 【第12回】第6課 今天我请客（トレーニング1－5） 【第13回】まとめ（理解度確認と解説）
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学習の内容	中国語を覚えるために予習と復習が大事だ。教科書付属CDを聞き、本文を音読。次の授業で扱う課に目を通す。 1. 授業外でも携帯を利用して中国語発音を聞きながら覚えて行く。 2. 授業前に新出単語を必ず予習し、単語テストがある。 3. 授業後は学習内容を復習して、テキストの本文を繰り返し発音練習し、暗記できるように励む。 4. 文法への理解について事後宿題をしっかりとやる。 5. 授業中に会話練習をさせるので事前準備しておく。
成績評価方法・基準	定期試験：50％、平常点：50％。 * 平常点は授業への参加度、授業態度、宿題提出状況などを総合的に判断し評価を行う。受講態度として不適切な行動（私語、携帯の使用や着信、遅刻など）をとった場合は厳しく対処するし、逆に熱心に授業に参加する人は平常点で積極的に評価する。 * 定期試験は口答試験と筆記試験の2種類。場合によって両方とも行うことがある。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	『仲間で話そう 中国語』（初級から中級へ） 徐送迎著 朝日出版社 ISBN978-4-255-45320-0 C1087
履修上の留意点	本授業は出席と勉強に対する意欲を重視する。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011110
講義名	地域言語(中国語)中級ⅠB組
担当者名	王 紅艷
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、中国語初級学んだ学生を対象に、1200語前後の単語を使用した中級文法(①補語、②アスペクト、③処置文、存現文等各種文、④等位複文で常用される相關語句等)の学習を行う。授業では、講師による文法の解説と練習問題を併用した方式を採用し、上記の学習内容の定着を図ることで中国語検定試験3級に合格出来るだけのレベルに到達することを目標とする。
授業の内容	この授業は初級中国語の学習が完了した学生を対象とするため、正確な発音を定着させるよう、繰り返し発音練習を訓練する。同時に、様々な補語、アスペクト、処置文、存現文、多数の複文、慣用句などの中級文法を学習する。基本的に教科書を中心に授業を進めていくが、中国語検定試験3級に合格できるように文法を練習するための各種資料を使用する予定である。一方、リスニング能力を高めるために、音声資料や視覚教材などを利用して訓練することにする。学生の学習成果を確認し、表現力を高めるために、ディスカッションを行う予定である。また毎回小テストを行い、課題をやってもらふ。そのために復習が必須である。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業で半年の発音訓練を通じて、中国語を正確に発音できる。一方、教科書を中心に文法を学習するだけでなく、様々な中級レベルの文法資料を利用して作文を練習することによって簡単な中国語の文章を作成することができる。また、リスニングの訓練によって、日常的な中国語を聞くことができる。会話練習や芝居などを通じて中国語の表現力が高められ、中国人と簡単な対話ができる。こうして、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの能力が中級レベルに到達できる。
授業形態	演習
授業方法	教科書を中心に発音練習や問答練習を行ったあとにグループによる会話練習を行う。発音は正確にできるまで徹底的に訓練する。同時に文法を説明した後、それを利用して作文や翻訳の練習をしたり、教員と学生による問答練習をしたりする。この問答練習をまねて学生同士による会話練習を行う。文章力を高めるために複文や慣用句などの文法の補充教材を利用して作文の練習を行う。音声教材や視覚教材を利用してリスニングの力と表現力を高めたり、芝居を演じてもらって総合能力を確認したりする。
授業計画	【第1回】ガイダンスと復習 この授業の内容、進め方、小テストや成績評価の仕方などを説明する。また一年生の学習内容を復習し学生の中国語レベルを確認する。 【第2回】数字の学習 数詞、量詞、時点の表現、名詞述語文、所有を表す“有”の使い方の練習 【第3回】様々な述語文 方位詞、“有”、“在”の述語文、主述述語文、連動文、二重目的語、反復疑問文 【第4回】助動詞、前置詞の学習 金額の言い方、助動詞“想、打算”、前置詞“在、从、到、离、跟”、時間量などの練習。 【第5回】助詞などの学習 助詞“了”、“着”の使い方、比較文、現在進行の表現などの練習。 【第6回】様々な助動詞と前置詞の学習 助詞“过”、助動詞“会、能、可以、要、得”、前置詞“对、给、往、向”、存現文などの練習。 【第7回】復習 今まで習った内容を復習し、確認する。 【第8回】動詞の重ね型や離合詞などの学習 “是…的”の文、選択疑問文、動量詞、動詞の重ね型、離合詞、禁止の“别、不要”の練習。 【第9回】様態補語などの学習 様態補語、助詞“的”、構文“要是(…的话)…就…”、副詞“再、又”、兼語文などの練習 【第10回】結果補語、方向補語などの学習 結果補語、方向補語、複文“一…就…”“因为…所以…”、副詞“就、才”などの練習。 【第11回】可能補語、使役文の学習 可能補語、使役文、全部否定の「疑問詞+都/也」、複文の“虽然…但是…”の練習。 【第12回】“把”構文、受け身文などの学習 “把”構文、受け身文、兼語文、積極的な意味の“来”、複文“不仅…而且…”の練習。 【第13回】まとめとテスト
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	この授業は毎回小テストを行うため、授業が終わったら次回の小テストのための復習が必要である。また課題や芝居があるため、授業以外の時間を利用して課題の完成や芝居の練習をしなければならない。一方、新しい授業に入る前に新出単語の予習をする必要がある。小テストと課題は成績評価方法・基準欄に示す通り、70%、30%をそれぞれ占める。各自しっかり取り組み、分からないことがある場合はメールで問い合わせること。
成績評価方法・基準	毎回の小テストは70%を占め、最終テストは30%を占める。三分の二以上の出席が必須。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	筒井紀美、王紅艶『しっかり定着 聞ける、話せる中国語』朝日出版社、2024年
履修上の留意点	毎回小テストがあるため、出席が大事です。復習が必須です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011200
講義名	地域言語(中国語)中級ⅡA組
担当者名	王 佩民
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、中国語初級を学んだ学生を対象とする、原則、ネイティブ教員による、中国語の会話およびリスニング力の強化を目指した授業である。特に授業では、中国語検定3級の合格を目標に、同試験に合格できるだけのリスニング力を養う。
授業の内容	教科書は12課からなり、HSK検定試験の3級～4級レベルの基本知識を学ぶ。やさしい発音から出発し、徐々に中国で実際に使われる生きた中国語の語彙と仕組みをきちんと理解して、それを確実に自分のものに拡大していく。本書は日常生活において遭遇する場面を想定し、そこで使用される語彙や表現「謝る」場面や「褒められる」場面において中国人が使用する自然な言い回しが多く盛り込まれているので学習者は登場人物になり切り、音読・暗唱・会話を通して表現力を全員で演出する。外国語の技能には、読み、書き、話す、聴く、翻訳という五つの技能がある。学習者は五つの技能についてバランスよく技能を高めていくために教科書の他に時事中国語(旧正月、政治と経済、ネット流行語)などを取り入れて勉強して覚えてもらう。授業中に単語テストと会話の発表は随時行う。また、毎週に「造句」という宿題を提出すること。
科目の到達目標(理解のレベル)	本書は主にHSK検定試験3級～4級レベル語句を厳選している。各課の文法項目もHSK検定試験に良く出題されるものでその使い方を覚えて検定試験に対応することができる。 以下の目標を目指して頑張りましょう。 ①平易で自然な中国語を目指して中国最新事情を理解すること。 ②読み・聴く・話す技能の向上を目指す。 ③中国語検定試験4級と3級の合格を目指す。 ④HSK検定試験3級の合格を目指す。
授業形態	演習
授業方法	manaba利用で事前に授業内容と課題を配信する。 授業は、チャイムを鳴る5分～10分前に教室に向かい、チャイムを聞いてから出席確認をとる。授業メモの配布、課題の返却を終えて、前回の復習をする。主に発音の復習をし、文法事項に簡単に触れて当日予定の内容に入る。 新出単語の発音の意味の確認を行う。次に本文を同じように発音する。それから、文法事項の説明をする。教科書の例文は、学生が発音し日本語文にする。 本文が会話文の場合、学生を二つに分けて役割分担し、会話を練習したりする。 一課を終えると課題をだす。①本文をピンインを含めて書き写し日本語文で意味を書く。②練習問題を行う。これらを次回授業の際提出させる。
授業計画	【第1回】 オリエンテーション、シラバス確認及び目標設定 【第2回】 内容:第1課「自我介绍」を勉強する。 課題:単語と会話を上手に朗読する。从.....到.....、様態補語、二重目的語 【第3回】 内容:第1課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第4回】 内容:第2課「我们的大学」を勉強する。 課題:単語と会話を朗読する。時事中国語で季節を調べる。数量補語 【第5回】 内容:第2課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第6回】 内容:第3課「我的家庭」を勉強する。前置詞“給”、一....就... 課題:単語と会話を上手に朗読する。 【第7回】 内容:第3課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第8回】 内容:第4課「我家在四国」を勉強する。 課題:本文の朗読、買い物しながらお客さんを招待する会話を作成して発表。 【第9回】 内容:第5課「星期天」を勉強する。結果補語、可能補語 課題:本文の朗読、交友という作文を書いて提出する。 【第10回】 内容:第6課「我的爱好」を勉強する。 課題:本文の朗読、二人でホテル予約の会話を作成して発表。 【第11回】 内容:第7課「旅游」を勉強する。 課題:本文の朗読、医者と患者の役を演じて会話を作成して発表。 【第12回】 内容:第8課「打工」を勉強する。 課題:本文の朗読、スポーツ用語を調べて発表。

	【第13回】 内容:第1課から第8課までの会話内容を復習してテストする。 【第14回】まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	中国語を覚えるために予習と復習が必要である。 特に発音の段階について授業外でも携帯を利用して中国語発音を聞きながら覚えてください。具体的なアプリを教える。 単語テストを毎回行うので事前に復習すること。 文法への理解について事後宿題提出すること。 本文の朗読について事前と事後も良く声を出して読むこと。 授業中に会話練習をさせるので事前準備をすること。
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)、小テスト、授業への参加態度、宿題提出状況など(50%)を総合的に判断し成績評価を行う。受講態度として不適切な行動(私語、携帯の使用や着信、飲食、遅刻など)をとった場合は厳しく対処するし、逆に熱心に授業に参加する人は平常点で積極的に評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	王亜新・劉素英著『学ぶ中国語 初中級編』朝日出版社 本体2,200円＋税
履修上の留意点	中日辞典を必ず持参すること。電子辞書を購入予定の人は、中日、日中辞典が入っているものを検討して下さい。 中国語には日本にはない発音や漢字がたくさんあります。付属のCDを何度も聴き、辞書を引く習慣をつけましょう。予習復習を必ず行い、恥ずかしがらずに大きな声ではっきりと発音することを心がけて下さい。受講者に対して制限がない。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011210
講義名	地域言語(中国語)中級ⅡB組
担当者名	佐和田 成美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、中国語初級を学んだ学生を対象とする、原則、ネイティブ教員による、中国語の会話およびリスニング力の強化を目指した授業である。特に授業では、中国語検定3級の合格を目標に、同試験に合格できるだけのリスニング力を養う。
授業の内容	【対象】 中国語初級を学習し終えた学生 【目的】 相手の話す中国語の内容を正しく理解し、自分の意思や情報を中国語で的確に伝えるというコミュニケーション能力を培う。 【内容】 以下3点を柱とした実践演習を中心に行う。 ①コミュニケーションの基礎となる正確かつ自然な発音とリスニング力を強化する。(最終到達目標までのステップ①に相当する。) ②習得した文法事項を消化して、話す力と聴く力を鍛え、生活に密着した会話表現を習得する。(最終到達目標までのステップ②に相当する。) ③日本国内や中国語圏の留学先において、積極的かつ円滑なコミュニケーションをとるうえで前提となる、日中間の異文化理解を深める。(最終到達目標までのステップ③に相当する。) 【備考】 同授業は、来年度春学期の「地域言語(中国語)中級ⅢB組」に接続する授業として開講される。
科目の到達目標(理解のレベル)	【最終目標】 ①日本国内で出会う中国語母語話者(留学生や観光客など)と積極的かつ円滑なコミュニケーションをとれるようになる。 ②中国語圏への長期・短期の留学に備え、実践的なコミュニケーション能力をさらに向上させる。 【最終目標までのステップ】 ①コミュニケーションの基礎となる正確かつ自然な発音とリスニング力を強化する。 ②習得した文法事項を消化して、話す力と聴く力を鍛え、生活に密着した会話表現を習得する。 ③中国語圏の留学先や日本国内で、積極的かつ円滑なコミュニケーションをとるうえで前提となる、日中間の異文化理解を深める。
授業形態	演習
授業方法	日常生活のなかで中国語母語話者(留学生や観光客など)と接する様々な場面(店舗や公共施設など)を設定し、 ①各場面で耳にする中国語会話や、目にする広告・掲示物などの中国語文に五感で慣れ親しむ。 ②耳と目と口を運動させて、中国語を話し、聴くトレーニングをする。 ③借文(表現のパターンを見つけて運用する)練習に取り組み、表現力の定着を図る。 ④シミュレーション練習やペア・ワーク練習を通して、自分の意思や情報を中国語で的確に伝える実践力を鍛える。
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】買い物篇:第1課「値段を言う・尋ねる」(1)—文法解説、借文練習など 【第3回】買い物篇:第1課「値段を言う・尋ねる」(2)—シミュレーション練習など 【第4回】買い物篇:第2課「商品を比較検討する」(1)—文法解説、借文練習など 【第5回】買い物篇:第2課「商品を比較検討する」(2)—シミュレーション練習など 【第6回】買い物篇:第3課「支払いの場面でやりとりする」(1)—文法解説、借文練習など 【第7回】買い物篇:第3課「支払いの場面でやりとりする」(2)—シミュレーション練習など 【第8回】買い物篇:第4課「パーソナル・データに言及する」(1)—文法解説、借文練習など 【第9回】買い物篇:第4課「パーソナル・データに言及する」(2)—シミュレーション練習など 【第10回】道案内篇:第5課「目印を利用して目的地の場所を特定する」(1)—文法解説、借文練習など 【第11回】道案内篇:第5課「目印を利用して目的地の場所を特定する」(2)—シミュレーション練習など 【第12回】達成度の確認 【第13回】総合復習と整理
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	【事前学修】以下の事前学修を前提として、授業中に指名し、回答を求める。 * テキストの新出単語の意味・ピンインを調べ、例文の予習をしておく。付属の音声进行を聴く。

	* 様々な場所で、中国語で書かれた広告・掲示物などを調べ、日本語と中国語の表現方法の類似点や相違点を整理しておく。 【事後学修】事後学修の一環として、宿題を課す。 * テキストの新出単語と例文の復習をして、実際に使えるよう覚える。付属の音声聴いて、発音練習をする。 * 様々な場面で耳にする中国語会話や、目にする広告・掲示物などの中国語文に関心をもち続け、耳と目と口とを連動させてコミュニケーションをとるトレーニングを怠らない。
成績評価方法・基準	【評点の内訳】 以下の平常点①～③を基準として、総合的に評価する。 ①学期末の達成度確認クイズ(授業内テスト): 40% ②授業の進度に合わせて指示された宿題の達成度: 30% ③授業への参加貢献度: 30% 【注意事項】 * 詳細については、第1回目のガイダンス時に配布される「ガイダンス資料」をよく参照すること。 * フィードバックや「ガイダンス資料」の確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * フィードバックや「ガイダンス資料」の確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	以下の点によく注意すること。 * 成績評価の方法・基準(上記①～③)に含まれるクイズ等については、授業中に口頭で講評・解説を行うほか、manabaにもフィードバックを掲示する。 * したがって、授業中やmanabaにおけるフィードバックの確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * また、授業中やmanabaにおけるフィードバックの確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
教科書・指定図書	『アクション！開始！2 コミュニケーション中国語―』 (古川裕 監修／鈴木慶夏 著、朝日出版社、2017年、2,300円＋税)
履修上の留意点	※原則として対面授業を行う。 【注意事項】 * 大学の指示に基づき、授業形態(対面授業/オンライン授業)が変わる場合もあり得るので、各自で注意すること。 * 授業には毎回出席し、積極的に参加すること。 * その他、第1回目のガイダンス時に配布される「ガイダンス資料」をよく参照すること。 【教員との連絡方法】 * 事前に亜大ポータルの「オフィスアワー」とmanabaの掲示、及び「ガイダンス資料」をよく確認したうえで連絡すること。 * 掲示や資料の確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * 掲示や資料の確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011300
講義名	地域言語(中国語)中級ⅢA組
担当者名	王 紅艷
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、地域言語(中国語)中級Ⅳ同様、中国での長期・短期の留学ならびにフィールドスタディ、インターンシップ等の海外研修を予定する学生を想定した、原則、ネイティブ教員による中国語による授業である。授業では、留学ならびに実習に関連した教材を使用し、現地ならびに実習テーマに関する理解を深めると同時に、現地において中国語を使う場面を想定した会話ならびにプレゼンテーションに関する訓練を行う。
授業の内容	この授業は中国に留学に行く予定の学生を想定し、中国での勉強や生活などを中心に講義を進めていく。まず、正確な発音ができるよう徹底的に訓練したあと、グループによる会話練習を通じて中国人との交流ができるようにさせる。一方、中国人の話を理解できるよう、音声教材を利用してリスニングの訓練を繰り返し行う。同時に中国を理解するために視覚教材などを利用して中国の文化や庶民の生活などに触れたい。
科目の到達目標 (理解のレベル)	半年の学習を通じて中国語の発音は正確にできる。同時にグループによる会話練習を繰り返し行うことによって日常会話がスムーズにできる。一方、リスニングの訓練や問答練習などを行い、中国人の日常的な会話を理解できる。
授業形態	演習
授業方法	教科書を中心に発音練習や学習した文法による問答練習を行った後に、グループによる会話練習を行う。一方、学習成果を確認するために、随時に芝居やディスカッションをやる予定だ。また毎回小テストを行い、課題もある。
授業計画	【第1回】ガイダンス: 中級中国語への誘い 内容: 1・2年生で学習した内容の復習、履修上の注意点、事前学習課題、成績評価の方法と成績評価の基準の説明 【第2回】テーマ: 中国に行こう 内容: 中国人の王さんに誘われ、中国に行こうとする吉田さん。そのやり取りの表現を学習する。 文法ポイント: ①助動詞「可以」「要」、②主述述語文、③目的語が主述句のとき 小テスト(前回の授業時に指示) 【第3回】テーマ: ウーロン茶を飲もう 内容: 王さんと吉田さんがウーロン茶を飲みながら、日中間の茶文化の違いについての会話 文法ポイント: ①「原因・理由」を表す「因为」、②「逆接」を表す「可是」、③文末助詞「吧」「呢」 小テスト(前回の授業時に指示) 【第4回】テーマ: 友達を作ろう 内容: 友達を紹介したり、友達を作ったりするときのやり取りを学習する 文法ポイント: ①連動文、②「是…的」の文、③疑問詞「怎么」 小テスト(前回の授業時に指示) 【第5回】テーマ: 長城に登ろう 内容: 長城に行く方法や長城の歴史などについての会話。過去形や変化などの表現を学習する。 文法ポイント: ①「了」の三つの用法、②副詞「就」 小テスト(前回の授業時に指示) 【第6回】テーマ: 漢字を覚えよう 内容: 日本の漢字と中国の漢字の違いについての会話。結果補語を中心に学習する。 文法ポイント: ①「結果補語」(1)、②副詞「有点儿」、③「假定」を表す「要是」 小テスト(前回の授業時に指示) 【第7回】、テーマ: 街を歩こう 内容: 街を歩く時の会話。並列の表現、二つの動作が同時進行するときの表現を学習する。 文法ポイント: ①存現文、②主語がフレーズのとき、③「又～又～」、「一边儿～一边儿」 小テスト(前回の授業時に指示) 【第8回】テーマ: 中国映画を見よう 内容: 映画を見る時の会話。状態の持続や動作の繰り返しなどの表現を学習する。 文法ポイント: ①「状態の持続」を表す「着」、②副詞「再」、③部分否定 小テスト(前回の授業時に指示) 【第9回】テーマ: シルクを買おう 内容: 買い物時に物の素材を聞いたり、他人の感覚を聞いたりする表現の学習。 文法ポイント: ①方向補語、②「使役」を表す「让」、③疑問詞の不定用法 小テスト(前回の授業時に指示) 【第10回】テーマ: 中華を食べよう 内容: 中華料理店で注文するときのやり取り。可能補語や協調を表す表現の学習。 文法ポイント: ①可能補語、②強調表現 小テスト(前回の授業時に指示) 【第11回】、テーマ: 太極拳を習おう

	内容: 太極拳やジョギングなどの運動についての会話。目的や推測などの表現の学習。 文法ポイント: ①「目的」を表す「为了」、②「推測」を表す「会」、③「了～了～」の用法 小テスト(前回の授業時に指示) 【第12回】テーマ: 水滸伝を楽しもう 内容: 小説の『水滸伝』の紛失をめぐる内容で、物がなくなったり、探したりするときの表現、物が人に持っていられる時の表現(受身)、動作の結果を表す表現の学習。 文法ポイント: ①結果補語(到、在、給)、②受身を表す「被」の用法 小テスト(前回の授業時に指示) 【第13回】テーマ: 春節を過ごそう 内容: 中国人の春節の過ごし方や、春節関連の風習を説明する内容で、時間がもうすぐ到着する言い方や「把」構文などを学習する。 文法ポイント: ①「快…了」の用法、②前置詞「把」の用法 期末テスト(前回の授業時に指示)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回小テストをする一方、課題もあるので、授業前に新出単語を必ず予習してくることと授業後必ず復習すること。特にテキストの文章を暗記できるように繰り返し発音練習をすることが大事である。日本語の漢字と中国語の漢字の違いを注意しつつ漢字の書き方を練習すること。授業2回分の課題を出すのでしっかりやってほしい。
成績評価方法・基準	小テスト: 70%、最終テスト: 30%、授業三分の二以上の出席が必須。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	尹景春・竹島毅『中国語　さらなる一歩』白水社、2024
履修上の留意点	復習して授業に臨むこと。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011310
講義名	地域言語(中国語)中級ⅢB組
担当者名	佐和田 成美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、地域言語(中国語)中級Ⅳ同様、中国での長期・短期の留学ならびにフィールドスタディ、インターンシップ等の海外研修を予定する学生を想定した、原則、ネイティブ教員による中国語による授業である。授業では、留学ならびに実習に関連した教材を使用し、現地ならびに実習テーマに関する理解を深めると同時に、現地において中国語を使う場面を想定した会話ならびにプレゼンテーションに関する訓練を行う。
授業の内容	【対象】 中国語初級を学習し終えた学生 【目的】 相手の話す中国語の内容を正しく理解し、自分の意思や情報を中国語で的確に伝えるというコミュニケーション能力を培う。 【内容】 以下3点を柱とした実践演習を中心に行う。 ①コミュニケーションの基礎となる正確かつ自然な発音とリスニング力を強化する。(最終到達目標までのステップ①に相当する。) ②習得した文法事項を消化して、話す力と聴く力を鍛え、生活に密着した会話表現を習得する。(最終到達目標までのステップ②に相当する。) ③日本国内や中国語圏の留学先において、積極的かつ円滑なコミュニケーションをとるうえで前提となる、日中間の異文化理解を深める。(最終到達目標までのステップ③に相当する。) 【備考】 同授業は、昨年度秋学期の「地域言語(中国語)中級ⅡB組」から接続する授業として開講される。
科目の到達目標 (理解のレベル)	【最終到達目標】 ①日本国内で出会う中国語母語話者(留学生や観光客など)と積極的かつ円滑なコミュニケーションをとれるようになる。 ②中国語圏への長期・短期の留学に備え、実践的なコミュニケーション能力をさらに向上させる。 【最終到達目標までのステップ】 ①コミュニケーションの基礎となる正確かつ自然な発音とリスニング力を強化する。 ②習得した文法事項を消化して、話す力と聴く力を鍛え、生活に密着した会話表現を習得する。 ③日本国内や中国語圏の留学先において、積極的かつ円滑なコミュニケーションをとるうえで前提となる、日中間の異文化理解を深める。
授業形態	演習
授業方法	日常生活のなかで中国語母語話者(留学生や観光客など)と接する様々な場面(店舗や公共施設など)を設定し、 ①各場面で耳にする中国語会話や、目にする広告・掲示物などの中国語文に五感で慣れ親しむ。 ②耳と目と口を連動させて、中国語を話し、聴くトレーニングをする。 ③借文(表現のパターンを見つけて運用する)練習に取り組み、表現力の定着を図る。 ④シュミレーション練習やペア・ワーク練習を通して、自分の意思や情報を中国語で的確に伝える実践力を鍛える。
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】道案内篇:第6課「目的地までの行き方を説明する」(1)―文法解説、借文練習など 【第3回】道案内篇:第6課「目的地までの行き方を説明する」(2)―シュミレーション練習など 【第4回】道案内篇:第7課「目的地までの所要時間と所用金額を伝える」(1)―文法解説、借文練習など 【第5回】道案内篇:第7課「目的地までの所要時間と所用金額を伝える」(2)―シュミレーション練習など 【第6回】道案内篇:第8課「道案内についての必要な情報を伝える」(1)―文法解説、借文練習など 【第7回】道案内篇:第8課「道案内についての必要な情報を伝える」(2)―シュミレーション練習など 【第8回】やり方案内篇:第9課「要求事項と禁止事項を伝える」(1)―文法解説、借文練習など 【第9回】やり方案内篇:第9課「要求事項と禁止事項を伝える」(2)―シュミレーション練習など 【第10回】やり方案内篇:第10課「目の前にある〈ソレ〉を(どういう状態にするか)を伝える」(1)―文法解説、借文練習など 【第11回】やり方案内篇:第10課「目の前にある〈ソレ〉を(どういう状態にするか)を伝える」(2)―シュミレーション練習など 【第12回】達成度の確認 【第13回】総合復習と整理
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	【事前学修】以下の事前学修を前提として、授業中に指名し、回答を求める。 * テキストの新出単語の意味・ピンインを調べ、例文の予習をしておく。付属の音声聴く。 * 様々な場所で、中国語で書かれた広告・掲示物などを調べ、日本語と中国語の表現方法の類似点や相違点を整理しておく。 【事後学修】事後学修の一環として、宿題を課す。 * テキストの新出単語と例文の復習をして、実際に使えるよう覚える。付属の音声聴いて、発音練習をする。 * 様々な場面で耳にする中国語会話や、目にする広告・掲示物などの中国語文に関心をもち続け、耳と目と口とを連動させてコミュニケーションをとるトレーニングを怠らない。
成績評価方法・基準	【評点の内訳】 以下の平常点①～③を基準として、総合的に評価する。 ①学期末の達成度確認クイズ(授業内テスト): 40% ②授業の進度に合わせて指示された宿題の達成度: 30% ③授業への参加貢献度: 30% 【注意事項】 * 詳細については、第1回目のガイダンス時に配布される「ガイダンス資料」をよく参照すること。 * フィードバックや「ガイダンス資料」の確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * フィードバックや「ガイダンス資料」の確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	以下の点によく注意すること。 * 成績評価の方法・基準(上記①～③)に含まれるクイズ等については、授業中に口頭で講評・解説を行うほか、manabaにもフィードバックを掲示する。 * したがって、授業中やmanabaにおけるフィードバックの確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * また、授業中やmanabaにおけるフィードバックの確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
教科書・指定図書	『アクション！開始！2 ―コミュニケーション中国語―』 (古川裕 監修／鈴木慶夏 著、朝日出版社、2017年、2,300円＋税)
履修上の留意点	※原則として対面授業を行う。 【注意事項】 * 大学の指示に基づき、授業形態(対面授業/オンライン授業)が変わる場合もあり得るので、各自で注意すること。 * 授業には毎回出席し、積極的に参加すること。 * その他、第1回目のガイダンス時に配布される「ガイダンス資料」をよく参照すること。 【教員との連絡方法】 * 事前に亜大ポータルの「オフィスアワー」とmanabaの掲示、及び「ガイダンス資料」をよく確認したうえで連絡すること。 * 掲示や資料の確認不足によるメール連絡やお問い合わせには一切回答しない。 * 掲示や資料の確認不足によって何らかのトラブルが生じた場合は自己責任となり、教員は対応できない。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011400
講義名	地域言語(中国語)中級ⅣA組
担当者名	徐 送迎
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、地域言語(中国語)中級Ⅲ同様、中国での長期・短期の留学ならびにフィールドスタディ、インターンシップ等の海外研修を予定する学生を想定した、原則、ネイティブ教員による中国語による授業である。授業では、留学ならびに実習に関連した教材を使用し、現地ならびに実習テーマに関する理解を深めると同時に、現地において中国語を使う場面を想定した会話ならびにプレゼンテーションに関する訓練を行う。
授業の内容	この授業は『仲間で話そう 中国語』という青春や友情、旅をテーマとしたテキストを用い、アメリカ人大学生や、中国人大学生、日本人新米社会人といった主人公を通じて展開されている。学習者自身がその主人公になって、旅に出たり、友達を作ったり、熱く夢を語り合ったりして、楽しんでいるうちに中国語の読む、聴く、話す、書く総合的な能力を高めていくことを目指す。 同時に、今まで学習した文法事項を復習しつつ、現代中国語で書かれた文献を精読したり、作文したり、翻訳する技能のトレーニングも合わせて行う。読む力をしっかり身につけるように頑張ってもらおう。 学習状況によって中国語検定やHSK検定の過去問もやる予定だ。 * 履修する学生の中国語レベルや要望によって予定の変更があります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	下記の目標をもって頑張っていく。 1. 中国人の日常的な会話を理解できる 2. 簡単な現代中国語の文章を読める。 3. 日常の事柄を中国語で表現でき、日常のコミュニケーションにおける会話表現を習得する。 4. 習得した文法事項を正確に把握していき、作文もできる。 5. 読む、聴く、話す、書く、翻訳するといった総合的な能力が一段と向上する。 6. 中国語検定試験3級と2級の合格を目指す。 7. HSK検定試験4級と5級の合格を目指す。
授業形態	演習
授業方法	2回1課のテンポで学習し、教員と学生の双方とも毎回明確な目標を持って授業に臨む。一つの課の文法と本文を終了した後、トレーニングをし、学習の効果を確認する。105分授業の間、内容や形式の様々なバリエーションによって学習の効果を高め、中国語の楽しさと達成感を実感してもらう。 グループによる会話練習や芝居やディスカッションもやる予定だ。
授業計画	本授業で扱うテーマと文法事項は各回とも、地域言語(中国語)中級ⅠA組と同じものとなっているが、Ⅰが基礎としての位置づけであるのに対し、本授業は応用を中心とするより高度な能力を身に着ける授業となっている。 【第1回】第1課 认识一下儿好吗? (語句、本文、ポイント) 1. 助動詞“会”(1) 2. 介詞“在～” 3. 動量補語 4. “是～的”構文 5. 助動詞“想” 【第2回】第1課 认识一下儿好吗? (トレーニング1～5) 【第3回】第2課 想去的地方很多 (語句、本文、ポイント) 1. 介詞“给～” 2. 複文“除了A,还(也)B” 3. 動詞“打算” 4. 反語文“不是～吗” 5. “连A都(也)B” 【第4回】第2課 想去的地方很多 (トレーニング1～5) 【第5回】第3課 好久不见 (語句、本文、ポイント) 1. 動態助詞“了” 2. 複文“一边A, 一边B” 3. 様態補語 4. 使役文 5. 二重目的語 【第6回】第3課 好久不见(トレーニング1～5) 【第7回】第4課 让爱子去旅行(語句、本文、ポイント) 1. 複文“因为A, 所以B” 2. 助動詞“要” 3. 助動詞“应该” 4. 複文“如果A(的话), 就B” 5. 助動詞“会”(2) 【第8回】第4課 让爱子去旅行 (トレーニング1～5) 【第9回】第5課 外国人都喜欢吃(語句、本文、ポイント) 1. 複文“先A, 然后B”

	2. 複文“A是A, 不过B” 3. 可能補語 4. 複文“不管A, 都B” 5. 複文“既A, 又B” 【第10回】第5課 外国人都喜欢吃 (トレーニング1-5) 【第11回】第6課 今天我请客 (語句、本文、ポイント) 1. 複文“不但A, 而且B” 2. 複文“要么A, 要么B” 3. “提议”の使い方 4. 語気助詞“了” 5. 結果補語 【第12回】第6課 今天我请客 (トレーニング1-5) 【第13回】まとめ (理解度確認と解説)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	中国語を覚えるために予習と復習が大事だ。教科書付属CDを聞き、本文を音読。次の授業で扱う課に目を通す。 1. 授業外でも携帯を利用して中国語発音を聞きながら覚えて行く。 2. 授業前に新出単語を必ず予習し、単語テストがある。 3. 授業後は学習内容を復習して、テキストの本文を繰り返し発音練習し、暗記できるように励む。 4. 文法への理解について事後宿題をしっかりとやる。 5. 授業中に会話練習をさせるので事前準備しておく。
成績評価方法・基準	定期試験: 50%、平常点: 50%。 * 平常点は授業への参加度、授業態度、宿題提出状況などを総合的に判断し評価を行う。受講態度として不適切な行動(私語、携帯の使用や着信、遅刻など)をとった場合は厳しく対処するし、逆に熱心に授業に参加する人は平常点で積極的に評価する。 * 定期試験は口答試験と筆記試験の2種類。場合によって両方とも行うことがある。 普段から読む、聴く、話す、書くという総合的な能力の向上に力を入れてほしい。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	『仲間で話そう 中国語』(初級から中級へ) 徐送迎著 朝日出版社 ISBN978-4-255-45320-0 C1087
履修上の留意点	本授業は出席と勉強に対する意欲を重視する。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH011410
講義名	地域言語(中国語)中級ⅣB組
担当者名	王 佩民
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、地域言語(中国語)中級Ⅲ同様、中国での長期・短期の留学ならびにフィールドスタディ、インターンシップ等の海外研修を予定する学生を想定した、原則、ネイティブ教員による中国語による授業である。授業では、留学ならびに実習に関連した教材を使用し、現地ならびに実習テーマに関する理解を深めると同時に、現地において中国語を使う場面を想定した会話ならびにプレゼンテーションに関する訓練を行う。
授業の内容	教科書は12課からなり、HSK検定試験の3級～4級レベルの基本知識を学ぶ。やさしい発音から出発し、徐々に中国で実際に使われる生きた中国語の語彙と仕組みをきちんと理解して、それを確実に自分のものに拡大していく。本書は日常生活において遭遇する場面を想定し、そこで使用される語彙や表現「謝る」場面や「褒められる」場面において中国人が使用する自然な言い回しが多く盛り込まれているので学習者は登場人物になり切り、音読・暗唱・会話を通して表現力を全員で演出する。外国語の技能には、読み、書き、話す、聴く、翻訳という五つの技能がある。学習者は五つの技能についてバランスよく技能を高めていくために教科書の他に時事中国語(旧正月、冬オリンピック、昨年のネット流行語トップ10)などを取り入れて勉強していただく。授業中に単語テストと会話の発表は随時行う。また、毎回到「造句」という宿題を提出すること。
科目の到達目標(理解のレベル)	本書は主にHSK検定試験3級～4級レベル語句を厳選している。各課の文法項目もHSK検定試験に良く出題されるものでその使い方を覚えて検定試験に対応することができる。 以下の目標を目指して頑張りましょう。 ①平易で自然な中国語を目指して中国最新事情を理解すること。 ②読み・聴く・話す技能の向上を目指す。 ③中国語検定試験4級と3級の合格を目指す。 ④HSK検定試験3級の合格を目指す。
授業形態	演習
授業方法	manaba利用で事前に授業内容と課題を配信する。 授業は、チャイムを鳴る5分・10分前に教室に向かい、チャイムを聞いてから出席確認をとる。授業メモの配布、課題の返却を終えて、前回の復習をする。主に発音の復習をし、文法事項に簡単に触れて当日予定の内容に入る。 新出単語の発音の意味の確認を行う。次に本文を同じように発音する。それから、文法事項の説明をする。教科書の例文は、学生が発音し日本語にする。 本文が会話文の場合、学生を二つに分けて役割分担し、会話を練習したりする。 一課を終えると課題をだす。①本文をピンインを含めて書き写し日本語で意味を書く。②練習問題を行う。これらを次回授業の際提出させる。
授業計画	【第1回】 オリエンテーション、シラバス確認及び目標設定、お互いに自己紹介 【第2回】 内容:第1課「自我介绍」を勉強する。从.....到....., 様態補語、可能補語 課題:単語と会話を上手に朗読する。 【第3回】 内容:第1課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第4回】 内容:第2課「我们的大学」を勉強する。虽然.....但是....., 副词 只 課題:単語と会話を朗読する。中国語で大学を調べる。 【第5回】 内容:第2課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第6回】 内容:第3課【我的家庭】を勉強する。一.....就....., 就要.....了, 課題:単語と会話を上手に朗読する。 【第7回】 内容:第3課の後半を勉強する。 課題:単語テスト、文法を理解した上で「造句」する。練習問題の提出。 【第8回】 内容:第4課「我家在四国」を勉強する。听说....., 如果, 要是, 有 課題:本文の朗読、買い物しながらお客さんを招待する会話を作成して発表。 【第9回】 内容:第5課「星期天」を勉強する。結果補語、可能補語 課題:本文の朗読、交友という作文を書いて提出する。 【第10回】 内容:第6課「我的爱好」を勉強する。是.....的, 一边.....一边, 再 課題:本文の朗読、二人でホテル予約の会話を作成して発表。 【第11回】 内容:第7課「旅游」を勉強する。把, 通过, 因果関係 課題:本文の朗読、医者と患者の役を演じて会話を作成して発表。 【第12回】 内容:第8課「打工」を勉強する。是, 只好, 让, 不仅.....而且

	課題: 本文の朗読、スポーツ用語を調べて発表。 【第13回】 内容: 第1課から第8課までの会話内容を復習してテストする。 課題: まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	中国語を覚えるために予習と復習が必要である。 特に発音の段階について授業外でも携帯を利用して中国語発音を聞きながら覚えてください。具体的なアプリを教える。 単語テストを毎回行うので事前に復習すること。 文法への理解について事後宿題提出すること。 本文の朗読について事前と事後も良く声を出して読むこと。 授業中に会話練習をさせるので事前準備をすること。
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)、小テスト、授業への参加態度、宿題提出状況など(50%)を総合的に判断し成績評価を行う。受講態度として不適切な行動(私語、携帯の使用や着信、飲食、遅刻など)をとった場合は厳しく対処するし、逆に熱心に授業に参加する人は平常点で積極的に評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	王亜新・劉素英著『学ぶ中国語 初中級編』 朝日出版社 本体2,200円＋税
履修上の留意点	中日辞典を必ず持参すること。電子辞書を購入予定の人は、中日、日中辞典が入っているものを検討して下さい。 中国語には日本にはない発音や漢字がたくさんあります。付属のCDを何度も聴き、辞書を引く習慣をつけましょう。予習復習を必ず行い、恥ずかしがらずに大きな声ではっきりと発音することを心がけて下さい。受講者に対して制限がない。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG303
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH012100
講義名	地域言語(中国語)上級 I
担当者名	王 紅艷
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目では、3000語前後の中国語で書かれた時事問題(政治・経済・社会)に関する文献を読む訓練を行う。時事問題に関する文献講読を通じて、卒業論文で取り上げるテーマに関する中国語文献を読めるだけの読解力を養う。
授業の内容	今の中国は、政治、経済、教育、社会など様々な面で大きく変化しており、庶民の生活は様々な影響を受けて営んできた。この授業では、関連があるテーマを通して中国社会や庶民の生活の変化を探ってみる。資料の内容は政治、経済、社会などの事情に関わる文章を利用する。中級よりさらに高度な中国語の表現を学習し、もっと複雑な文章を読む力を養成する。こうした時事問題に関連する文献を読むことによって、学生の読解力が強化され、卒業論文に関連する中国語文献を読める力を身につける。
科目の到達目標 (理解のレベル)	時事問題関連の文献を学習することによって、読解力が確実にアップできる。一方、中国社会の各方面にわたる内容を解読することによって中国社会や中国人をより理解しやすく、グローバル化が進んでいる現在において中国人と異文化交流をよりスムーズに行うことができる。特に卒業論文で取り上げるテーマに関する中国語文献を読むことができる。
授業形態	演習
授業方法	事前に配布する教材(プリント)を中心に、文章の読解、翻訳を行い、その内容について問答練習を行う。文法表現を身につけるために、作文練習を繰り返す。言葉の使い方は場所によって異なる場合があるため、様々な使い方を説明し、練習する。一方、読解力や表現力を高めるために各テーマに関連する日本側のことについて紹介してもらう。関連するテーマについて視覚教材を使用し、文法表現や内容を定着させる。
授業計画	【第1回】ガイダンス 内容: この授業の内容、進め方、成績評価などを説明する。 【第2回】テーマ: 中国の大学 内容: 中国の大学についてその数、規模、施設、学生生活及びその問題点を概観する。 【第3回】テーマ: 中国人の海外旅行について 内容: 中国人の海外旅行について政府のコントロールの時代から現在の自由に行動できる時代までその変容を紹介し、中国人の意識の変化を説明する。 【第4回】テーマ: 中国の民族問題 内容: 中国の民族についてその数、居住地域、言語、文化などを概観する。一方、中国政府による少数民族政策を説明しながら民族問題の現状を紹介する。 【第5回】テーマ: 中国人の食生活 内容: 中国人の食生活は地域によって、民族によって大きく異なるが、南北の差異についてその古代から現在に至るまでの形成過程や気候などを説明しながら、その違いを理解する。 【第6回】ディスカッション 今までの講義内容に関心があるテーマの日本側の状況について各自発表する。 【第7回】テーマ: 中国人の風俗習慣 内容: 中国人の風俗習慣は地域によって異なるが、食生活や生活施設や結婚式などの違いを南北の地域差から紹介し、その地域の風俗習慣を理解する。 【第8回】テーマ: 中国の祝祭日(1) 内容: 国民の参与から祝祭日の制定過程及びその変化を見る。 【第9回】テーマ: 中国の祝祭日(2) 内容: 中国の伝統的な祝祭日はほぼ旧暦で行われるが、その旧暦の各祝祭日の様子を時間の順を追って紹介する。 【第10回】テーマ: 中国の名所旧跡(1) 内容: 中国の歴史が長いので名所旧跡が数えきれないほどあるが、この回は万里の長城に関わる物語を紹介する。 【第11回】テーマ: 中国の名所旧跡(2) 内容: 中国でもう一つ世界で有名な名所旧跡は秦の始皇帝の墓である。西安にあるこの世界遺産の様子及び西安の名所旧跡を紹介する。 【第12回】テーマ: 日中文化交流について 内容: 遣隋使、遣唐使から現在まで日中両国の文化交流は長い歴史があり、関係の人物を紹介しながら、そのプロセスを簡単にまとめる。 【第13回】ディスカッション 内容: 中国の政治、経済、文化などに関連するテーマを自由に設定し、ディスカッションを行う。

事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回課題があるので各自で積極的に取り組み、授業に臨むこと。特に中国の政治、社会、文化などを理解するために新聞やインターネットなどをよく利用して常に関覧すること。
成績評価方法・基準	毎回の課題:70%、学期末レポート:30%。併せて評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	授業時にプリント配布
履修上の留意点	事前に配布したプリントを予習し、内容を理解し翻訳してくること。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG304
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH012200
講義名	地域言語(中国語)上級Ⅱ
担当者名	孫 月鶯
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、中国語を使った文章作成ならびにプレゼンテーションに関する授業である。学生は留学もしくは海外実習に関心を持ったテーマを取り上げ、授業を通じて文章表現ならびにプレゼンテーション力を高める。
授業の内容	本科目は地域言語(中国語)上級Ⅱを受講した学生を対象としたクラスである。秋学期では中国語で書かれた中国の今の生活状況「ネット生活“网络生活”」、「大学生の夢“大学生的梦想”」、深刻な社会問題を反映した「不動産バブル“房地产泡沫”」、「自然環境“自然环境”」など、みんな関心を持つ、マスコミを日々賑わしている同時代の中国社会を代表する話題について会話する。 このテキストのセールスポイントは話題が豊富なことだけではない。これら様々な話題をめぐる会話、作文、リスニング練習で、中国語のトレーニングをしたあとに、各課のテーマにそって設定されたテーマを調査し、調査結果のプレゼンを行う。 そして最後に各テーマをめぐる、AチームとBチームそれぞれの立場からディベートをおこなうという考え方である。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本検定試験中国語2級レベルの中国語力を目標とする。日常会話を流暢に話せるだけでなく、今まで習った中国経済、経営の知識を生かす同時に、専門用語を使って、特定されたテーマについて、議論ができるレベルを目指す。また、自ら調べて集めたデータを活用し、これまで学んできた中国語を思う存分に駆使して、自分の意見を論理的に発信し、議論するレベルを目標とする。 この授業を通して、異文化に対する理解をもっと深めたい。
授業形態	演習
授業方法	① 今年度は年間を通して原則として対面式授業を実施する予定である。 ② テキストの本文を音読する。一人一人に丁寧に発音指導を行う。(履修生は必ず事前にテキスト付属CDを繰り返し聞き、予習すること) ③ 文法事項を説明する。特に履修者が間違えやすいところ重点に置いて説明する。 ④ 本文を和訳し、文型、フレーズを使って実践練習する。 ⑤ 本文をめぐる会話する。一課終わったらプレゼンを行う。 ⑥ 講義資料の配布はmanabaを使用する。
授業計画	【第1回】第1課 网络生活(ネット生活) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第2回】① 中国語で答えよう(本文に沿って色々質問して履修生に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(履修生はネット生活について自分の意見を発表) ③ 中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④ 中国語でプレゼンしよう ⑤ 中国語でディベートしよう(A、B両チーム立場からディベートを実施) 【第3回】第2課 自然环境(自然环境) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第4回】① 中国語で答えよう(環境問題について色々質問して履修者に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(環境問題をめぐる議論して個人意見を発表する) ③ 中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④ 中国語でプレゼンしよう ⑤ 中国語でディベートしよう(A、B両チーム立場からディベートを実施) 【第5回】第3課 世界这么大(世界ってこんなに大きい) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第6回】① 中国語で答えよう(旅行をめぐる色々質問して、履修者に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(旅行について履修生たちに意見を発表してもらう) ③ 中国語で聞き取ろう(リスニング練習)

	④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう(A、B両チームの立場からディベートを実施) 【第7回】第4課 日本文化在中国 (中国における日本文化) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第8回】①中国語で答えよう(日本文化について質問し、答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(中国人好きな日本文化について意見を発表) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう(A、B両の立場からディベートを実施) 【第9回】第5課 不動産バブル (不動産バブル) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第10回】①中国語で答えよう(不動産をめぐって質問し、答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(不動産について意見を発表する) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう(A、B両チーム立場からディベートを実施) 【第11回】第6課 大学生の夢(大学生の夢) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第12回】①中国語で答えよう(大学生の夢について色々質問して、答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(自分の夢を述べてもらう) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう(A、B両チームの立場からディベートを実施) 【第13回】第1課～第6課の内容を復習し、今後学習の方向を指導する。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学習の内容	①事前にピンインなしで本文を熟読でき、辞書で新しい語句を調べておく。 ②本文の内容を必ず予習してください。理解できるところ、理解できないところはしっかり分かり、授業の効果アップにつながっている。 ③事後には授業中習った内容を必ず復習して、問題点があれば授業中、あるいはGmailで連絡してください。 ④時間があれば今まで習った中国語を生かして中国の文化、政治、経済に関連する資料を読んでみてください。隣りの中国では何が起きているか、もっと関心を持ってほしい。
成績評価方法・基準	① 平常点: 50%(本文の内容、文法事項の把握度、リスニング30% 授業中応用練習、パフォーマンス20%) ② 小テスト: 30%(主に本文に関する内容についての口頭試問) ③ 課題: 20%(テーマに関する作文) 【評価基準】 S: 特に優れた成績を示した者 (100点～90点) A: 優れた成績を示した者 (89点～80点) B: 妥当と認められた者 (79点～70点) C: 合格と認められるための成績を示した者 (69点～60点) D: (不合格) 合格と認められるに足る成績を示さなかった者
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	『巨大中国の今 中級中国語ディベートへの招待』 作者: 張恒悦 監修: 古川裕 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-45321-7
履修上の留意点	積極的に学習する態度が望ましい。外国語を勉強するには予習、復習が欠かせないため授業以外の日にも予習、復習してほしい。 授業前に、必ず本文を読めるように予習しておくこと。

更新日	2024/3/19
-----	-----------

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG401
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH012300
講義名	地域言語(中国語)上級Ⅲ
担当者名	王 紅艷
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は地域言語(中国語)上級Ⅰを受講した学生を対象に、中国語で書かれた時事問題(政治・経済・社会)に関する文献を読む訓練を行う。時事問題に関する文献講読を通じて、卒業制作課題で取り上げるテーマに関する中国語文献を読めるだけの読解力を養う。
授業の内容	2024年の中国は、政治的に、経済的に、社会的にはどのように変化していくのか、この授業では、様々なテーマを通してこの変化を探ってみる。内容は中国の新華網、人民網などインターネット上の政治、経済、社会などの事情に関わる文章を利用する。各テーマごとに中国社会と日本社会との違いを比較しながら、中国社会を理解すると同時に、日本社会を再認識させる。一方、更に高度な中国語の表現が使用され、様々な複文が学習対象となるため、卒業論文に関連する中国語文献を読めるよう高難度の訓練を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	複雑な文章を解読することによってより高度な中国語の表現を理解することができる。一方、中国社会の各方面にわたる内容を解読することによって中国社会や中国人をより理解しやすく、グローバルが進んでいる現在において中国人と異文化交流をよりスムーズに行うことができる。また、中国社会を理解すると同時に日本社会を再認識することができる。
授業形態	演習
授業方法	インターネット上の中国の政治、経済、社会などの事情に関わる文章を解読する。内容を正確に理解し、翻訳をする。その上、討論し、それぞれの意見を発表してもらう。一方、様々な文法表現を使って作文の練習を行い、言葉の使い方が使う場所によって意味が異なるのでその使い方を身につけるために異なる用法を繰り返し練習する。同時に、視覚教材を利用し文法表現や内容を定着させる。
授業計画	【第1回】授業ガイダンスと中国語レベルの確認 【第2回】ボランティア活動による社会貢献 内容:経済の発展に伴い、人々の経済的、心理的な余裕ができ、ボランティア活動をする人がかなり増加している。それによる社会貢献はどのようにに認識され、どのような面で行われたかなどについて考える。 【第3回】中国のネット用語から見る言葉の意味変化 内容:この十数年来、ネットを利用する中国人は十億人以上とも言われている。ネットでしか使わない言葉はたくさん登場した。そのような言葉の意味の変化を追ってみる。 【第4回】中国国内のライブコマースの流行 内容:現在、中国国内では一般人だけではなく、俳優や著名人など多くの人々はライブコマースを兼職し、専業とする人も多くいます。この社会現象について解説する。 【第5回】中国都市部と農村部の違い 内容:いままで中国の農村部は貧しいイメージから大きく変化を遂げてきたが、様々な面で都市部との差があり、その様子を紹介する。 【第6回】日中貿易 内容:日中貿易の歴史と現状を見る。 【第7回】中国経済 内容:中国の経済問題を取り上げてグローバル経済における中国経済の現状と未来を考える。 【第8回】ディスカッション 内容:関心があるテーマについて日本と中国を比較しながらディスカッションを行う。 【第9回】中国の住宅事情 内容:改革開放が始まって以来、中国人の住宅事情が大きく変わってきた。その変化の過程と現状を考える。 【第10回】庶民の食生活 内容:経済の発展に伴い、庶民の食生活が大きく変わったが、伝統的な食文化を守りつつ新しいものを取り込んで発展していく。庶民の食生活について考える。 【第11回】中国人の娯楽 内容:多くの中国人が行う「娯楽」として「广场舞」などを取り上げて、紹介する。 【第12回】中国各地の風習 内容:中国各地に様々な異なる風習があり、それは庶民の生活や行動方式などにどのような影響を与えるかについて考える。 【第13回】理解度確認と解説 内容:今までの授業をまとめて解説する。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	毎回授業時に課題を提示するので各自で積極的に取り組み、授業に臨むこと。特に中国の政治、社会、文化などを理解するために新聞やインターネットなどをよく利用して常に関覧すること。
成績評価方法・基準	成績は、毎回の課題70%、ディスカッション30%で総合評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	授業時にプリント配布
履修上の留意点	事前に配布するプリントを予習すること。内容を理解し翻訳できるようにすること。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG402
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH012400
講義名	地域言語(中国語)上級Ⅳ
担当者名	孫 月鸞
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は地域言語(中国語)上級Ⅱを受講した学生を対象に、引き続き中国語を使った文章作成ならびにプレゼンテーションに関する授業である。学生は留学もしくは海外実習に関心を持ったテーマを取り上げ、文章表現ならびにプレゼンテーション力を高める。
授業の内容	本科目は地域言語(中国語)上級Ⅳを受講する学生を対象としたクラスである。春学期では中国語で書かれた中国の今の生活状況「交通の大発達“交通大开发”」、「中国語の外来語“汉语中的外来词”」、深刻な社会問題を反映した「人口問題“人口问题”」、「大学入試“高考”」など、みんなが関心を持ち、マスコミを日々賑わしている同時代の中国社会を代表する話題について会話する。 このテキストのセールスポイントは話題が豊富なことだけではない。これら様々な話題をめぐる会話、作文、リスニング練習で、中国語のトレーニングをしたあとに、各課のテーマにそって設定されたテーマを調査し、調査結果のプレゼンを行う。 そして最後に各テーマをめぐる、AチームとBチームそれぞれの立場からディベートをおこなうという考え方である。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本検定試験中国語準1級レベルの中国語力を目標とする。、日常会話を流暢に話せるだけでなく、今まで習った中国経済、経営の知識を生かす同時に、専門用語を使って、特定されたテーマについて、深く議論ができるレベルを目指す。また、自ら調べて集めたデータを活用し、これまで学んできた中国語を思う存分に駆使して、自分の意見を論理的に発信し、議論するレベルを目標とする。また、中国の文化、政治、経済に関わる資料を読めるように、正確に理解できることを目指す。
授業形態	演習
授業方法	① 今年度は年間を通して原則として対面式授業を実施する予定である。 ② テキストの本文を音読する。一人一人に丁寧に発音指導を行う。(履修生は必ず事前にテキスト付属CDを繰り返し聞き、予習しておくこと) ③ 文法事項を説明する。特に履修者が間違えやすいところ重点に置いて説明する。 ④ 本文を和訳し、文型、フレーズを使って実践練習する。 ⑤ 本文をめぐる会話する。一課終わったらプレゼンを行う。 ⑥ 講義資料の配布はmanabaを使用する。
授業計画	【第1回】 人口問題(人口問題) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第2回】 ① 中国語で答えよう(本文に沿って“一人子”政策について質問して履修生に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(履修生は人口問題について自分の意見を発表する) ③ 中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④ 中国語でプレゼンしよう ⑤ 中国語でディベートしよう(A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第3回】 交通大开发(交通の大発達) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第4回】 ① 中国語で答えよう(交通について色々質問して履修生に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(交通問題をめぐって議論して個人意見を発表する) ③ 中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④ 中国語でプレゼンしよう ⑤ 中国語でディベートしよう (A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第5回】 汉语中的外来词(中国語の外来語) ① 本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ② 文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③ 本文を和訳する。 【第6回】 ① 中国語で答えよう(中国語の外来語をめぐる色々質問して、履修生に答えてもらう) ② 中国語で言ってみよう(外来語について履修生たちの意見を発表してもらう)

	③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう (A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第7回】 高考 (大学入試) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第8回】①中国語で答えよう(大学入試について色々質問して、履修者に答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(中国入試と日本との相違点を述べてもらう) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう (A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第9回】 海外の中国人 (海外の中国人) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第10回】①中国語で答えよう(中国の移民をめぐる質問して、履修者に答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(海外の中国人について意見を発表する) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう (A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第11回】 节假日 (祝祭日) ①本文を音読し、一人一人の発音を丁寧に指導する。 ②文法事項、文型、フレーズの説明をする。 ③本文を和訳する。 【第12回】①中国語で答えよう(中国の風俗習慣について色々質問して、答えてもらう) ②中国語で言ってみよう(中国風俗習慣と日本との相違点を述べてもらう) ③中国語で聞き取ろう(リスニング練習) ④中国語でプレゼンしよう ⑤中国語でディベートしよう (A、B両チームそれぞれの立場からディベートを行う) 【第13回】第7課～第12課の内容を復習し、今後学習の方向を指導する。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学習の内容	①事前に辞書で新しい語句を調べ、ピンインなしで本文を熟読できるようにしておく。 ②事前学習の第2目的として、本文の内容を予習して、理解できるところ、理解できないところをはっきりさせておく。これは授業の効果のアップにつながる。 ③事後学習として、授業中習った内容を必ず復習し、問題点があれば授業中、あるいはGmailで連絡する。 ④時間があれば今まで習った中国語を生かして中国の文化、政治、経済に関連する資料を読んでみてください。 この授業を通じて世界の政治、経済、また、人口問題、移民問題に対してもっと関心を持ってほしい。
成績評価方法・基準	①平常点: 50%(本文の内容、文法事項の把握度、リスニング30% 授業中応用練習、パフォーマンス20%) ② 小テスト: 30%(主に本文に関する内容についての口頭試問) ③ 課題: 20%(テーマに関する作文) 【評価基準】 S: 特に優れた成績を示した者 (100点～90点) A: 優れた成績を示した者 (89点～80点) B: 妥当と認められた者 (79点～70点) C: 合格と認められるための成績を示した者 (69点～60点) D: (不合格) 合格と認められるに足る成績を示さなかった者
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	『巨大中国の今 中級中国語ディベートへの招待』 作者: 張恒悦 監修: 古川裕 朝日出版社 ISBN978-4-25545321-7
履修上の留意点	積極的に学習する態度が望ましい。外国語を勉強するには予習、復習が欠かせないため、授業以外の日にも予習、復習してほしい。授業前に、必ず本文を読めるように予習しておくこと。

更新日	2024/3/19
-----	-----------

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021100
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅠA組
担当者名	崔 鶴山
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。日常的な場面で使われる韓国語の単語や表現が用いられた比較的に長い文章を読み、その要点や趣旨を捉えることができる文章読解力を身に付ける。さらに、単語のレベルではなく、連語などの組み合わせによって用いられる表現や慣用語などの意味を正しく理解し、活用できる能力も磨いていく。
授業の内容	日常生活のための文法と表現を習得する授業です。文型練習を通して文の仕組みに慣れることで、読解力と口頭作文力の向上を目指します。また、教科書で習った表現やフレーズは読んで意味わかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、実際に声に出して音読練習やペア会話練習を行います。それをベースに、日常会話のシチュエーションに応じた簡単なやり取りが韓国語で出来る力を身につけます。その他、授業では、言葉の背景にある韓国の文化・社会について適宜触れることにより、韓国・韓国語への理解も深めていきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・学習した文型・表現を用いて頭の中で文を組み立てるようになる。 ・重要単語やフレーズは文字(書かれたもの)を見ずに、言えるようになる。 ・習った語彙・表現を使って、場面に応じた簡単なやり取りができるようになる。 ・相手に伝わる発音を身に付ける。
授業形態	演習
授業方法	教科書各項目の解説、文型練習、音読・ペア会話練習
授業計画	【第1回】授業の概要 初級のおさらい(4-5課) 【第2回】初級のおさらい(6-7課) 【第3回】第8課 意志、目的の表現 【第4回】第8課 尊敬の表現(過去形) 【第5回】第9課 理由、授受の表現 【第6回】第9課 逆説、確認の表現 【第7回】おさらい 【第8回】第10課 連体形 【第9回】第10課 進行、完了の表現 【第10回】第11課 連体形(過去) 【第11回】第11課 補助動詞(-てみる) 【第12回】おさらい、テスト 【第13回】まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	次回学習する頁をよく読み、文法説明や単語の意味を把握しておく。教科書付属の音声を聞く。その日習った単語は書いて覚えるようにする。単語・文章は声に出して音読する。
成績評価方法・基準	平常点(課題、受け答え、授業態度)40%、試験60%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	『ワンステップ韓国語』 河正一 著、朝日出版社、2022年、ISBN:978-4-255-55689-5
履修上の留意点	・授業に出席するだけでは身につけません。毎回の予習・復習は欠かせません。 ・文字を見て読めるだけでは発音はよくなりません。教科書付属の音声を活用した音読やシャドーイング練習が効果的です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021110
講義名	地域言語(韓国語)中級 I B組
担当者名	崔 鶴山
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。日常的な場面で使われる韓国語の単語や表現が用いられた比較的に長い文章を読み、その要点や趣旨を捉えることができる文章読解力を身に付ける。さらに、単語のレベルではなく、連語などの組み合わせによって用いられる表現や慣用語などの意味を正しく理解し、活用できる能力も磨いていく。
授業の内容	日常生活のための文法と表現を習得する授業です。文型練習を通して文の仕組みに慣れることで、読解力と口頭作文力の向上を目指します。また、教科書で習った表現やフレーズは読んで意味わかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、実際に声に出して音読練習やペア会話練習を行います。それをベースに、日常会話のシチュエーションに応じた簡単なやり取りが韓国語で出来る力を身につけます。その他、授業では、言葉の背景にある韓国の文化・社会について適宜触れることにより、韓国・韓国語への理解も深めていきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・学習した文型・表現を用いて頭の中で文を組み立てるようになる。 ・重要単語やフレーズは文字(書かれたもの)を見ずに、言えるようになる。 ・習った語彙・表現を使って、場面に応じた簡単なやり取りができるようになる。 ・相手に伝わる発音を身に付ける。
授業形態	演習
授業方法	教科書各項目の解説、文型練習、音読・ペア会話練習
授業計画	【第1回】授業の概要 初級のおさらい(4-5課) 【第2回】初級のおさらい(6-7課) 【第3回】第8課 意志、目的の表現 【第4回】第8課 尊敬の表現(過去形) 【第5回】第9課 理由、授受の表現 【第6回】第9課 逆説、確認の表現 【第7回】おさらい 【第8回】第10課 連体形 【第9回】第10課 進行、完了の表現 【第10回】第11課 連体形(過去) 【第11回】第11課 補助動詞(-てみる) 【第12回】おさらい、テスト 【第13回】まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	次回学習する頁をよく読み、文法説明や単語の意味を把握しておく。教科書付属の音声を聞く。その日習った単語は書いて覚えるようにする。単語・文章は声に出して音読する。
成績評価方法・基準	平常点(課題、受け答え、授業態度)40%、試験60%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	『ワンステップ韓国語』 河正一 著、朝日出版社、2022年、ISBN:978-4-255-55689-5
履修上の留意点	・授業に出席するだけでは身につけません。毎回の予習・復習は欠かせません。 ・文字を見て読めるだけでは発音はよくなりません。教科書付属の音声を活用した音読やシャドーイング練習が効果的です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021200
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅡA組
担当者名	安 國煥
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。日常的な場面で使われる様々な韓国語特有の表現法を身に付け、韓国語による丁寧な依頼や誘い、指示や命令、受諾や拒否などができる能力の向上を図る。
授業の内容	文法表現の習得だけではなく、聞き取りや会話の練習も並行して行い、日常会話が身に付くよう力を入れる。 そして、韓国の大衆文化などを紹介し、韓国の社会や文化をより深く理解できるように指導する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	一年間習った韓国語をもとに日常生活でよく使われる語彙や表現の習得を目指す。
授業形態	演習
授業方法	・原則として、対面式授業を行う。 ・テキストに基づいて、発音の練習、読解と文法の説明などを行う。 ・テキスト以外にも理解度や興味に合わせて、プリントやビデオなども使用して学んでいく。 ・会話練習のため、小グループに分けて会話をを行い、自然にコミュニケーションができるように練習する。
授業計画	【第1回】 オリエンテーションと初級内容の復習 【第2回】 1課(1): 尊敬と条件を表す表現の説明・練習 【第3回】 1課(2): 意図や計画表現の説明・練習、会話と作文練習 【第4回】 2課(1): 紹介と期間を表す表現の説明・練習 【第5回】 2課(2): 動作の順序表現の説明と練習、会話と作文練習 【第6回】 3課(1): 本文の解説、会話と聞き取り練習 【第7回】 3課(2): 動作の順序表現の説明と練習、会話と作文練習 【第8回】 1～3課まで中間理解度確認、 4課(1): 連体形(形容詞)と理由表現の説明・練習 【第9回】 4課(2): 決心や約束を表す表現の説明・練習、会話と作文発表 【第10回】 5課(1): 位置と手段・道具を表す表現の説明と練習 【第11回】 5課(2): 動作の順序を表す表現の説明・練習、会話と作文発表 【第12回】 6課(1): 連体形(動詞)の説明・練習 【第13回】 6課(2): 状況説明と経験を表す表現の説明・練習、 期末理解度確認と解説
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回授業で学んだ文型表現を定着させるため、練習ドリルを出すのでしっかりとやっていくこと。そして、事前に教科書の各課ごとにまとめた単語を覚えていくこと(単語の小テスト実施)。
成績評価方法・基準	・小テスト 10%(単語や文法活用テスト) ・中間・期末理解度確認 80% ・平常点 10%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	金順玉・阪堂千津子・崔栄美、『ちよこつとチャレンジ！韓国語』(改訂版)、白水社
履修上の留意点	・全授業回数の1/3以上の欠席は理由の如何にかかわらず評価対象外となる。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021210
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅡB組
担当者名	安 國煥
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。日常的な場面で使われる様々な韓国語特有の表現法を身に付け、韓国語による丁寧な依頼や誘い、指示や命令、受諾や拒否などができる能力の向上を図る。
授業の内容	文法表現の習得だけではなく、聞き取りや会話の練習も並行して行い、日常会話が身に付くよう力を入れる。 そして、韓国の大衆文化などを紹介し、韓国の社会や文化をより深く理解できるように指導する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	一年間習った韓国語をもとに日常生活でよく使われる語彙や表現の習得を目指す。
授業形態	演習
授業方法	・原則として、対面式授業を行う。 ・テキストに基づいて、発音の練習、読解と文法の説明などを行う。 ・テキスト以外にも理解度や興味に合わせて、プリントやビデオなども使用して学んでいく。 ・会話練習のため、小グループに分けて会話をし、自然にコミュニケーションができるように練習する。
授業計画	【第1回】 オリエンテーションと初級内容の復習 【第2回】 1課(1): 尊敬と条件を表す表現の説明・練習 【第3回】 1課(2): 意図や計画表現の説明・練習、会話と作文練習 【第4回】 2課(1): 紹介と期間を表す表現の説明・練習 【第5回】 2課(2): 動作の順序表現の説明と練習、会話と作文練習 【第6回】 3課(1): 本文の解説、会話と聞き取り練習 【第7回】 3課(2): 動作の順序表現の説明と練習、会話と作文練習 【第8回】 1～3課まで中間理解度確認、 4課(1): 連体形(形容詞)と理由表現の説明・練習 【第9回】 4課(2): 決心や約束を表す表現の説明・練習、会話と作文発表 【第10回】 5課(1): 位置と手段・道具を表す表現の説明と練習 【第11回】 5課(2): 動作の順序を表す表現の説明・練習、会話と作文発表 【第12回】 6課(1): 連体形(動詞)の説明・練習 【第13回】 6課(2): 状況説明と経験を表す表現の説明・練習、 期末理解度確認と解説
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回授業で学んだ文型表現を定着させるため、練習ドリルを出すのでしっかりとやっていくこと。そして、事前に教科書の各課ごとにまとめた単語を覚えていくこと(単語の小テスト実施)。
成績評価方法・基準	・小テスト 10%(単語や文法活用テスト) ・中間・期末理解度確認 80% ・平常点 10%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	金順玉・阪堂千津子・崔栄美、『ちよこつとチャレンジ！韓国語』(改訂版)、白水社
履修上の留意点	・全授業回数の1/3以上の欠席は理由の如何にかかわらず評価対象外となる。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021300
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅢA組
担当者名	安 國煥
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。比較的平易な韓国語で書かれた新聞記事やインターネット記事を教材として「文語」と「口語」の言語学的違いを理解する能力を習得する。文語で書かれた内容を口語で表現する練習を繰り返す。と同時に、より自然かつ正確な韓国語の発音ができるように練習する。
授業の内容	文法表現の習得だけではなく、会話の練習も並行して行い、日常会話に身につくよう力を入れる。 そして、韓国の新聞記事や映画、歌などを通じて、韓国の社会や文化をより深く理解できるように指導する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	より日常生活で使われる文法事項と表現を習得し、実際に韓国の新聞記事や映画、歌などを使って練習を行い、生活会話の表現を身につけることを目指す。
授業形態	演習
授業方法	・原則として、対面授業を行う。 ・テキストに基づいて、発音の練習、読解と文法の説明などを行う。 ・学んだ文法の理解度を高めるため、練習ドリルを使用する。 ・韓国の新聞記事などを和訳発表させ、添削指導を行う。
授業計画	【第1回】 7課(1): 依頼、助言を表す表現の説明・練習 【第2回】 7課(2): 勧誘、丁寧な依頼を表す表現の説明・練習、会話練習 【第3回】 8課(1): 理由や根拠を表す説明・練習 【第4回】 8課(2): 感嘆、推測表現の説明・練習、新聞記事の和訳 【第5回】 9課(1): 敬語、不可能表現の説明と練習 【第6回】 9課(2): 時間・場合を表す表現の説明と練習、インターネット記事の和訳 【第7回】 9課までの復習、中間理解度確認 【第8回】 10課(1): 傾向を表す表現の説明・練習 【第9回】 10課(2): 同時並行動作、事柄を表す表現の説明・練習、新聞記事の和訳 【第10回】 11課(1): 間接話法(動詞・形容詞)の説明・練習 【第11回】 11課(2): 間接話法(過去、縮約形)の説明・練習、会話練習 【第12回】 12課: 過去の回想や状態の変化を表す表現の説明・練習 【第13回】 まとめ(最終理解度確認と解説)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回授業で学んだ文型表現を定着させるため、練習ドリルを出すのでしっかりとやってもらうこと。そして、事前に教科書の各課ごとにまとめた単語を覚えてもらうこと(単語の小テスト実施)。
成績評価方法・基準	・課題と単語テスト: 10% ・理解度確認テスト: 80% ・平常点 10%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	金順玉・阪堂千津子・崔栄美、『ちよこっとチャレンジ！韓国語』(改訂版)、白水社
履修上の留意点	①全授業回数の1/3以上の欠席は理由の如何にかかわらず評価対象外となる。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021310
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅢB組
担当者名	安 國煥
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。比較的平易な韓国語で書かれた新聞記事やインターネット記事を教材として「文語」と「口語」の言語学的違いを理解する能力を習得する。文語で書かれた内容を口語で表現する練習を繰り返す。と同時に、より自然かつ正確な韓国語の発音ができるように練習する。
授業の内容	文法表現の習得だけではなく、会話の練習も並行して行い、日常会話に身につくよう力を入れる。 そして、韓国の新聞記事や映画、歌などを通じて、韓国の社会や文化をより深く理解できるように指導する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	より日常生活で使われる文法事項と表現を習得し、実際に韓国の新聞記事や映画、歌などを使って練習を行い、生活会話の表現を身につけることを目指す。
授業形態	演習
授業方法	・原則として、対面授業を行う。 ・テキストに基づいて、発音の練習、読解と文法の説明などを行う。 ・学んだ文法の理解度を高めるため、練習ドリルを使用する。 ・韓国の新聞記事などを和訳発表させ、添削指導を行う。
授業計画	【第1回】 7課(1): 依頼、助言を表す表現の説明・練習 【第2回】 7課(2): 勧誘、丁寧な依頼を表す表現の説明・練習、会話練習 【第3回】 8課(1): 理由や根拠を表す説明・練習 【第4回】 8課(2): 感嘆、推測表現の説明・練習、新聞記事の和訳 【第5回】 9課(1): 敬語、不可能表現の説明と練習 【第6回】 9課(2): 時間・場合を表す表現の説明と練習、インターネット記事の和訳 【第7回】 9課までの復習、中間理解度確認 【第8回】 10課(1): 傾向を表す表現の説明・練習 【第9回】 10課(2): 同時並行動作、事柄を表す表現の説明・練習、新聞記事の和訳 【第10回】 11課(1): 間接話法(動詞・形容詞)の説明・練習 【第11回】 11課(2): 間接話法(過去、縮約形)の説明・練習、会話練習 【第12回】 12課: 過去の回想や状態の変化を表す表現の説明・練習 【第13回】 まとめ(最終理解度確認と解説)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回授業で学んだ文型表現を定着させるため、練習ドリルを出すのでしっかりとやってもらうこと。そして、事前に教科書の各課ごとにまとめた単語を覚えてもらうこと(単語の小テスト実施)。
成績評価方法・基準	・課題と単語テスト: 10% ・理解度確認テスト: 80% ・平常点 10%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	金順玉・阪堂千津子・崔栄美、『ちよこつとチャレンジ! 韓国語』(改訂版)、白水社
履修上の留意点	①全授業回数の1/3以上の欠席は理由の如何にかかわらず評価対象外となる。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021400
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅣA組
担当者名	崔 鶴山
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。韓国の映画・ドラマ・歌などを教材として使用し、聞き取りの練習を中心に行う。「口語」の様々なバリエーションを理解し、日常生活の場面で活用できる能力を身に付ける。さらに、教材の中に表れる韓国の文化的・社会的特徴を読みとく能力を磨いていく。
授業の内容	日常生活のための中級文法と表現を習得する授業です。教科書で習った表現やフレーズは読んでわかるだけではなく、聞いて意味がわかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、実際に声に出して音読練習やペア会話練習を行います。文法は、主に動詞・形容詞の活用の仕組みに十分慣れるようにします。その他、韓国の歌・ニュースなどの聞き取り、その言葉の背景にある韓国の文化・社会への理解も深めていきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・授業で習ったフレーズや表現の意味は読んでわかるだけではなく、聞いてわかるようになる。 ・重要単語やフレーズは文字(書かれたもの)を見ずに、言えるようになる。 ・習った単語や表現を聞き取って、場面に応じたやり取りができるようになる。 ・相手に伝わる発音を身に付ける。
授業形態	演習
授業方法	教科書各項目の解説、音読・シャドーイング・聞き取り練習、ペア会話練習
授業計画	【第1回】授業の概要 おさらい 【第2回】第13課 假定、意図の表現 【第3回】第13課 推測、前置き表現 【第4回】第14課 可能・不可能、義務の表現 【第5回】第14課 変則1、理由の表現 【第6回】第15課 変則2 【第7回】おさらい 【第8回】第15課 禁止、許可の表現 【第9回】第16課 変則3、詠嘆の表現 【第10回】第16課 傾向、頻度の表現 【第11回】第17課 変則4、副詞化 【第12回】おさらい、テスト 【第13回】まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	次回学習する頁をよく読み、文法説明や単語の意味を把握しておく。教科書付属の音声を聞く。その日習った単語は書いて覚えるようにする。単語・文章は声に出して音読する。
成績評価方法・基準	平常点(課題、受け答え、授業態度)40%、試験60%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	『ワンステップ韓国語』 河正一 著、朝日出版社、2022年、ISBN:978-4-255-55689-5
履修上の留意点	・授業に出席するだけでは身につけません。毎回の予習・復習は欠かせません。 ・文字を見て読めるだけでは聞き取りや会話力の上達は望めません。教科書付属の音声を活用した音読・シャドーイング練習が効果的です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH021410
講義名	地域言語(韓国語)中級ⅣB組
担当者名	崔 鶴山
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語初級を既習した者を対象とする。韓国の映画・ドラマ・歌などを教材として使用し、聞き取りの練習を中心に行う。「口語」の様々なバリエーションを理解し、日常生活の場面で活用できる能力を身に付ける。さらに、教材の中に表れる韓国の文化的・社会的特徴を読みとく能力を磨いていく。
授業の内容	日常生活のための中級文法と表現を習得する授業です。教科書で習った表現やフレーズは読んでわかるだけではなく、聞いて意味がわかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、実際に声に出して音読練習やペア会話練習を行います。文法は、主に動詞・形容詞の活用の仕組みに十分慣れるようにします。その他、韓国の歌・ニュースなどの聞き取り、その言葉の背景にある韓国の文化・社会への理解も深めていきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・授業で習ったフレーズや表現の意味は読んでわかるだけではなく、聞いてわかるようになる。 ・重要単語やフレーズは文字(書かれたもの)を見ずに、言えるようになる。 ・習った単語や表現を聞き取って、場面に応じたやり取りができるようになる。 ・相手に伝わる発音を身に付ける。
授業形態	演習
授業方法	教科書各項目の解説、音読・シャドーイング・聞き取り練習、ペア会話練習
授業計画	【第1回】授業の概要 おさらい 【第2回】第13課 假定、意図の表現 【第3回】第13課 推測、前置き表現 【第4回】第14課 可能・不可能、義務の表現 【第5回】第14課 変則1、理由の表現 【第6回】第15課 変則2 【第7回】おさらい 【第8回】第15課 禁止、許可の表現 【第9回】第16課 変則3、詠嘆の表現 【第10回】第16課 傾向、頻度の表現 【第11回】第17課 変則4、副詞化 【第12回】おさらい、テスト 【第13回】まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	次回学習する頁をよく読み、文法説明や単語の意味を把握しておく。教科書付属の音声を聞く。その日習った単語は書いて覚えるようにする。単語・文章は声に出して音読する。
成績評価方法・基準	平常点(課題、受け答え、授業態度)40%、試験60%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	『ワンステップ韓国語』 河正一 著、朝日出版社、2022年、ISBN:978-4-255-55689-5
履修上の留意点	・授業に出席するだけでは身につけません。毎回の予習・復習は欠かせません。 ・文字を見て読めるだけでは聞き取りや会話力の上達は望めません。教科書付属の音声を活用した音読・シャドーイング練習が効果的です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG303
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH022100
講義名	地域言語(韓国語)上級 I
担当者名	崔 鶴山
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語中級までを既習した者を対象とする。幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事、評論、社説などから、取扱説明書や新聞広告、各種パンフレットなどにいたる種々様々な文章を読んで、その要点や趣旨を捉えられる高度な文章読解力を身に付ける。さらに、それぞれの内容を韓国語でまとめるトレーニングを通じて作文力の向上を図る。
授業の内容	この授業では、よりレベルアップした中上級表現や文法を体系的に学ぶことで、多様な文体と文章を読み解く力を養うとともに、その内容に関して文章で書ける力を付けていきます。教科書を中心に進めていきますが、韓国の生活・文化など各課のテーマに合わせて、新聞、広告、パンフレットなど多様な文章が読めるようにします。また、各課の長文・会話文を題材に質疑応答や意見等を述べる練習をします。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・辞書等を参考に新聞記事レベルの文章が大体理解できる。 ・韓国語で発表ができるようになる。質疑応答ができる。 ・正しい発音を身に付ける。
授業形態	演習
授業方法	日本語から韓国語に直す練習(口頭)、和訳練習、音読練習
授業計画	【第1回】授業の概要 自由会話 テーマ/主な文型 【第2回】旅行／－ついでに(3課) 【第3回】ショッピング旅行／文中の疑問語尾(4課) 【第4回】趣味／指示の表現(5課) 【第5回】ため口／ため口(6課) 【第6回】伝える／間接話法(7課) 【第7回】おさらい 【第8回】流行／結果の表現(8課) 【第9回】プレゼント／文中の疑問語尾(9課) 【第10回】新聞記事／経験の表現(10課) 【第11回】発表 【第12回】おさらい、テスト 【第13回】まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	次回学習する課の長文・会話文を読んでくる(意味把握) 付属の音声を活用して音読とシャドーイング練習をする。その日習った語彙と表現は書きながら覚える。練習問題を復習する。
成績評価方法・基準	平常点(課題、発)50%、試験50%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	『できる韓国語中級 I 』李志暎 他著, 2014(改訂版), ISBN:978-4-87217-927-9
履修上の留意点	この授業は予習が必要です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバ	CG304
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH022200
講義名	地域言語(韓国語)上級Ⅱ
担当者名	安 國煥
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語中級までを既習した者を対象とし、韓国語の翻訳トレーニングを集中的に行う。幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事、評論、社説などや、取扱説明書や新聞広告、各種パンフレットなど、さらに、映画やドラマの台詞などを自然かつ正確な日本語に翻訳できるスキルを身に付ける。
授業の内容	科目本来の趣旨に則し、韓国語の翻訳トレーニングを行いながら、翌年4月に実施される韓国語能力試験(TOPIKⅡ)における4級合格に向けた支援を、作文・会話分野を中心に行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・韓国語能力試験で4級に合格できるだけ韓国語のレベルに到達する。 ・日常生活において自分の考えや意見をちゃんと韓国語で話せることを目指す。
授業形態	演習
授業方法	・原則として、対面式授業を行う。 ・韓国能力試験の短文や長文作文問題を解く練習をする。 ・そして、日常生活でよく起きる出来事についての会話練習を行う。
授業計画	【第1回】授業内容の説明、TOPIKⅡ作文問題<空欄補充問題、51番>の説明と練習 【第2回】会話(1): 学校施設の利用に関する会話練習、スピーチ(1) 【第3回】TOPIKⅡ作文問題<空欄補充問題、52番>の説明と練習 【第4回】会話(2): クラスメイトの第一印象と性格に関する会話練習、スピーチ(2) 【第5回】TOPIKⅡ作文問題<図表が表す内容を作成、53番①>の説明と練習 【第6回】会話(3): 余暇活動や趣味生活に関する会話練習、スピーチ(3) 【第7回】TOPIKⅡ作文問題<提示された情報を文章にまとめる、53番②>の説明と練習 【第8回】会話(4): 悩み相談に関する会話練習、スピーチ(4) 【第9回】日韓関係に関する記事の和訳と発表 【第10回】会話(5): 大衆交通の利用に関する会話練習、スピーチ(5) 【第11回】韓国のドラマ内容の和訳と発表 【第12回】会話(6): 住まい探しとトラブルに関する会話練習、スピーチ(6) 【第13回】最終理解度確認および解説
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	・本授業は韓国語能力試験合格に向けた支援のため、事前に過去問題が課題として課されることになっているので、前もって問題を解いてくこと。
成績評価方法・基準	・作文や発表 : 40% ・理解度確認テスト: 50% ・平常点: 10%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	必要な教材や資料は、manabaに載せる。
履修上の留意点	なし
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG401
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH022300
講義名	地域言語(韓国語)上級Ⅲ
担当者名	原田 静香
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語中級までを既習した者を対象に、ビジネス韓国語の習得を目指す。特に、観光業に焦点を当てて接客や観光ガイドからクレームの処理方法までの様々なシチュエーションで用いられる韓国語の表現を正確に聞き取り、韓国語で対応できる能力を身に付ける。
授業の内容	ビジネスシーンでの韓国語を中心として、フォーマルな書き言葉、話し言葉の習得を目指す。1回の授業の中で、テキストを用いてシーン別の語彙や用例、フレーズを学んだ後、ロールプレイで会話の実践や聞き取りの練習を行う。難易度は初回の授業で受講者のレベルや学習歴を見て調整する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ビジネスの場で使用できる基礎的な表現を身につけ、その場に応じた適切な単語、フレーズを選択し、運用できるようになることを目指す。具体的には、挨拶や案内、謝罪や提案、報告など、シーンに応じて選択可能な表現を複数備え、正確な聞き取りを行った上で、最も適切な表現を選択できるようにする。
授業形態	演習
授業方法	・テキストを用いた学習 ・補足の教材(別途資料)による学習 ・韓国語での読み書き、会話の実践
授業計画	【第1回】オリエンテーション(自己紹介、授業の概要や評価基準について説明)、使用する教材の調整など 【第2回】尊敬表現 助詞・動詞・形容詞・存在詞・名詞の尊敬語、謙譲の表現 【第3回】場所の案内、位置の表現 【第4回】数字の聞き取り方、話し方 【第5回】電話対応の仕方 【第6回】注意、禁止、依頼の仕方 【第7回】中間理解度チェック: ロールプレイで、ランダムに与えられた状況や相手のセリフに合わせ、適切な表現を選択し、会話を行う。 【第8回】問い合わせ、確認の表現 【第9回】謝罪の表現、提案の表現 【第10回】名前を聞き取る、漢字表記の確認方法 【第11回】伝言の伝え方 【第12回】メール、ビジネスレターの書き方 【第13回】期末理解度チェック: ロールプレイで、ランダムに与えられた状況や相手のセリフに合わせ、適切な表現を選択し、会話を行う。 ※受講者のレベルや学習歴に応じて、内容は一部変更の可能性はある。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	適宜、学習した項目を含んだ試験(会話および記述)を行う。毎回の授業内容の予習・復習を行っておくこと。
成績評価方法・基準	・平常点(課題、小テスト含む) 40% ・試験(中間、期末)60%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でこなう。

教科書・指定図書	幅野 泉ほか『シゴトの韓国語 応用編』三修社
履修上の留意点	講義の特性上、受講者の積極的な学習と参加が必要となる科目。ペアワークなど、実践的な練習を多く含む。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG402
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH022400
講義名	地域言語(韓国語)上級Ⅳ
担当者名	原田 静香
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、韓国語中級までを既習した者を対象とする。履修生自身が関心を持っているテーマに沿って韓国語の文献や記事をピックアップし、韓国語でその内容をまとめて発表する。高度な韓国語の運用能力だけでなく、韓国の歴史・社会・文化などに対する理解を深めつつ、自ら選んだトピックについて自分の考えや意見を韓国語で述べられるスキルの獲得を目指す。
授業の内容	韓国語で書かれた文章を読み、理解し、自らの意見を韓国語で述べる実践的な授業を行う。テキストと並行して韓国文化や社会、日常的な場面でよく使われる単語やフレーズについての紹介を挟み、広い興味・関心を促す。使用するテキストに加え、受講者の関心に応じた資料を用いて発表を行ってもらう。各回の発表担当者を決め、担当者は内容の紹介を行い、担当者以外は自らの意見や感想などを韓国語で述べ、適宜少人数に分かれてディスカッションを行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	内容の梗概に関わらず、ある程度量のある韓国語の文章を読み、それを韓国語で要約できるようになる。また、提示された文章を理解した上で、自らの意見を韓国語で述べられるようになる。そのために必要な語彙および文法の習得も同時に目指す。
授業形態	演習
授業方法	・テキストを用いた学習 ・補足の教材(別途資料)による学習 ・韓国語での読み書きの実践
授業計画	【第1回】オリエンテーション(自己紹介、授業の概要や評価基準について説明)、2024年10大キーワードの確認、各自担当回の調整など 【第2回】2023 10大トレンド商品① 無人店舗、旅行バラエティー 【第3回】2023 10大トレンド商品② ChatGPT、コンビニの超低価格・超大型商品 【第4回】2023 10大トレンド商品③ タンパク質食品、レストラン予約・順番待ちアプリ 【第5回】2023 10大トレンド商品④ ウェブトゥーン・ウェブ小説、Y2K・レトロアイテム 【第6回】2023 10大トレンド商品⑤ ポップアップストア、故郷愛寄付制度 【第7回】平均が消えた場所① 【第8回】平均が消えた場所② 【第9回】平均が消えた場所③ 【第10回】関係の再解釈① 【第11回】関係の再解釈② 【第12回】期末発表(個人テーマ) 【第13回】期末発表(個人テーマ)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	1回の授業で使用テキストの数ページを進めるため、内容について事前の予習が必要となる。文章を予め読み、知らない表現や単語を抜き出して調べておく。また、日本語での適切な訳を考えておく。
成績評価方法・基準	・平常点 20% ・課題(発表、各授業の予習など) 80%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	使用テキスト:『トレンド 코리아 2024 - 2024大韓民国消費トレンドの展望』著:キム・ナンド チョン・ミヨン チェ・ジヘ イ・スジンほか(韓国語)上の書籍を中心として使用。使用する資料は教員が用意するため、初回に教科書購入の必要はない。
履修上の留意点	受講者の積極的な学習が必要となる科目。毎回の授業の予習、復習を必ず行うこと。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH031100
講義名	地域言語(インドネシア語)中級 I
担当者名	竹下 愛
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	インドネシア語初級を既習した学生を対象とする。インドネシアの日常生活や文化に関する文章を読み、単語から語根を見つける練習を繰り返し行うことで、辞書の引き方をマスターすると同時に、インドネシア語の文章読解力を身に付けることをめざす。
授業の内容	学生は辞書を活用しながら、テーマに沿ってインドネシアの写真(観光地・町、伝統文化、宗教などの写真)を探し、その写真を説明するインドネシア語の文章を作成する。教員がそれを添削し、学生は修正することを通じて、インドネシア語での文章を作り方や単語を習熟する。後半はグループに分かれてインドネシア語で書かれた格言、名言など、解釈の必要な文章を解説・翻訳し、クイズ形式で回答を発表する。さらにそれぞれのグループで、独自に「格言・名言」をインドネシア語で作成して発表する。ほかのグループは発表された格言・名言の意味をそれぞれ解釈・回答する。 なお、過去の問題を用いてインドネシア語検定試験受験のための対策も行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は辞書を活用しながら、インドネシアの写真を探し、それにふさわしいインドネシア語の文章を作成し、教員の添削を受けてそれを修正しながら、インドネシア語の単語や文章構造を確実に習得することが、前半の学びの到達目標である。また、インドネシア語による含蓄に深い格言、名言に触れることで、インドネシア語を「読むこと」への興味関心・モチベーションを高める。さらには自分たちで知りうる単語を駆使して「格言」を創作し、応用力を養う。
授業形態	演習
授業方法	授業方法 学生はテーマに沿って写真を探し、その写真を説明するインドネシア語の文章を作成し、教員に提出する。教員は学生の文章を添削し、修正を指示し、学生は修正する。他の学生の前で写真と作文を使ってプレゼンテーションを行う。質疑応答もインドネシア語で行う。インドネシア語検定試験対策授業も行い、文章読解力、語彙力などを合わせて養う。また、グループに分かれて紹介するインドネシア語の格言・名言を解釈する。さらにそれぞれのグループでインドネシア語の格言を作り、意味をお互いに言い当てる。
授業計画	授業計画 【第1回】授業の進め方を説明し、中級 I のおさらいをする 【第2回】 写真を使った作文① インドネシアの観光地について 【第3回】 作文①のプレゼンテーションと質疑応答を行う 【第4回】 作文①のプレゼンテーションと質疑応答を行う 【第5回】 写真を使った作文② インドネシアの伝統文化について 【第6回】 作文②のプレゼンテーションと質疑応答を行う 【第7回】 作文②のプレゼンテーションと質疑応答を行う 【第8回】 インドネシア語検定対策を過去問題を用いて行う 【第9回】 インドネシア語検定対策を過去問題を用いて行う 【第10回】 インドネシア語検定対策を過去問題を用いて行う 【第11回】 インドネシア語の格言・名言を読み、グループで解釈する。 【第12回】 インドネシア語の格言・名言を読み、グループで解釈する。 【第13回】 各グループでインドネシア語の格言を作り、ほかのグループはそれぞれをクイズ形式で解釈する。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	単語力を付けることに努力を傾けること。テーマに沿って予習を行い、インドネシア語での会話表現力を向上させることに力を注ぐこと。具体的には単語帳の利用を推奨する。様々なテキストを通じて出会った単語を単語帳にまとめ、日本語、インドネシア語いずれにも変換できるよう繰り返し覚えること。(なお、インドネシア語はつづりと発音が一致しているので正しくつづりを覚えると同時に声に出して発音し、耳でも覚えるようにしてみる)
成績評価方法・基準	出席日数、遅刻の有無など20% 会話表現能力の達成度、語彙力などを測定するためのテストを実施30% 後半:グループワークにおける貢献度(グループメンバー同士の相互評価を参照する)50% 出席日数、遅刻の有無など20% 会話表現能力の達成度、語彙力などを測定するためのテストを実施30% なお、動画鑑賞などを行った場合は随時レポートの提出を求めることがある。レポートの提出は文字数や期限を厳守すること。
課題(試験やレポート等)につ	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

いてのフィード バック方法	
教科書・指定図 書	辞書: 佐々木重次『最新インドネシア語小辞典』 あるいは、 『プログレッシブ インドネシア語辞典』 のどちらかを使用する。後者はインドネシア語-日本語、日本語-インドネシア語両方引くことができる。
履修上の留意 点	とくになし
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバ	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH031200
講義名	地域言語(インドネシア語)中級Ⅱ
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	インドネシア語初級を既習した学生を対象とする。原則としてインドネシア語ネイティブ教員の指導の下で会話を学習する。接頭辞・接尾辞の付いた動詞・名詞、助動詞、受動態、関係詞yangを含む会話を聴き取る練習をしながら、教員を交えて学生同士で互いに会話練習を行い、インドネシア語らしい表現や言い回しを使えるようにすることをめざす。
授業の内容	本講座では、インドネシア語を効率的に習得できるよう十分な配慮を行います。 まず初めにプリント教材を複数回にわたり音読し読み込むことで、発音とアクセントの指導を行います。その後、重要語彙・新出語彙の意味と用法を確認し、併せて重要文法事項についての解説を行います。以上の作業を完了させた後で、それらの語彙・文法事項を用いて、日本語文からインドネシア語文への作文練習を行います。この作文練習を通じて、インドネシア語の文章構造をより深く理解すると同時に、日常生活で多用される定型的な文章を習得することができます。その後、グループに分かれて対話練習を行い、さらにロールプレイを繰り返すことで、インドネシア語の会話能力の向上をはかります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	プリント教材を用いて、インドネシア語の動詞と名詞を中心にした語彙力・文法力の増強を図ります。この作業を通じて、日常生活で頻出する定型的文章を習得することができます。さらに、この定型的文章を、対話練習とロールプレイ練習を通じて円滑に運用することで、双方向の会話力(すなわち発話力と聴解力)を養うことができます。別言すれば、インドネシア語技能検定試験D級レベルの会話力育成を到達目標にできるということです。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、受講生に可能な限り多くのインドネシア語を聞いてもらい、可能な限り多くの発話をしてもらうことを心がけています。講師から受講生への一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしたいと考えています。授業の前半では、まず新出語彙と文法事項を説明し、その後作文練習を行います。これにより、インドネシア語の文章構造をより深く理解してもらいます。授業後半では、対話練習とロールプレイ練習を中心に据え、会話力を養います。これらの学習を通じて、インドネシア語の総合力を養います。
授業計画	【第1回目】イントロダクション 内容: 今後の授業運営についての説明。 【第2回目】Pura Tanah Lot-1 内容: タナ・ロット寺院(この寺院は～にあります、建立された目的は～です、～に位置しています、等) 【第3回目】Pura Tanah Lot-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が日本の寺社について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第4回目】Masa Kecil-1 内容: 子供時代(私は子供のころ～が好きでした、～をよく食べました、～と遊びました、等) 【第5回目】Masa Kecil-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの子供時代について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第6回目】Sahabat Karib-1 内容: 親友(私の親友は～です、～で知り合いました、～からの知り合いです、親友の性格は～です、等) 【第7回目】Sahabat Karib-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの親友について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第8回目】Cita-Cita Saya-1 内容: 私の夢(私の夢は～になることです、その夢は～からのものです、その理由は～です、等) 【第9回目】Cita-Cita Saya-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの夢について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第10回目】Film-1 内容: 映画(私の好きな映画は～です、好きな俳優・女優は～です、その映画の内容は～です、等) 【第11回目】Film-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの好きな映画について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第12回目】Idola Saya 内容: 私のアイドル(私のアイドルは～です、いつからのファンですか、なぜそのアイドルが好きなのですか、等) 【第13回目】総括、質疑応答 内容: これまでに学習してきた内容を大所高所から俯瞰することで、インドネシア語の体系的な理解へと導く。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	事前にプリント教材を配布するので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度と課題の提出状況（平常点）、ならびに各回のプレゼンテーション内容（プレゼンテーション点）によります。 平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）と提出課題の内容を中心に評価を行います。プレゼンテーション点では、発表された内容を判定し点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	毎回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH031300
講義名	地域言語(インドネシア語)中級Ⅲ
担当者名	竹下 愛
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	インドネシア語中級I、IIを既習した学生を対象とする。インドネシア語の読解能力と作文能力を養う。インドネシア語の文章を読んで内容を正確に理解し、また自分や家族、友人、大学生生活や日本文化など様々なテーマについて、平易なインドネシア語で紹介したり、プレゼンテーションを行うことができる能力を身に付ける。
授業の内容	学生は辞書を活用しながら、インドネシア語での会話に習熟する授業を行う。前半では主に、日常的な一般会やインドネシアへの個人旅行を設定したダイアログを配布するテキストを用いて学ぶ。旅行に必要な基礎的語彙、さらにインドネシアならではの、物産や食品、生活全般、文化や宗教などに関連する語彙を学習する。後半では、グループに分かれて寸劇を上演する。前半で学習したインドネシア旅行に必要な、買い物、食事、病院での伝達、防犯・非常時の対応、道の尋ね方などのダイアログを応用し、それぞれのグループで話し合いつつ独自に寸劇のシナリオを作成。インドネシア語にシナリオを翻訳し、練習の上、披露する。なお、インドネシア語検定の問題集を用いて受験対策も行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は辞書を活用しながら、インドネシア語での基本的な会話を流暢に行うことができるようになること、インドネシア語の単語や文章構造を確実に習得することが、学びの到達目標の初めのひとつである。同時に読む、聴く、いずれの形においても文法的な細部を含めてインドネシア語をクリアに理解し、意味を正しく把握できるようになることを学びの到達目標の二つ目となる。以上の二つの学習目標をクリアしつつ、インドネシアという国への興味や関心を高める。
授業形態	演習
授業方法	前半では主に、配布するテキストを利用しながら会話表現を学ぶ。旅行などに必要な基礎的語彙、同時に文法やイディオム、基礎的な構文の応用力を繰り返し身に付ける。後半では、グループに分かれて寸劇を上演する。前半で学習したインドネシア旅行に必要な、買い物、食事、病院での伝達、防犯・非常時の対応、道の尋ね方などのダイアログを応用し、それぞれのグループで話し合いつつ独自に寸劇のシナリオを作成。インドネシア語にシナリオを翻訳し、練習の上、披露する。
授業計画	【第1回】授業の進め方を説明し、中級Ⅰのおさらいをする。 【第2回】会話練習・自己紹介に関する表現を復習しながら学ぶ。 【第3回】会話練習・自分の名前の由来について表現する方法を学ぶ。 【第4回】会話練習・インドネシア旅行をして食事をするための表現を学ぶ。 【第5回】会話練習・インドネシア旅行をして買い物をする表現を学ぶ。 【第6回】会話練習・インドネシア旅行をして道を尋ねる方法を学ぶ。 【第7回】会話練習・インドネシア旅行をして犯罪に巻き込まれた時の対応を学ぶ。 【第8回】インドネシア語検定の対策を過去問題を用いて集中的に行う。 【第9回】食事に関する会話表現をもとに寸劇を作成する。(グループで) 【第10回】食事に関する会話表現を用いて作成した寸劇を各グループで披露。 【第11回】買い物に関する会話表現をもとに寸劇を作成する(グループで) 【第12回】買い物に関する会話表現をもとに作成した寸劇を各グループで披露。 【第13回】学期を通じて学習した内容をテスト形式で復習。ポイント確認を行う。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	単語力を付けることに努力を傾けること。テーマに沿って予習を行い、インドネシア語での会話表現力を向上させることに力を注ぐこと。具体的には単語帳の利用を推奨する。様々なテキストを通じて出会った単語を単語帳にまとめ、日本語、インドネシア語いずれにも変換できるよう繰り返し覚えること。(なお、インドネシア語はつづりと発音が一致しているので正しくつづりを覚えると同時に声に出して発音し、耳でも覚えるようにしてやること)
成績評価方法・基準	前半:授業での積極的な発話・発音 50% 出席日数、遅刻の有無など20% 会話表現能力の達成度、語彙力などを測定するためのテストを実施30% 後半:グループワークにおける貢献度(グループメンバー同士の相互評価を参照する)50%

	会話表現能力の達成度、語彙力などを測定するためのテストを実施50% なお、動画鑑賞などを行った場合は随時レポートの提出を求めることがある。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	辞書: 佐々木重次『最新インドネシア語小辞典』 あるいは、 『プログレッシブ インドネシア語辞典』 のどちらかを使用する。後者はインドネシア語-日本語、日本語-インドネシア語両方引くことができる。 授業用のテキストは配布する。
履修上の留意点	文法事項の確認のために、1年次に使用した教科書(『インドネシア語基礎 Dasar Bahasa Indonesia』)を使うので、参考書として手元に置いておくこと。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH031400
講義名	地域言語(インドネシア語)中級Ⅳ
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	インドネシア語中級Ⅰ、Ⅱを既習した学生を対象とする。原則としてインドネシア語ネイティブ教員の指導の下で、よりレベルアップしたインドネシア語会話能力を養う。会話相手の話を引き出して会話を盛り上げるようなコミュニケーション力を付けて、実践的なインドネシア語会話能力を向上させることをめざす。
授業の内容	前期と同様に、インドネシア語を効率的に習得できるように十分な配慮を行います。 まず初めにプリント教材を複数回にわたり音読し読み込むことで、発音とアクセントの指導を行います。その後、重要語彙・新出語彙の意味と用法を確認し、併せて重要文法事項についての解説を行います。以上の作業を完了させた後で、それらの語彙・文法事項を用いて、日本語文からインドネシア語文への作文練習を行います。この作文練習を通じて、インドネシア語の文章構造をより深く理解することができます。その後、グループに分かれて対話練習を行い、さらにロールプレイを繰り返す行することで、インドネシア語の会話能力(聴解力と発話力)の向上をはかります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	プリント教材を用いて、インドネシア語の動詞と名詞を中心にした語彙力・文法力の増強を図ります。この作業を通じて、日常生活で頻出する定型的文章を習得することができます。さらに、この定型的文章を、対話練習とロールプレイ練習を通じて円滑に運用することで、双方向の会話力(すなわち発話力と聴解力)を養うことができます。別言すれば、インドネシア語技能検定試験D級レベルの会話力育成を到達目標にできるということです。
授業形態	演習
授業方法	受講生に可能な限り多くのインドネシア語を聞いてもらい、可能な限り多くの発話をしてもらうことを心がけます。講師から受講生への一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしたいと思えます。授業の前半では、まず新出語彙と文法事項を説明し、その後作文練習を行います。これにより、インドネシア語の文章構造をより深く理解してもらいます。授業後半では、対話練習とロールプレイ練習を中心に据え、会話力を養います。これらの学習を通じて、インドネシア語の総合力の向上を図ります。
授業計画	【第1回目】イントロダクション 内容: 今後の授業運営についての説明、前期に学習してきた内容の総復習、ならびに質疑応答。 【第2回目】Indonesia-1 内容: インドネシア知識全般(インドネシアの人口は～人です、首都とジャカルタです、島数は～です、等) 【第3回目】Indonesia-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が日本社会について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第4回目】Jakarta-1 内容: ジャカルタ(ジャカルタは何が有名ですか、人口は何人ですが、日本人は何人いますか、等) 【第5回目】Jakarta-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が東京について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第6回目】Taman Mini Indonesia Indah-1 内容: タマン・ミニ(タマン・ミニはどこにありますか、タマン・ミニには何がありますか、何が興味深いですか、等) 【第7回目】Taman Mini Indonesia Indah-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が日本の公園について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第8回目】Monumen Nasional-1 内容: 独立記念塔(いつ建てられましたか、目的は何ですか、どこにありますか、だれが建てましたか、等) 【第9回目】Monumen Nasional-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が記念塔(東京タワー、スカイツリー、広島原爆資料館など)について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第10回目】Ancol-1 内容: 遊園地(アンチホルはどこにありますか、どんなアトラクションがありますか、入場料はいくらですか、等) 【第11回目】Ancol-2 内容: プレゼンテーション(それぞれの学生が日本の遊園地について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第12回目】Museum Fatahillah 内容: ファタヒラ記念館(その記念館はどこにありますか、何時まで開いていますか、展示物は何ですか、等) 【第13回目】期末試験、総括、質疑応答 内容: 期末試験、試験内容の解説、質疑応答
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	事前にプリント教材を配布するので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度と課題の提出状況（平常点）、ならびに各回のプレゼンテーション内容と会話試験（プレゼンテーション点）によります。 平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）と提出課題の内容を中心に評価を行います。プレゼンテーション点では、発表された内容と期末に実施する会話試験を点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	毎回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG303
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH032100
講義名	地域言語(インドネシア語)上級 I
担当者名	深尾 康夫
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	インドネシア語中級I～IVを既習している学生を対象とする。インドネシア語の新聞や雑誌に掲載された様々な記事を読み、内容を正確に把握する訓練を積むことで、現地事情をインドネシア語で理解することのできる高度な能力を養う。
授業の内容	本科目は、現代のインドネシア社会状況を映し出す映画(90年代末政治経済危機を経て大金持ちから貧民に没落したビジネスマン家族を描く)を鑑賞しながら、そのシナリオ読解(和訳)を通じ、語彙力を強化するとともにネイティブの会話スピードに耳を慣らしていく授業を行う。また内容に関連し、インターネット上の映像、画像他資料を用い映画の背景にある諸事情を丁寧に解説する。なお授業状況により、新聞記事の講読を補足的に行うこともあり得る。
科目の到達目標(理解のレベル)	本科目の到達目標は、第1に映画で交わされる様々な単語や会話表現に触れることを通じ語彙力を高めること、第2にネイティブの会話スピードに耳を慣らすこと、第3にインドネシア社会の抱える様々な社会的、文化的問題(政治経済事情が引き起こす階層間移動など)を理解することである。最終的に履修者は前述各目標に到達することにより高度な語学能力をもつことになる。インドネシア語検定レベルとしてはD級～C級相当レベルを目指す。
授業形態	演習
授業方法	教員が教室で配布ないしmanaba経由で配信するプリント(シナリオ)の指定分担箇所を受講者が、自宅で予習(和訳)し、次回授業で報告する。教員は文法や背景事情についてコメント/アドバイスする。和訳が完了した箇所の映像を鑑賞する。受講者は、報告後3日以内に和訳を済ませた箇所を清書し、メールで教員と他の受講者に配信提出する。この修正レポートに対し教員は最後のコメントをメール配信する。なお新聞記事講読を行う場合は、別途指示する。
授業計画	【第1回】授業内容の説明、プリント(シナリオ*)配布、和訳分担と予習指示 * 以下Ketika (2005)シナリオの流れ 【第2回】読解「タジル氏の財閥崩壊と転落の始まり他」 【第3回】読解「政府による財産差し押さえ他」 【第4回】読解「タジル夫人、スポーツクラブより追放」 【第5回】読解「娘ムティアラ、学生生活の困窮」 【第6回】読解「ムティアラの恋人イチャル」 【第7回】読解「ムティアラ、金持ちの息子ボーイと交際する」 【第8回】読解「タジル氏一家、庶民の生活に転落」 【第9回】読解「タジル氏、バジャイ運転手として再起を目指す」 【第10回】読解「運転手スクル氏、タジル氏一家を支える」 【第11回】読解「ムティアラ、貧民対策支援として乳牛2頭もらう」 【第12回】読解「イチャルはムティアラを支える、二人の愛の行方」 【第13回】講師全体コメント
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学習の内容	予習する分担箇所について、受講者は、辞書を用い単語をチェック、和訳が求められる。その際要点は、基本的構文は平叙文(主語、動詞、目的語)なのか、受動態文なのかの違いを把握する、関係代名詞(yang)がある場合使われ方に注目する、また会話文は全体として理解し、意識することなどである。このような姿勢が事前学習としては重要である。事後学習としては、報告後、指摘された箇所を修正し、メールにより配信提出することを通じ理解を定着させることが重要である。

成績評価方法・基準	授業時の発表＋修正レポート(80%)、その他の課題(20%) 特に授業時の和訳報告状況と教員からアドバイスされ後日提出する修正レポートの出来具合が評価における最重要部分になる。その他の課題とは、履修者各人のインドネシア語理解状況を確認するため、別途エッセイ型課題などをmanaba経由指示することを指している。これら項目に基づき最終的な評価を決める。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanabaやメールを通じておこなう。
教科書・指定図書	教科書: ◆配布プリント(シナリオ、Ketika tidak Berbagi Suami) ◆佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年 - 船田京子・高殿良博他編「プログレッシブ インドネシア語辞典」小学館、2018年
履修上の留意点	予習は欠かせない。分からないことは授業で積極的に質問する。なるべくリラックスした雰囲気で行いたいと考えている。 辞書は原則指定する辞書のうちの1つを用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマホで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないように努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG304
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH032200
講義名	地域言語(インドネシア語)上級Ⅱ
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	インドネシア語中級I～IVを既習している学生を対象とする。インドネシア語の映画やその他の映像などを視聴して内容を理解し、映画の内容についてインドネシア語で議論できるようになることをめざす。
授業の内容	本講座では、インドネシア語の映像を用いることで、インドネシア語の会話力(聴解力、発話力、議論の能力)を養うと同時に、現代インドネシア社会に対する知識を深めていただきます。 授業では、インターネット上にアップされた視聴覚教材を複数回にわたり注意深く観ていただき、その内容について講師が解説を加えます。この解説に基づき、受講生は同教材を日本語に翻訳します。これらの作業を終えたところで、受講生同士が教材内容についてインドネシア語を用いて意見交換を行います。これにより、会話力の向上を目指します。同時に講師がその映像内容の社会的背景等を簡略に説明します。こうした作業を通じて、受講生それぞれがインドネシア語の高度な会話力を持つようになります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講座を受講することで、受講生は視聴覚教材の内容についてインドネシア語で議論をすることができるようになります。これまでに習得してきた文章構造、文法事項、語彙の理解をさらにいっそう深めることができます。これらの学習を通じて、インドネシア語技能検定試験C級のリスニング問題が理解できるレベルになります。さらに講師による事情解説を見聞することで、現代インドネシアの社会事情に対する知識を深めることができます。
授業形態	演習
授業方法	授業では、インターネット上にアップされた視聴覚教材を複数回にわたり注意深く観ていただき、その内容について講師が解説を加えます。この解説に基づき、受講生は同教材を日本語に翻訳します。これらの作業を終えたところで、受講生同士が教材内容についてインドネシア語を用いて意見交換や議論を行います。これにより、会話力の向上を目指します。同時に講師がその映像内容の社会的背景等を簡略に説明します。こうした作業を通じて、受講生それぞれがインドネシア語の高度な会話力を持つようになります。
授業計画	【第1回】イントロダクション 内容: 今後の授業運営についての説明。 【第2回】Ibu Kota Jakarta-1 内容: 首都ジャカルタ(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第3回】Ibu Kota Jakarta-2 内容: 翻訳、議論、質疑応答(映像を複数回注意深く視聴し、その内容を翻訳する。内容を理解できたところで受講生各人の見解を交換する) 【第4回】Keliling Yogyakarta-1 内容: ジョグジャカルタを巡る(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第5回】Keliling Yogyakarta-2 内容: 翻訳、議論、質疑応答(映像を複数回注意深く視聴し、その内容を翻訳する。内容を理解できたところで受講生各人の見解を交換する) 【第6回】Candi Borobudur dan Candi Prambanan-1 内容: ボロブドゥール寺院とプランバナン寺院(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第7回】Candi Borobudur dan Candi Prambanan-2 内容: 翻訳、議論、質疑応答(映像を複数回注意深く視聴し、その内容を翻訳する。内容を理解できたところで受講生各人の見解を交換する) 【第8回】Pasar Tradisional Jawa-1 内容: ジャワの伝統的市場(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第9回】Pasar Tradisional Jawa-2 内容: 内容: 翻訳、議論、質疑応答(映像を複数回注意深く視聴し、その内容を翻訳する。内容を理解できたところで受講生各人の見解を交換する) 【第10回】Pemetik Cabai-1 内容: 唐辛子を摘む(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第11回】Pemetik Cabai-2 内容: 翻訳、議論、質疑応答(映像を複数回注意深く視聴し、その内容を翻訳する。内容を理解できたところで受講生各人の見解を交換する) 【第12回】Industri Kecil di Desa 内容: 村落の中小産業(映像を複数回注意深く視聴し、その内容について詳しく説明をする) 【第13回】最終総括、プレゼンテーション 内容: 学生各人が作成した3分間のプレゼンテーションビデオを上映する。上映した映像について質疑応答を行う。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	視聴覚教材はすでにインターネット上にアップされたものを使用します。manabaを通じて、同教材のURLを前もってお伝えしますので、これを事前に視聴しておいてください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。皆さんに内容を邦語訳していただきますので、よく準備しておいてください。授業の最終セクションでは意見交換・議論を行いますので、ご自身の見解を整理しておいてください。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度（平常点）、ならびに各回の意見交換とプレゼンテーション内容（プレゼンテーション点）によります。平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）を中心に評価します。プレゼンテーション点では、各回の意見交換状況とプレゼンテーション内容を点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	インターネット上にアップされた視聴覚教材を使用します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG401
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH032300
講義名	地域言語(インドネシア語)上級Ⅲ
担当者名	深尾 康夫
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	インドネシア語上級I、IIを既習している学生を対象とする。インドネシア語の新聞や雑誌の記事や書籍をていねいに読み、内容を正確に把握して、卒業研究の研究材料となるようなインドネシア語資料を理解することのできる高度な読解能力を養う。
授業の内容	本科目は、現代のインドネシア社会状況を映し出す映画(社会各層における一夫多妻を3つのエピソードから描く)シナリオを読解(和訳)しながら、鑑賞していく授業である。教員は履修者の和訳報告に際し、文法面でのアドバイスや映画内容の社会的、文化的背景についてわかりやすくコメントしていく。このような授業を通じ、履修者は語彙力を強化したり、ネイティブの会話スピードに耳を慣らしていくことにつながる。内容に関連し、インターネット上の映像、画像他資料を用い補則解説する。なお授業状況により、新聞記事の講読を補足的に行うこともあり得る。
科目の到達目標(理解のレベル)	本科目の到達目標は、第1に映画で交わされる様々な単語や会話表現に触れることを通じ語彙力を高めること、第2にネイティブの会話スピードに耳を慣らすこと、第3にインドネシア社会の抱える様々な社会的、文化的問題(特に宗教が個人や社会に与えるインパクトなど)を理解することである。最終的に履修者は前述各目標に到達することにより高度な語学能力をもつことになる。インドネシア語検定レベルとしてはD級～C級相当レベルを目指す。
授業形態	演習
授業方法	教員が教室で配布ないしmanabaで配信するプリント(シナリオ)の指定分担箇所を受講者が、自宅で予習(和訳)し、次回授業で報告する。教員は文法や背景事情についてコメント/アドバイスする。和訳が完了した箇所映像を鑑賞する。受講者は、報告後3日以内に和訳を済ませた箇所を清書し、メールで教員と他の受講者に配信提出する。この修正レポートに対し教員は最後のコメントをメール配信する。なお新聞記事講読を行う場合は、別途指示する。
授業計画	【第1回】ガイダンス、プリント「シナリオ＊」配布、和訳分担と予習指示 ＊以下Berbagi suami (2006) シナリオの流れ 【第2回】読解「第1夫人サルマと息子、夫アバの第2夫人に気付く他」 【第3回】読解「テレビで一夫多妻を擁護するサルマ他」 【第4回】読解「病気のアバと後悔、第3夫人の登場他」 【第5回】読解「アバの死と第4夫人の登場、サルマとナディム旅立ち他」 【第6回】読解「運転手パレックの家で暮らす2人の妻と子供達他」 【第7回】読解「少女スリの上京、パレックと結婚を強いられるスリ他」 【第8回】読解「スリと第2夫人ドゥイとの新たな関係他」 【第9回】読解「アチェから来た第4夫人、スリとドゥイ家出する他」 【第10回】読解「アブンのレストラン、店員ミンとの不倫」 【第11回】読解「アブンとミンの結婚、映画女優を目指すミン他」 【第12回】読解「破局他」 【第13回】講師全体コメント
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習する分担箇所について、受講者は、辞書を用い単語をチェック、和訳が求められる。その際要点は、基本構文は平叙文(主語、動詞、目的語)なのか、受動態文なのかの違いを把握する、関係代名詞がある場合使われ方に注目する。また会話文は全体として理解し、意識することなどである。このような姿勢が事前学習としては重要である。事後学習としては、報告後、指摘された箇所を修正、メールにより配信提出することを通じて理解を定着させることが重要である。

成績評価方法・基準	授業時の発表＋修正レポート(80%)、その他の課題(20%) 特に授業時の和訳報告状況と教員からアドバイされ後日提出する修正レポートの出来具合が評価における最重要部分になる。その他の課題とは、履修者各人のインドネシア語理解状況を確認するため、別途エッセイ型課題などをmanaba経由指示することを指している。これら項目に基づき最終的な評価を決める。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(レポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanabaやメールを通じてでおこなう。
教科書・指定図書	教科書: ◆配布プリント(シナリオ、Berbagi Suami他) ◆佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年 ◆船田京子・高殿良博他編「プログレッシブ インドネシア語辞典」小学館、2018年
履修上の留意点	予習は欠かせない。分からないことは授業で積極的に質問する。なるべくリラックスした雰囲気に進めたいと考えている。 辞書は原則指定する辞書のうちの1つを用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマホで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないように努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG402
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH032400
講義名	地域言語(インドネシア語)上級IV
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	インドネシア語上級I,IIを既習している学生を対象とする。インドネシア社会における様々な事象・問題についてインドネシア語で表現して、レベルの高いプレゼンテーションを行う。フィールドワークの現場や現地社会の職場でも通用するような高度なインドネシア語能力を身に付ける。
授業の内容	本講座では、最新の新聞・雑誌等に掲載された時事インドネシア語記事を教材として用い、受講生のプレゼンテーション能力を高めます。授業では、まず初めに新出語彙の確認、重要文法事項の確認、文意の確認を行い、記事内容の理解を促します。同時に講師は当該の記事背景について事情解説を行います。こうした作業を終わらせたところで、プレゼンテーションの作成作業を開始します。この作業では、講師と受講生の双方向の意見交換を重視し、より充実した内容のプレゼンテーションを作成します。プレゼンテーションの実施では、発音やアクセントの指導も行います。プレゼンテーション後には質疑応答を実施し、受講生のコミュニケーション能力の向上を目指します。こうした一連の作業を通じて、受講生は現代インドネシア社会で発生する諸々の事象・問題について、質の高いプレゼンテーションを行うことができるようになります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講座を受講することで、現代インドネシア社会で発生する諸々の事象について、レベルの高いプレゼンテーションを行うことができるようになります。併せて受講生がこれまでに習得してきた文章構造、文法事項、語彙を、いっそう深く理解できます。これにより、受講生はインドネシア語技能検定試験C級相当の能力に到達することができます。さらに講師による事情解説を通じて、現代インドネシアの社会事情についての知識を深めることができます。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、受講生に可能な限り多くのインドネシア語を聞いてもらい、可能な限り多くの発話をしてもらうことを心がけます。講師から受講生への一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしたいと考えています。授業の前半では、まず新出語彙と文法事項を説明し、その後文意の確認を行います。この確認を終えたところで、プレゼンテーションの作成作業に入ります。授業では実際にプレゼンテーションを行っていただき、さらにその内容について質疑応答等を試みます。これらの作業を通じて、高度なインドネシア語能力を身につけてもらいます。
授業計画	現代のインドネシア事情をよりよく反映した最新記事を、適宜選定することになりますので、今ここで具体的な記事名を挙げることはできません。 【第1回】イントロダクション 内容: 今後の授業運営についての説明 【第2回】現代の文化・社会事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第3回】同上(2) 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答 【第4回】現代の政治・経済事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第5回】同上(2) 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答 【第6回】現代の文化・社会事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第7回】同上(2) 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答 【第8回】現代の政治・経済事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第9回】同上(2) 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答 【第10回】現代の文化・社会事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第11回】同上(2) 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答 【第12回】現代の政治・経済事情に関する最新記事(1) 内容: 新出語彙の確認、文法事項の確認、文意の確認、プレゼンテーションの作成作業 【第13回】同上(2)、最終総括 内容: プレゼンテーションの実施、議論、質疑応答

事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	事前にプリント教材を配布するので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、語彙の習得と文章表現方法に意識を集中することが重要となります。予習・復習には各1時間が必要となります。とりわけ本講座において重要なことは、プレゼンテーションの作成作業となります。この作業に対して、しっかりと予習・復習をするようにしてください。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度と課題の提出状況（平常点）、ならびに各回のプレゼンテーション内容（プレゼンテーション点）によります。 平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）と提出課題の内容を中心に評価を行います。プレゼンテーション点では、発表された内容を判定し点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	プリント教材を適宜manabaにアップします。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH041100
講義名	地域言語(ヒンディー語)中級 I
担当者名	小磯 千尋
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、ヒンディー語初級の学習を終えた者を対象者とし、初級文法を超えた文法の細目の学習に乗り出す。初級では後景に退いていたインドの社会・文化への言及がより多くなる。また、ヒンディー語とインド・ヨーロッパ語族の他の言語(英語、ドイツ語など)との関係などにも適宜、言及する。
授業の内容	この授業では、初級文法の復習と、講読に必要な細かな文法事項の学習を行ったあと、自力でヒンディー語を読んで訳し、内容を正確に理解する。ヒンディー語の背景にある、インドの文化を理解するよう努める。 ヒンディー語の会話練習や、歌、詩の暗記なども行う。各授業の最後には確認のミニテストを行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	初級で学んだ文法事項に中級レベルの文法事項を加え、会話文・物語・報道文などの学習を通して行う。中級レベルの文法の理解と定着と、読解力・作文力・会話力の向上を目標とする。
授業形態	演習
授業方法	授業は対面で行う。課題はmanabaに提出する。 受講生が毎回必ず文章を正確に読み、訳す。さらに未習の中級レベルの文法事項を学ぶ。文法の理解度に応じて、プリント教材で物語・説明文・報道文・会話文などの音読、語句解釈、内容把握、応用作文練習を行う。毎回、各単元内容に沿った和訳・作文などの小テストを行う。
授業計画	【第1回】 複合動詞、主な助動詞とそのニュアンス 【第2回】 関係詞と複文 【第3回】 条件文と用いる動詞の語形 【第4回】 可能表現、構文と用いる助動詞 【第5回】 複文の応用、主な従属接続詞 【第6回】 仮定表現 【第7回】 後置詞の副詞的用法 【第8回】 後置詞のまとめ 【第9回】 欲求を伝える表現、命令、依頼、禁止を表す文 【第10回】 辞書の引き方、簡単な物語の読解 【第11回】 説明文の読解 【第12回】 報道文の読解 【第13回】 会話文の読解と会話の実践
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回、予習・復習を行う。返却された小テストの間違ったところを確認し、次の授業に備えることが重要になる。また、辞書と語彙集を使って単語を調べて、和訳を試みることなどの事前学習を講義内で指示する。
成績評価方法・基準	小テスト 30% 課題提出 20% 学期末の筆記試験 50%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	教科書: 町田和彦 『ニューエクスプレス・ヒンディー語』白水社、2008年。 その他適宜プリントを配布する。
履修上の留意点	毎回の出席、予習・復習が必要である。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH041200
講義名	地域言語(ヒンディー語)中級Ⅱ
担当者名	バルデシ P.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、ヒンディー語初級の学習を終えた者を対象者とし、インドの社会・文化などへの理解の深まりに応じ、より高度な内容の作文、会話と取り組む。映画なども教材に取り入れる。
授業の内容	「インドで役に立つヒンディー語」をモットーとする授業とする。ヒンディー語の応用力をつけることを目標とする。インド文化・社会への理解を深めてもらえるような内容とする。 辞書を使う習慣を身に付け、知らない単語を積極的に調べる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	初級で学んだ基礎に基づいてヒンディー語の運用・応用力をつけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	指定された教科書類または事前に配布された資料を使用し、対面と遠隔(Zoom使用)併用のハイブリッド形式で実施する。毎回の課題については次の授業の3日前までにメール(prashant@ninjal.ac.jp)で必ず提出すること。
授業計画	●第01回 教科書、履修上の注意点、事前学習課題、成績評価の方法と成績評価の基準の説明。 内容:人称代名詞、コピュラ動詞の現在形、未来形、過去形(コピュラ文)の復習をする。 指定教科書:32-33頁、58頁、68頁、115頁 課題1:教科書の143-151頁にある単語一覧に掲載されている名詞を抜き出し、男性名詞と女性名詞の一覧を作成しなさい。 ●第02回 内容:名詞や形容詞の単数形・複数形、後置詞と後置格を復習し、ヒンディー語の「～の～」について理解を深める。 指定教科書:42-43、47頁 課題2:ヒンディー語の「～の～」を含む文を3つ作りなさい。例:「～の～はどこにありますか(あなたの家はどこにありますか)。」、「～の～は～の～にあります(私の家は駅の後ろにあります)。」 ●第03回 内容:所有表現(～が～をもっている)、命令表現(～しろ、しなさい)および依頼表現(～してください)について解説する。 指定教科書:46-47頁 課題3:所有表現(～が～をもっている)命令表現(～しろ、しなさい)および依頼表現(～してください)を含む文を3つ作りなさい。 ●第04回 内容:日本語と対照しつつ、ヒンディー語の一般動詞の種類や分類について学ぶ。 指定教科書:46頁。 課題4:教科書の143-151頁にある単語一覧に掲載されている動詞を抜き出し、自動詞と他動詞の一覧を作成しなさい。 ●第05回 内容:「～します」:一般動詞の現在形の作り方、意味、使い方(用法)について理解を深める。 指定教科書:64頁。 課題5:5つの動詞を選び、その現在形を含む文を作りなさい。例:「私は毎週、映画をみます。」 ●第06回 内容:一般動詞の完了分詞の作り方、意味、使い方(用法)について理解を深める。 指定教科書:68-69頁。 課題6:「綾子はそこに座った」、「和幸は10時に寝た」、「幸子は新聞を読んだ」、「紘一は映画を見た」、「紘一は花子を見た」という文章を作り、紙に手書きで書いてください。 ●第07回 内容:完了分詞を使った自動詞文と他動詞文を比較し、それぞれにおいて、動詞がどの名詞と性・数の面で一致するかを学ぶ。 指定教科書:69-71頁。 課題7:教科書の76-77頁を読んでおくこと。 ●第08回 内容:未完了の意味を理解し、未完了表現の使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:72頁。 課題8:「私は新聞を毎日読みます」、「私は新聞を毎日読んでいた」、「彼は新聞を読んでいるだろう」、「彼は新聞を読んでいるかも」という文章を作り、紙に手書きで書きなさい。 ●第09回

	内容:完了の意味を理解し、完了表現の使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:72頁。 課題8:「私はその映画をみたことがある」、「私はその映画をみたことがあった」、「彼はその映画を(すでに)見ただろう」、「彼はその映画を(すでに)見たかも」という文章を作り、紙に手書きで書きなさい。 ●第10回 内容:動作の進行・継続の意味を理解し、進行・継続表現の使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:80頁。 課題10:「彼はチャイを飲んでるところだ」、「彼はチャイを飲んでるところだった」、「彼はチャイを飲んでるところだろう」、「彼はチャイを飲んでるところかも」という文章を作り、紙に手書きで書いてください。 ●第11回 内容:不定詞の意味を理解し、不定詞の使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:112頁。 課題10:「あの方はだれですか」、「アジア大学はどこですか」、「試験はいつですか」、などのような疑問文を作り、紙に手書きで書きなさい。 ●第12回 内容:関係詞と複文の作り方や使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:112-113頁。 課題10:関係詞を含む文を5つ作り、紙に手書きで書きなさい。 ●第13回 内容:可能文や条件文の使い方(用法)を学ぶ。 指定教科書:120-121頁。 課題10:「私はヒンディー語を話せます、わかります、書けます」、「もしあなたは食べるなら私も食べます」などのような可能文や条件文を作り、紙に手書きで書きなさい。 ●学期末課題: 課題1:ヒンディー語の「Yes/Noで答えられる疑問文」と「Yes/Noで答えられない疑問文(WH疑問文:だれ、なに、どこ、いつ、なぜ、どのように)」とそれぞれの答えの文を作りなさい。また、「Yes/Noで答えられる疑問文」と「Yes/Noで答えられない疑問文(WH疑問文)」の形式上の違いについて述べなさい。紙に手書きで書き、メールでPDF形式で提出しなさい。 課題2:ヒンディー語の他動詞の未完了形(彼が映画を見ていた)と完了形(彼が映画を見た)の文を作り、それぞれにおける動詞の形を決定する一致現象(性・数)の原理を述べなさい。紙に手書きで書き、メールでPDF形式で提出しなさい。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習と復習をきちんと行うこと。また、宿題を期日までに提出すること。
成績評価方法・基準	毎回の課題:60%、学期末課題:40%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	ニューエクスプレスプラス ヒンディー語《CD付》(日本語)単行本(ソフトカバー) - 2020/1/16 町田 和彦(著) 出版社: 白水社(2020/1/16) ISBN-10: 4560088624 ISBN-13: 978-4560088623 配布資料
履修上の留意点	一生懸命学び、インドへの関心を深めて下さい。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH041300
講義名	地域言語(ヒンディー語)中級Ⅲ
担当者名	小磯 千尋
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目では、名詞の単数→複数変化の特殊形、ヒンディー語文法の中でも最も理解困難な後置詞neを用いた他動詞の過去・完了表現など、「間違いやすい文法事項」の習得を中心とし、初級文法よりも高度な文法学習を仕上げる。
授業の内容	インドの子供向け物語や雑誌やニュースの記事を講読する。初級で学んだ文法事項の確認と、新たな文法事項を学習しつつ、正確に翻訳する力をつける。同時に、会話表現や映画音楽、ガザルなどもテキストとして取り入れ、数曲歌えるようにしたい。また、日記や手紙をヒンディー語で書く練習もする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ヒンディー語の物語、報道文を辞書を引きながら読めるようになる。 ヒンディー語の歌の意味を理解し、歌えるようになる。 ヒンディー語で日記や手紙が書けるようになる。
授業形態	演習
授業方法	テキストの音読や翻訳を学生主体で行う。初級で使用した教科書は文法の復習などに用いるが、主となるテキストはプリントを配布する。適宜、大阪大学の外国語独習コンテンツも盛り込む。manabaを通じて講義を行い、課題を提出する。
授業計画	【第1回】 ヒンディー語で自己紹介 【第2回】 インドの祭り ラクシャー・バンダン 【第3回】 ガザル 定型詩についての解説、ガザルを歌う 【第4回】 『マハーバーラタ』:英雄アビマンニュ 読んで翻訳 【第5回】 『マハーバーラタ』:英雄アビマンニュ 読んで翻訳 【第6回】 『ラーマーヤナ』:シーター妃の誘拐 読んで翻訳 【第7回】 『ラーマーヤナ』:シーター妃の誘拐 読んで翻訳 【第8回】 『ガーンディー自伝』 翻訳 / ヒンディー映画ソング 【第9回】 『ガーンディー自伝』 翻訳 / ヒンディー映画ソング 【第10回】 『ガーンディー自伝』 翻訳 / ヒンディー映画ソング会話練習 【第11回】 『ガーンディー自伝』 翻訳 / ヒンディー映画ソング 【第12回】 『ガーンディー自伝』 翻訳 / ヒンディー映画ソング 【第13回】 日記、手紙の書き方
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	● 大阪大学の外国語教育独習コンテンツの視聴。 簡単なヒンディー語の自己紹介文の準備。 ● 毎回授業で学んだヒンディー語の文章を数回音読し、文法事項を確認する。 ヒンディー語のニュースや映画などにも積極的に触れる。 各授業で出す課題(予習・復習を含む)をきちんとこなすこと。
成績評価方法・基準	課題提出 30% 授業の平常点 20%

	学期末の筆記試験 50%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	プリントを配布する。
履修上の留意点	辞書を引いての予習は不可欠である。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH041400
講義名	地域言語(ヒンディー語)中級Ⅳ
担当者名	バルデシ P.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目では、中級Ⅱ段階よりも高度なヒンディー語の作文、会話の学習を行う。空港、ホテル、バス、タクシー、接待、観光地など、具体的な場面想定して、会話、作文の学習を進める。ヒンディー語映画などを教材とした聞き取り練習も適宜行う。
授業の内容	「インドで役に立つヒンディー語」をモットーとする授業とする。ヒンディー語の応用力をつけることを目標とする。インド文化・社会への理解を深めてもらえるような内容とする。 辞書を使う習慣を身に付け、知らない単語を積極的に調べる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	初級で学んだ基礎に基づいてヒンディー語の運用・応用力をつけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	指定された教科書類または事前に配布された資料を使用し、対面と遠隔(Zoom使用)併用のハイブリッド形式で実施する。毎回の課題については、次回の授業の3日前までにメール(prashant@ninjal.ac.jp)で必ず提出すること。履修者が対応できる範囲で遠隔会議システムを利用し、グループディスカッション等を行う。
授業計画	●第01回 教材、履修上の注意点、事前学習課題、成績評価の方法と成績評価の基準の説明。この授業では教師が作成した教材を中心に高度なヒンディー語の作文、会話の学習を行う。ヒンディー語映画などを教材とした聞き取り練習も適宜行う。具体的な場面(空港、ホテル、バス、タクシー、接待、観光地など)を想定して、会話や作文の学習を進めるために必要な表現などを学ぶ。 内容:「この本」、「面白い本」、「昨日お父さんが買ってくれた本」などのような名詞を修飾する様々な表現の作り方と使い方を学ぶ。 課題1: 名詞修飾表現を含む文を3つ作りなさい。例:「この本はとても有名です」、「この有名な本はいろいろな言語で翻訳されています」、「母が買ってくれた本を見せてください」 ●第02回 内容: ヒンディー語では「今朝早く起きて、ごはんを食べて、洗濯をして、学校にいった」のような一連の動作を動詞連の形で表す。この授業でその作り方と使い方を学ぶ。 課題2: 動詞連結を含む文を3つ作りなさい。 ●第03回 内容: 「私はヒンディー語を話せます」のような可能表現の作り方と使い方を学ぶ。関連表現として助動詞のsak-naaとpaa-naaを使った構文も学ぶ。 課題3: 可能表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第04回 内容: 「あなたが行くなれば私も行く」のような条件表現の作り方と使い方を学ぶ。 課題4: 条件表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第05回 内容: 「このお寺は1868年に建てられました」のような受動表現の作り方と使い方を学ぶ。 課題5: 受動表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第06回 内容: 「母親が娘にサリーを着せた」、「母親が娘にサリーを着させた」、「私は家来を経て子供に服を着させた」のような受動表現の作り方と使い方を学ぶ。 課題6: 使役表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第07回 内容: 第1回～6回にかけて学んだヒンディー語における様々な表現・構文で使われる後置詞の使い方を整理する。 課題7: ヒンディー語における後置詞の使い方を挙げながらまとめなさい。 ●第08回 内容: ～の上、～の下、～の中、～外、～右、～左、～前、～後ろなどを使って人やものの空間的な位置を伝える空間的な位置表現を学ぶ。 課題8: 空間的な位置表現の文を3つ作りなさい。 ●第09回 内容: ～時に、～時15分に、～時30分に、～時45分に、～時間、～曜日に、毎日、毎週、毎月、毎年、1週間～回などのような時間・期間に関する表現を学ぶ。 課題9: 時間・期間の表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第10回 内容: うれしくなる、かなしくなる、腹が立つ、がっかりするなどを学び感情・感覚を伝える表現を学ぶ。 課題10: 感情・感覚を伝える表現を含む文を3つ作りなさい。 ●第11回

	内容:関係節、仮定表現を含む様々複文を学ぶ。 課題11:「昨日買った本を友達に宅急便で送った」のような関係節を含む複文を3つ作りなさい。 ●第12回 内容:ヒンディー語の日常会話でよく使われることわざ・慣用句を学ぶ。 課題12:授業中学んだことわざ・慣用句の用例を3つほどネットで調べ、日本語訳しなさい。 ●第13回 内容:ヒンディー語の映画の挿入歌を通じて今まで学んできた諸表現を復習し、脚韻について学ぶ。 課題13:ヒンディー語の映画の挿入歌をネットで調べ、脚韻の仕組みを説明しなさい。 ●学期末課題: 課題1:インターネットを利用してヒンディー語で書かれた記事を探し、日本語訳しなさい。 課題2:YouTubeでヒンディー語の映画の挿入歌を探し、日本語訳しなさい。
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習と復習をきちんと行うこと。また、宿題を期日までに提出すること。
成績評価方法・基準	毎回の課題:60%、学期末課題:40%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	ニューエクスプレスプラス ヒンディー語《CD付》(日本語) 単行本(ソフトカバー) - 2020/1/16 町田 和彦(著) 出版社: 白水社 (2020/1/16) ISBN-10 : 4560088624 ISBN-13 : 978-4560088623 配布資料
履修上の留意点	一生懸命学び、インドへの関心を深めて下さい。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG303
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH042100
講義名	地域言語(ヒンディー語)上級 I
担当者名	村山 和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目は、ヒンディー語中級までの学習を終えた者を対象者とし、インドの社会・文化への理解もより深めつつヒンディー語の講読を高度化する。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作り、上級レベルのヒンディー語の会話テキストの本文を日本語に訳す練習、日本語の文をヒンディー語に翻訳するなどの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟する。学生が、単語としての表記と発音の関係の規則を理解すること。さらに履修学生が、上級レベルの文法を理解して上級レベルのヒンディー語の会話文・読み物などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	対面式授業で、授業支援システム(manaba)に掲載された上級レベルの会話テキストを教材とする。ネイティブ・スピーカーが録音した発音を聴いて手本とし、テキストの音読練習をする。文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、上級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。
授業計画	【第1回】『こうすれば話せるヒンディー語』第1課 ごきげんいかがですか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第2回】『こうすれば話せるヒンディー語』第2課 この鳥は雄、それとも雌？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第3回】『こうすれば話せるヒンディー語』第3課 お菓子が何かおごってくれるかい？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第4回】『こうすれば話せるヒンディー語』第4課 お口にありましたか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第5回】『こうすれば話せるヒンディー語』第5課 ちょっとお待ちください。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第6回】『こうすれば話せるヒンディー語』第6課 ひどい熱があります。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第7回】『こうすれば話せるヒンディー語』第7課 調味料を入れてもいいかしら？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第8回】『こうすれば話せるヒンディー語』第8課 サーリー姿のあなたはとても素敵よ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第9回】『こうすれば話せるヒンディー語』第9課 預金したいのです。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第10回】『こうすれば話せるヒンディー語』第10課 どんな頭のおかしい人も食べないよ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第11回】『こうすれば話せるヒンディー語』第11課 おみくじ入りクッキーに何が書かれているか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第12回】『こうすれば話せるヒンディー語』第12課 行こうよ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第13回】『こうすれば話せるヒンディー語』第13課 幽霊にも足があるんですか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	毎回、語学面の予習・復習を期待する。授業で添削された練習問題のまちがっていた所を確認し、次の授業に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を毎回事前に manaba に掲載する。manaba に掲載された2種の語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文することなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚えることが復習として必要である。
成績評価方法・基準	manaba に掲載された上級レベルの会話テキストの読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書:会話のテキスト『こうすれば話せるヒンディー語』は、PDFファイルとして manaba の課題のコンテンツに添付する。 辞書として用いる『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』は、PDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級・中級で使用した教科書、町田和彦『ニューエクスプレス+ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN 978-4-560-08862-3 を併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。 単なる言語学習のみに留まらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG304
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH042200
講義名	地域言語(ヒンディー語)上級Ⅱ
担当者名	石川 淳子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、より高度なヒンディー語の講読を仕上げる。講読するヒンディー文のうちの会話表現の理解を促すため、ヒンディー語映画の鑑賞などを適宜、盛り込む。講読するテキストは、たとえばヒンドゥー教二大叙事詩マハーバータ、ラーマヤナなど、インドの社会・文化の理解を特に促すものを選ぶ。
授業の内容	ヒンディー語で著された“This India”(1973)はイギリスの植民地支配から独立をして20数年後に出版された本である。インドの歴史、文化などに触れながら、独立国家としてのこれからの理想の姿についても書かれ、当時のインドの人びとがどのようにインドという国をとらえていたのか、その一端を知ることのできる資料である。授業では読解、音読を中心に本の内容を学習していく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、初級と中級でこれまでに学んだ文法事項を復習・確認しながら、さらに上級レベルの読解力、作文力、聞き取り能力および会話能力を身につけることを目標にする。また、インド社会・文化・宗教を理解する基礎を身に着ける。
授業形態	演習
授業方法	ヒンディー語書籍の“Yah Bhaarat”を英訳の“This India”と合わせて読んでいく。25章までである中で各章から抜粋した箇所を教材として取り上げる。また、並行してヒンディー語のニュースの音声なども使って聞き取りの練習を行う。これまで初級から中級で学んだ知識を基礎に会話練習にも取り組む。
授業計画	【第1回】“This India” 第3章 “What is Indian-ness”(1) テキスト(ヒンディー語と英語)を使いながら、クラスで一緒に、具体的に解説します。次回以降は、この方法で進めていきます。 【第2回】“This India” 第3章 “What is Indian-ness”(2) 【第3回】“This India” 第3章 “What is Indian-ness”(3) 【第4回】“This India” 第3章 “What is Indian-ness”(4) 【第5回】“This India” 第5章 “A hundred years ago”(1) 【第6回】“This India” 第5章 “A hundred years ago”(2) 【第7回】“This India” 第6章 “How we won freedom”(1) 【第8回】“This India” 第6章 “How we won freedom”(2) 【第9回】“This India” 第6章 “How we won freedom”(3) 【第10回】“This India” 第6章 “How we won freedom”(4) 【第11回】“This India” 第13章 “Time-table for five years”(1) 【第12回】“This India” 第13章 “Time-table for five years”(2) 【第13回】“This India” 第13章 “Time-table for five years”(3)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習: 学習予定の範囲の単語の意味を調べておく。もし、読んでも理解できない場合は、授業やメールなどで質問をする。配布されたテキストの単語の意味を調べたら、本文を和訳する。復習: 学んだテキストの本文を3回音読する。仕上げに本文を黙読しながら翻訳を確認する。
成績評価方法・基準	第1回から第13回まで、授業の終了前20分間に、その日の学習内容から確認テストを行ないます。その採点結果を合計して、成績評価を出します。採点方法は、持ち点100点から、間違えた箇所、一箇所につき2点ずつマイナスします。
課題(試験やレポート等)につ	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

いてのフィード バック方法	
教科書・指定図 書	教材は、プリントまたはmanabaのコンテンツ欄のファイルで配布する。 初級で使った「ニューエクスプレス・ヒンディー語」も併用する。
履修上の留意 点	ヒンディー語初級、中級を履修したことを前提とする。 毎回出席することはもちろん、予習・復習が必要である。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG401
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH042300
講義名	地域言語(ヒンディー語)上級Ⅲ
担当者名	石川 淳子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、ヒンディー語学習の難関となりやすい文法事項の最後の確認が一つの眼目となる。インドの社会・文化とヒンディー語の関わりについての理解も、さらに前進させる。
授業の内容	ヒンディー語で著された“ <i>This India</i> ”(1973)はイギリスの植民地支配から独立をして20数年後に出版された本である。インドの歴史、文化などに触れながら、独立国家としてのこれからの理想の姿についても書かれ、当時のインドの人びとがどのようにインドという国をとらえていたのか、その一端を知ることのできる資料である。授業では読解、音読を中心に本の内容を学習していく。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、初級と中級さらに上級Ⅱでこれまでに学んだ様々な文法事項を復習・確認しながら、さらに上級レベルの読解力、作文力、聞き取り能力および会話能力を身につけることを目標にする。また、インド社会・文化・宗教を理解する基礎を身に着ける。
授業形態	演習
授業方法	ヒンディー語書籍の“ <i>Yah Bhaarat</i> ”を英訳の“ <i>This India</i> ”と合わせて読んでいく。25章までである中で各章から抜粋した箇所を教材として取り上げる。また、並行してヒンディー語のニュースの音声なども使って聞き取りの練習を行う。これまで初級から中級で学んだ知識を基礎に会話練習にも取り組む。
授業計画	【第1回】“<i>This India</i>” 第3章 “What is Indian-ness”(1) テキスト(ヒンディー語と英語)を使いながら、クラスで一緒に、具体的に解説します。次回以降は、この方法で進めていきます。 【第2回】“<i>This India</i>” 第3章 “What is Indian-ness”(2) 【第3回】“<i>This India</i>” 第3章 “What is Indian-ness”(3) 【第4回】“<i>This India</i>” 第3章 “What is Indian-ness”(4) 【第5回】“<i>This India</i>” 第5章 “A hundred years ago”(1) 【第6回】“<i>This India</i>” 第5章 “A hundred years ago”(2) 【第7回】“<i>This India</i>” 第6章 “How we won freedom”(1) 【第8回】“<i>This India</i>” 第6章 “How we won freedom”(2) 【第9回】“<i>This India</i>” 第6章 “How we won freedom”(3) 【第10回】“<i>This India</i>” 第6章 “How we won freedom”(4) 【第11回】“<i>This India</i>” 第13章 “Time-table for five years”(1) 【第12回】“<i>This India</i>” 第13章 “Time-table for five years”(2) 【第13回】“<i>This India</i>” 第13章 “Time-table for five years”(3)
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習:学習予定の課の単語の意味を調べておく。さらに教科書の中での記載されている説明については、よく注意して読んでおく。もし、読んでも理解できない場合は、授業やメールなどで質問をする。配布されたテキストの単語の意味を調べたら、本文を和訳する。復習:学んだテキストの本文を3回音読する。仕上げて本文を黙読しながら翻訳を確認する。
成績評価方法・基準	第1回から第13回まで、授業の終了前20分間に、その日の学習内容から確認テストを行ないます。その採点結果を合計して、成績評価を出します。採点方法は、持ち点100点から、間違えた箇所、一箇所につき2点ずつマイナスします。
課題(試験やレポート等)につ	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。

いてのフィード バック方法	
教科書・指定図 書	教材は、プリントまたはmanabaのコンテンツ欄のファイルで配布する。 初級で使用した「ニューエクスプレス・ヒンディー語」も併用する。
履修上の留意 点	ヒンディー語初級、中級を履修したことを前提とする。 毎回出席することはもちろん、予習・復習が必要である。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG402
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH042400
講義名	地域言語(ヒンディー語)上級Ⅳ
担当者名	村山 和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目では、ヒンディー語の作文、会話の学習を、インドの社会・文化に目配りをしつつ、仕上げる。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作り、上級レベルのヒンディー語の会話テキストの本文を日本語に訳す練習、日本語の文をヒンディー語に翻訳するなどの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟する。学生が、単語としての表記と発音の関係の規則を理解すること。さらに履修学生が、上級レベルの文法を理解して上級レベルのヒンディー語の会話文・読み物などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	対面式授業で、授業支援システム(manaba)に掲載された上級レベルの会話テキストを教材とする。ネイティブ・スピーカーが録音した発音を聴いて手本とし、テキストの音読練習をする。文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、上級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。
授業計画	【第1回】『こうすれば話せるヒンディー語』第1課 ごきげんいかがですか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第2回】『こうすれば話せるヒンディー語』第2課 この鳥は雄、それとも雌？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第3回】『こうすれば話せるヒンディー語』第3課 お菓子が何かおごってくれるかい？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第4回】『こうすれば話せるヒンディー語』第4課 お口にありましたか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第5回】『こうすれば話せるヒンディー語』第5課 ちょっとお待ちください。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第6回】『こうすれば話せるヒンディー語』第6課 ひどい熱があります。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第7回】『こうすれば話せるヒンディー語』第7課 調味料を入れてもいいかしら？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第8回】『こうすれば話せるヒンディー語』第8課 サーリー姿のあなたはとても素敵よ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第9回】『こうすれば話せるヒンディー語』第9課 預金したいのです。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第10回】『こうすれば話せるヒンディー語』第10課 どんな頭のおかしい人も食べないよ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第11回】『こうすれば話せるヒンディー語』第11課 おみくじ入りクッキーに何が書かれているか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第12回】『こうすれば話せるヒンディー語』第12課 行こうよ。 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。 【第13回】『こうすれば話せるヒンディー語』第13課 幽霊にも足があるんですか？ 「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の音読と和訳を行う。上級文法と慣用表現について作文練習・確認テストを行う。
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	毎回、語学面の予習・復習を期待する。授業で添削された練習問題のまちがっていた所を確認し、次の授業に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を毎回事前に manaba に掲載する。manaba に掲載された2種の語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文することなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚えることが復習として必要である。
成績評価方法・基準	manaba に掲載された上級レベルの会話テキストの読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書:会話のテキスト『こうすれば話せるヒンディー語』は、PDFファイルとして manaba の課題のコンテンツに添付する。 辞書として用いる『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』は、PDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級・中級で使用した教科書、町田和彦『ニューエクスプレス+ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN 978-4-560-08862-3 を併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。 単なる言語学習のみに留まらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG201
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH051100
講義名	地域言語(アラビア語)中級 I
担当者名	富永 正人
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、アラビア語初級を既習した学生を対象とする。基本的文法事項(格変化のバリエーション、動詞の活用と使い方、派生形のバリエーション、単語の語形変化の仕組み等)について学び、アラビア語の格変化と語根の考え方に対する理解を深めることを目指す。講義形式の授業となるが、学生の積極的参加を促しつつ進めていく。
授業の内容	CEFR A1～A2のアラビア語を聞いて、読んで、話して、書く練習を中心に行います。クラスメイトとお互いについてアラビア語で情報交換をしたり、アラビア語で書かれた生の素材を読み解いたりする練習をしていきます。世界各地のモスクやスペインのアルハンブラ宮殿などを彩る美しいアラビア語装飾を、文字としても読み解いていける感動を一緒に味わいましょう。 また、アラブの文化に関する様々な視聴覚資料を観察し、自らの文化と比較しながら考え、クラスメイトと互いの意見を共有し、言語と文化への洞察力を養っていきます。履修生のみなさんには、自らテーマを決め、関連する情報や動画などを探し、積極的に情報共有を行うことを期待します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	① アラビア語を使って、以下の読み書きができる。 1) よく知っている表現を書き取ることができる。 2) 短いアラビア語の文を読むことができる。 3) デザイン化された装飾文字から、知っている言葉を見つけることができる。 ② 以下のタスク遂行に必要な単純なアラビア語の文を使うことができる。 1) どこに住んでいるか、何をしているか述べることができる。 2) 欲しいものやしたいことを述べるができる。 3) 経験の有無について述べるができる。 4) 感想や意見を簡単に述べるができる。 ③ アラブの文化に関する知識と関心を高める。
授業形態	演習
授業方法	毎回の授業では、以下の活動を行います。 ① 聞く: 教科書のダイアログの内容や、教師やクラスメイトの発言を聞いて理解する。 ② 読む: 教科書のダイアログを音読する。 ③ 書く: 教科書のダイアログのディクテーションと自己表現作文。 ④ 話す: 教科書のダイアログをもとに、クラスメイトと自分について話す。 ⑤ 文化: 生のアラビア語素材を読み解いたり、写真や動画などを視聴する。
授業計画	【第1回】既習のダイアログと語彙・表現の復習(教科書 第1-3課) 【第2回】既習のダイアログと語彙・表現の復習(教科書 第4-6課) 【第3回】既習のダイアログと語彙・表現の復習(教科書 第7-9課) 【第4回】既習のダイアログと語彙・表現の復習(教科書 第10-11課) 【第5回】「～を知っていますか」(第12課) 【第6回】「～を食べたことがありますか」(第12課) 【第7回】「～が欲しいです」「～したいです」(第13課) 【第8回】「～が気に入りました」(第13課) 【第9回】「～より～です」「～が最も～です」(第14課) 【第10回】「～と思います」(第14課) 【第11回】「～できますか」「～しなければなりません」(第15課) 【第12回】表現できるようになったことの確認 【第13回】期末試験
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	授業に出席するだけでは、アラビア語は決して身につけません。新しい言語を身につけるということは、新しい習慣を身につけ、新たな視野を獲得することでもあります。授業時間外にも、毎日30分以上、次のような学習を行うよう習慣づけてください。 ① 教科書付属の音声をよく聞いて、繰り返し音読する。

	② 語句や文を、何度も書いて、身につける。 ③ 自分に関する作文をし、使えるようにする。 ④ 関心を持った文化トピックについて、自分で調べる。
成績評価方法・基準	到達目標が達成できたかどうかは、次の活動を通じて評価を行います。 ① ダイアログの音読(アラビア語の音や表現が身についてきているか): 30% ② ダイアログのディクテーション(アラビア語の表記や表現が身についているか): 30% ③ 自己表現作文(教科書の文型を使い、自己表現のための作文ができるか): 20% ④ インタビュー試験(アラビア語でやりとりができるか): 20%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこないます。
教科書・指定図書	竹田敏之著『ニューエクスプレス アラビア語』白水社
履修上の留意点	この授業では、ペアワークやグループワークを通じて、クラスメイトと協力しながら学んでいきます。遅刻したり、欠席したり、課題をやらなかったりすると、クラス全体の学習の進行を妨げてしまいます。クラスという小さなコミュニティの一員として、責任を持った行動を期待しています。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH051200
講義名	地域言語(アラビア語)中級Ⅱ
担当者名	川上 かおり
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	本科目は、アラビア語初級を既習した学生を対象とする。中級Iと連動しつつ、原則、ネイティブの教員から発音と基本的語彙、動詞の使い方の応用等について学習し、現代標準アラビア語に基づく会話に親しむことを目指す。学生の積極的参加を前提とした授業となる。
授業の内容	中級Iの学習を踏まえ、アラビア語の広まりとその文化的、宗教的影響力について再度確認する。28文字からなるこの文字と言葉が15憶をこえるイスラーム世界の共通語となっていることからアラビア語の学習にはアラブ諸国の文化やイスラームや慣習について理解を深めることが重要である。会話においてもそうした文化的背景が確認できる表現を取り上げて学習する。文字については、アラビア語独特の発音を本授業でも何度でも繰り返して練習する。文法面では基本形動詞の完了形、未完了形、接続形、要求形、命令形、否定動詞ライサ、カーナ(be動詞にあたる)、派生形動詞の完了形、未完了形の活用と用法を、数詞、助数詞の使い方を復習、確認し、比較級や条件詞の使い方などを加えアラビア語会話の運用能力と読解力の向上を図る。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ネイティブの発想に基づく基本文法の理解を踏まえ、様々な動詞のバリエーションを使った基本会話を運用できることを目標とする。そのためにアラビア語文法の全体像をこの授業で把握すること。動詞の様々なバリエーション、未完了形をもとにした接続形や要求形の使用方法是再度取り上げるので願望や否定表現のバリエーションとともにしっかり理解すること。また条件文や形容詞から派生する比較級と最上級の使い方についてももしっかり理解すること。
授業形態	演習
授業方法	履修生の理解度、慣れぐあいを確認しつつ、テキストと視聴覚教材を使ってなるべく多くの音声を聞いてリスニングと会話の練習を行い、文法事項も説明する。初級、中級Iで練習しているが、再度日本語にはない音(サード、ダード、カーフ、アイン、ガインなど)や日本人には同じ音に聞こえる音(サードとスィーン、ダードとダール、ザーとザイなど)の区別についても練習する。また動詞が加わる文法説明とライティングの練習にも十分時間をかけて行う。
授業計画	受講生の学習事項を確認して進めるが以下の予定となる。 【第1回】これまでの学習事項の理頭度の確認(動詞のバリエーションと派生形) 【第2回】否定動詞ライサとライサを使った会話練習。「Aは、Bである」型文の否定の仕方 【第3回】タイムマシン『カーナ号』。カーナを使った会話の練習。「Aは、Bである」型文の過去 【第4回】ガイルとそれを使った会話の練習。「Aは、Bである」型文のライサを使わない否定の仕方 【第5回】疑問詞の種類と使い方。(何、だれ、どこ、いつ、どうして、どうやって、いかなるなど) 【第6回】願望・必要・予想とそれを使った会話の練習。動詞接続形の使い方の確認 【第7回】比較級・最上級とそれを使った会話の練習。形容詞から比較級の作り方とその他の比較方法 【第8回】接続詞とそれを使った会話の練習。(ワ、ファ、スンマ、ラーキン、ワラーキンなど) 【第9回時間】条件文とそれを使った会話の練習。(イザー、イン、ラウ、など) インシャーアッラーの使い方 【第10回】前置詞・副詞とそれを使った会話の練習。所有表表現に使う前置詞について 【第11回】数詞の使い方。数える対象となっている名詞の性と数詞の関係、数詞と格変化 【第12回】序数詞の使い方。時刻・日・曜日・月・年月日、季節表現の使い方の確認。 【第13回】自己紹介から願望表現まで、学習会話の復習と文法事項の確認

事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	各自の興味やタイプ(視覚型／聴覚型)を意識して、各自が設定したアラビア語学習の目標に向かって取り組み、授業に臨むこと。各自の夢に向かって楽しんで取り組み、チェックリストで達成率を確認しながら語学力を強化する。アラビア語を学習できる場はまだ多くはない。会話、文法ともにしっかり練習し、ノートにとり、復習できるようにしておくこと。分からないことがある場合はいつでもよいので授業時に、またはメールで問い合わせること。質問は歓迎する。
成績評価方法・基準	総合評価(70%)と課題提出(30%)で評価する。 総合評価は受講態度、出席率、授業への積極的参加、予習・復習をどれだけきちんとやっていたか、クラスでの単語や会話などのミニテストで総合的に判断する。課題提出については、文法の理解を確認するために出された宿題をきちんとやり期限内に提出しているかどうかで評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	配布プリント 【文法テキスト】 『アラビア語の法則』 http://arabiya.doo.jp/index.htm
履修上の留意点	欠席をしないこと。テキストの音声を繰り返し聞いて、会話力をのばすこと。 アラブ世界や日本に関するいろいろなニュースに注意を払い問題意識を高める努力を怠らないこと。アラビア語圏の地理や歴史、社会についても学び、国際人にふさわしい教養を培う。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG301
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH051300
講義名	地域言語(アラビア語)中級Ⅲ
担当者名	富永 正人
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	

科目の趣旨	中級Ⅰに引き続き、基本的文法事項(条件詞、関係代名詞、動名詞、数詞の使い方等)について学び、アラビア語の文法事項の全体像を把握することを目指す。講義形式の授業となるが、学生の積極的参加を促しつつ進めて行く。
授業の内容	CEFR A1～A2のアラビア語を聞いて、読んで、話して、書く練習を中心に行います。クラスメイトとお互いについてアラビア語で情報交換をしたり、アラビア語で書かれた生の素材を読み解いたりする練習をしていきます。世界各地のモスクやスペインのアルハンブラ宮殿などを彩る美しいアラビア語装飾を、文字としても読み解いていける感動を一緒に味わいましょう。 また、アラブの文化に関する色々な視聴覚資料を観察し、自らの文化と比較しながら考え、クラスメイトと互いの意見を共有し、言語と文化への洞察力を養っていきます。履修生のみなさんには、自らテーマを決め、関連する情報や動画などを探し、積極的に情報共有を行うことを期待します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	① アラビア語を使って、以下の読み書きができる。 1) よく知っている表現を書き取ることができる。 2) ある程度まとまったアラビア語の文を読むことができる。 3) 自分について語る短いプレゼンテーションの原稿を書くことができる。 ② 以下のタスク遂行に必要な単純なアラビア語の文を使うことができる。 1) 簡単な質問をしたり、答えたりできる。 2) どこに住んでいるか、何をしているか述べることができる。 3) 好きなものについて述べるができる。 4) 体験や感想を述べるができる。 5) したいことや予定を述べるができる。 6) 欲しい物を言い、値段を聞いて、簡単な買い物ができる。 7) リハーサルをして、短いプレゼンテーションができる。 ③ アラブの文化に関する知識と関心を高める。
授業形態	講義
授業方法	毎回の授業では、以下の活動を行います。 ① 聞く: 教科書のダイアログの内容や、教師やクラスメイトの発言を聞いて理解する。 ② 読む: 教科書のダイアログを音読する。 ③ 話す: 教科書のダイアログをもとに、クラスメイトと自分について話す。 ④ 書く: 教科書のダイアログのディクテーションと自己表現作文。 ⑤ 文化: 生のアラビア語素材を読み解いたり、写真や動画などを視聴する。
授業計画	【第1回】「～できますか」「～しなければなりません」(教科書 第15課) 【第2回】「～はいますか」「～はいません」「～にいました」(第16課) 【第3回】「～はどこですか」「どうやって行けばいいですか」(第17課) 【第4回】 第15課から第17課までの表現の練習と応用・発展 【第5回】「～が好きです」「～のほうがいいです」「～はありますか」(18課) 【第6回】「いくらですか」「高いです」「値引きしてもらえますか」(19課) 【第7回】 第18課と第19課の表現の練習と応用・発展 【第8回】「～の印象はどうですか」「～を忘れないで」(20課) 【第9回】これまでに表現できるようになったことの確認 【第10回】発表原稿の作成、インタビュー試験の練習 【第11回】発表原稿の推敲、インタビュー試験の練習 【第12回】発表のリハーサル、インタビュー試験 【第13回】発表、クラスメイトの発表の聴解とフィードバック
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。

事前・事後学修の内容	授業に出席するだけでは、アラビア語は決して身につけません。新しい言語を身につけるということは、新しい習慣を身につけ、新たな視野を獲得することでもあります。授業時間外にも、毎日30分以上、次のような学習を行うよう習慣づけてください。 ① 教科書付属の音声をよく聞いて、繰り返し音読する。 ② 語句や文を、何度も書いて、身につける。 ③ 自分に関する作文をし、使えるようにする。 ④ 関心を持った文化トピックについて、自分で調べる。
成績評価方法・基準	到達目標が達成できたかどうかは、次の活動を通じて評価を行います。 ① ダイアログの音読(アラビア語の音や表現が身についてきているか):20% ② ダイアログのディクテーション(アラビア語の表記や表現が身についているか):20% ③ 自己表現作文(教科書の文型を使い、自己表現のための作文ができるか):20% ④ 学期末の発表(自分だけの作文を身につけ、まとまった自己表現ができるか):20% ⑤ インタビュー試験(アラビア語でやりとりができるか):20%
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	竹田敏之著『ニューエクスプレス アラビア語』白水社
履修上の留意点	この授業では、ペアワークやグループワークを通じて、クラスメイトと協力しながら学んでいきます。遅刻したり、欠席したり、課題をやらなかったりすると、クラス全体の学習の進行を妨げてしまいます。クラスという小さなコミュニティの一員として、責任を持った行動を期待しています。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG302
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH051400
講義名	地域言語(アラビア語)中級IV
担当者名	川上 かおり
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	中級 I に引き続き、基本的文法事項(条件詞、関係代名詞、動名詞、数詞の使い方等)について学び、アラビア語の文法事項の全体像を把握することを目指す。講義形式の授業となるが、学生の積極的参加を促しつつ進めて行く。
授業の内容	多様なスタイルの文章を読みながら文法事項の確認を行う。中級 I で学習した文章の構成や格変化の役割を踏まえ、より多くの例にふれながらそれらを確認することを目指す。
科目の到達目標 (理解のレベル)	動詞を50マスターし、それを使った様々な表現ができること、また派生形を中心とした単語の構造を確実に理解し辞書引きが問題なくできることを目標とする。
授業形態	講義
授業方法	配布プリントやオンラインの文法テキストを引き続き使用しながら、音読、解説と理解、練習問題という3段階をこなし、会話練習を行う。
授業計画	1. スキット(1) 2. テキストの解説と理解 3. 練習問題 4. 会話練習 5. スキット(2) 6. テキストの解説と理解 7. 練習問題 8. 会話練習 9. スキット(3) 10. テキストの解説と理解 11. 練習問題 12. 会話練習 13. スキット(4) 14. テキストの解説と理解 15. 練習問題
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	予習復習をし、不明確な点があればなるべく授業時間内に質問して確認しておくこと。
成績評価方法・基準	総合評価(70%)と課題提出(30%)で評価する。 総合評価では受講態度、積極的参加、出席率、予習・復習をしっかりとやっているかなどを重視して総合的に評価する。理解度を確認するために行う会話・筆記のミニテストを授業内で実施する。アラビア文字の読み書き、正しい発音を身に付け、あいさつを中心とした基本的な挨拶ができるようになったかを評価する。課題提出については、読み書きの練習や文法の理解を確認するために出された課題をきちんと終えて期限内に提出したかを評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	配布プリント 【文法】 『アラビア語の法則』 http://arabiya.doo.jp/index.htm 必要に応じて各自でリンク先のPDFを印刷。
履修上の留意点	遅刻、欠席をしないこと。復習と予習をきちんと行うこと。

更新日	2024/3/19
-----	-----------

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG303
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH052100
講義名	地域言語(アラビア語)上級 I
担当者名	岡崎 弘樹
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	本科目は、アラビア語中級を既習した学生を対象とする。新聞、雑誌、あるいは現地でアラビア語を外国語として学ぶ学習者用テキストなどから社会、文化に関して平易に書かれた文章を選択し、音読を通じて基本的文法事項の確認を行うとともにアラビア語のリズムに親しみ、辞書引き能力を高め、読解力を養うことを目指す。講義形式の授業となるが、学生の積極的参加を促しつつ進めて行く。
授業の内容	1) 標準アラビア語の基礎文法を学習した者を対象に、より高度なアラビア語の運用能力を育成する。詩や短編小説といった文学作品を扱ったり、料理などの娯楽番組、ニュース番組などの映像教材を用いたりして、内容の理解、ディクテーション、リーディングを実践する。 2) 自分の言いたいことをアラビア語で適切に表現するためのスピーチを行う。原稿の用意とネイティブ・チェックを経て、発表する。 3) アラビア語ネイティブをゲストに迎え母国を紹介してもらい、録画を通じて表現を確認する。理解が不十分な部分に関しては初級の教科書や中級の学習内容に立ち返り実践と理論を両立させつつ、「息づかいの聞こえる」アラビア語の習得を目指す。
科目の到達目標 (理解のレベル)	不規則動詞や関係節を含む、より複雑な文章を聴いてきちんと理解できるようになること、また文字に起こされた文章を適切な日本語訳として表現できること。加えて、より複雑な表現を使って、アラブ世界や自分のことについて「通じる発音」で語り、正確な正則アラビア語で書けるようになることを目指す。
授業形態	講義
授業方法	1) 対面可能な場合は対面で授業を実施する。 2) 定期的に書き取りテストを実施し、提出する。あるいはオーラルテストも実施。講師による添削を受ける。 3) 紙媒体あるいはオンラインの辞書を使って単語を調べて暗記する。

授業計画	作品のテキストや録音音声、録画映像、映像教材を使用する。それぞれの教材に関して3～5回のタームで授業を行う。またスピーチの原稿作成、アラビア語訳、練習、発表を行う。 【第1回】 平易な短編小説から学ぶ①。アラブの短編小説（ザカリーヤ・ターミルの「眠る少年」など）の紹介。単語と文法事項の確認。 【第2回】 平易な短編小説から学ぶ②。意味や背景の確認。 【第3回】 平易な短編小説の読解③。意味や背景の確認。それぞれの解釈を持ち寄る。 【第4回】 娯楽番組（料理番組「マクルーベの作り方」など）から学ぶ①。映像の視聴と単語と文法事項の確認。 【第5回】 娯楽番組から学ぶ②。ディクテーションと背景の理解。 【第6回】 娯楽番組から学ぶ③。ディクテーションと背景の理解。 【第7回】 スピーチ①。原稿準備。タイトルは「私の夢」など。 【第8回】 スピーチ②。アラビア語訳とネイティブ・チェック。発音練習。 【第9回】 スピーチ③。それぞれの発表と講評。 【第10回】 ニュース番組（BBCアラビア語あるいはアルジャジーラ衛星放送）から学ぶ①。単語と文法事項の確認。 【第11回】 ニュース番組から学ぶ②。意味と背景の理解。 【第12回】 ニュース番組から学ぶ③。意味と背景の理解。 【第13回】 総まとめ
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	1) 講師がテキストを前もって配布し、予習箇所を指示する。内容に関して自説の詳述を求めることがあるので、理解をしっかりとっておくこと。授業後は、学習事項を振り返り、書写、発音を繰り返して練習しておくこと。 2) スピーチはもともとの日本語原稿の内容が極めて重要となる。人に伝えるための言葉の使い方を学ぶこと。
成績評価方法・基準	授業における積極的な姿勢、課題への取り組み方、読解テストおよび期末テストで総合的に判断する。読解テストについては、まとまった文を読みこなし、連続する音に注意して音読がとどまることなくできることが重要である。また大意をきちんと理解できているかどうか、また文のつながりが理解できているかどうかのポイントとなる。スピーチについてももともとの原稿や発表を総合的に評価する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	1) スピーチは自宅での原稿準備が求められる。 2) ネイティブの友人とのSNSを利用したアラビア語でのコミュニケーションも実践してみる。 3) 最終試験の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でこなう。また採点を終えた解答用紙を今後の学習に関するアドバイスやコメントをつけてmanabaで返却する。
教科書・指定図書	教材は随時プリントを配布するか、manabaで配信する。
履修上の留意点	上級では、アラビア語だけでなく、テキストの内容や文化的、歴史的背景に関する総合的な理解が必要となります。そのためには、①アラブ地域に関する国内、国外の報道に注目し、関心や問題意識を高めておくとともに、②関連する著書や映画などについて自分で積極的に探したり、読んだり、鑑賞することも大事です。最終的には、異文化が「異」でなくなる感覚を養うことを目指します。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG304
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH052200
講義名	地域言語(アラビア語)上級Ⅱ
担当者名	川上 かおり
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	本科目は、アラビア語中級を既習した学生を対象とする。上級Ⅰと連動しつつ、原則ネイティブ教員から現代アラビア語を基本とした多様な表現、また時事問題を含むアラブ世界の諸問題をテーマとした会話に親しみ、アラブ世界への理解を深めることを目指す。学生の積極的参加を前提とした授業となる。
授業の内容	意見交換を主にした授業で、履修生の関心を確認して決定するが、時事アラビア語の音読、読解をメインに適時文法の復習を行うことを考えている。アラブ世界で日々発生している事象を概観し、その中からタイムリーなテーマを選択する予定である。テーマは、政治、経済、社会、文化など多岐にわたるが、履修生が理解しやすいように、また情報を収集しやすいように日本でも報道されているテーマをなるべく選ぶ。またアラビア語はイスラーム世界と密接な関連性を有していることからニュースの枠をアラブ世界に限定せず広くイスラーム世界としてテーマを選択することも大切で、履修生の視野を広げることになる。テーマに関連した意見交換、議論の場を通じてアラビアの運用能力の向上を図ることとする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本授業ではアラビア語については、単語の正確な発音ができ、動詞の人称変化を使いこなし、議論に必要な文を構成できることが求められる。発音は何度も繰り返して練習し、早さよりも正確さが求められる。動詞は、派生形動詞と会話や議論で重要視される不規則動詞がその人称変化とともに適切に使いこなすことが目標となる。問題意識については、アラブ世界やイスラーム世界で日々起こっていることに関心を持ち、日本の報道を必ずチェックし起こっていることを正確に把握することが、求められる。
授業形態	講義
授業方法	履修生の理解度、基礎語学力を確認しつつ、テキストと視聴覚教材を使ってなるべく多くの音声聞いてリスニングと会話の練習を行う。初級、中級、上級を通じて訓練してきてはいるが、この授業でも日本語にはない音(サード、ダード、カーフ、アイン、ガインなど)や日本人には同じ音に聞こえる音(サードとスイーン、ダードとダール、ザーとザイなど)の区別についてその習得のため何度も聞き、発音を指導する。ニューステキストと一緒に読み、また音声聞き、テーマについて意見交換をする場を設ける。
授業計画	時事アラビア語を柱として、以下の予定でスキットを観たり読んだりして、会話をする。 【第1回】今週のニュースから アラブ世界各地のニュースを概観しテーマを選択(1) 【第2回】今週のニュースから アラブ世界各地のニュースが概観しテーマを選択(2) 【第3回】アラブの小話(1) 【第4回】アラブの小話(2) 【第5回】アラビア語の歌(1) 【第6回】アラビア語の歌(2) 【第7回】アラブからみた日本(1) 【第8回】アラブからみた日本(2) 【第9回】履修生の関心のあるテーマ(1) 【第10回】履修生の関心のあるテーマ(2) 【第11回】履修生の関心のあるテーマ(3) 【第12回】履修生の関心のあるテーマ(4) 【第13回】振り返り
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	これまで学んだことをよく復習しておくこと。各自の興味やタイプ(視覚型/聴覚型)を意識して、各自が設定したアラビア語学習の目標に向かって取り組み、授業に臨むこと。アラビア語を学習できる場はまだ多くはない。会話、文法ともにしっかり練習し、ノートにとり、復習できるようにしておくこと。分からないことがある場合はいつでもよいので授業時に、またはメールで問い合わせること。質問は歓迎する。また授業のテーマとなるアラブ世界で起こっていることに関心を払い、ニュースに注目し幅広く情報を集めておくこと。
成績評価方法・基準	クラスでの積極的発言(70%)と課題提出(30%)で評価する。 クラス内での発言については、アラビア語での発言に加えて、選択テーマに関する知識、情報量、問題意識の高さ、論理性などについて日本語

	による発言も考慮する。アラビア語による発言についてはゆっくりでもよいので単語の発音の正確さ、文の構成力、発言姿勢などを評価する。課題提出については、会話で解説する文法事項の理解度を確認するために課せられる課題の提出状況を見る。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	【文法】 『アラビア語の法則』 http://arabiya.d.dooo.jp/index.htm 必要に応じて各自でリンク先のPDFを印刷。
履修上の留意点	将来、なんらかの形で学んだアラビア語を生かせること年頭に置きながら、内的モチベーションに沿ってアラブ文学、歴史、詩などを勉強し、多文化コミュニケーションのスキルや、教養を身に着けること。 文明の力をうまく使うのも21世紀の語学力の一部である。機械翻訳を使うことを奨励するが、AIの特徴、限界、翻訳の原文についての留意点などをしっかり知ること。 アラビア語の学習には英語能力も必用になる。またアラビア語学習が英語能力を上げる面もある。両言語に相関関係があることを留意すること。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG401
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH062300
講義名	地域言語(スペイン語)上級Ⅲ
担当者名	モラレス J.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	上級Ⅰに引き続き、教科書用に使われたものでない、生きたスペイン語を読み、さらに書き、話すことを学ぶことで、スペイン語運用能力の向上を図る。新聞、雑誌の必ずしも平易でない記事が読めるようになることを目指す。
授業の内容	上級Ⅱコース終了後は、聞く(インプット)と話す(アウトプット)、読む(インプット)と書く(アウトプット)の演習をする事でスペイン語力を向上を図ります。新聞や雑誌の記事を理解できるようになることを目標とします。 実践的なスペイン語の習得を目指します。視聴覚教材を通して、これまで学習した文法の応用力を高めます。授業で使用する教材を通じてスペイン語圏の文化、習慣、歴史についても学びます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	これまで学んだ文法を用いながら、新聞、雑誌、テレビ、インターネットの動画などで出てくる実践的なスペイン語を習得することを目的としています。 また、スペイン語の学習を通じてスペイン語圏の文化や歴史への理解も深めます。
授業形態	演習
授業方法	教科書、プリント、視聴覚資料を使用します。 学生は事前に授業テーマの資料を読み、理解できなかった点について質問を準備してください。 授業では教員がトピックの文法事項を説明したり、生徒からの質問に答えます。 また、口頭スキルを向上させるために、リスニングと音読の練習も行います。 並行して、スペイン語圏に関する文化的なテーマ、音楽(歌)、各自が興味を持つテーマについての資料を探す必要があります。
授業計画	〃【第1回】 スペイン語圏の祝祭、授業ガイダンス、直説法・現在不規則活用 ビデオ: Entremeses 【第2回】 文法: 直説法・過去形活用 ビデオ: Lec. 1: La sagrada Familia 【第3回】 文法: 命令形・受動文 ビデオ: Lec. 3: Las Plazas 【第4回】 文法: 分詞構文: 不定詞・現在分詞・過去分詞 ビデオ: Lec. 5: El trafico 【第5回】 文法: 直接・間接目的語 ビデオ: Lec. 6 La Vivienda 【第6回】 文法: 否定文 ビデオ: Lec. 7 Bares y Tapas 【第7回】 まとめ・復習・中間試験 【第8回】 文法: 直説法・接続法 ビデオ: Lec. 9: La Mezquita 【第9回】 文法: 関係詞 ビデオ: Lec. 10: La Alhambra 【第10回】 文法: 接続法・現在 ビデオ: Lec. 12: El Futbol 【第11回】 文法: 接続法② ビデオ: Lec. 13: La Universidad 【第12回】

	文法: 接続法・過去 ビデオ: Lec. 16: Historia y Cultura 【第13回】まとめ・復習 期末試験
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回の授業前に次のテーマを読み、分からない単語や表現があれば辞書で調べておくこと。 授業後は、「1-3-1-3 システム」を用いて授業で学んだ新しい単語や表現を復習すること。 質問や不明点がある場合は、教室内またはメールにて問い合わせること。
成績評価方法・基準	50%: 出席、授業態度、小試験、授業中の課題と演習 ※a) 全授業科目の3分の1を超える無断欠席は単位取得を無効とします（授業中に居眠りしたり、私語をしたり、授業を妨害するその他の態度は減点対象とする） 50%: 試験（中間試験と期末試験）
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	~Noritaka Fukushima著 Español Visual -Nueva Edición- Editorial Asahi 定価2750（本体2500円+税10%） ISBN978-4-255-55133-3 このほか、教員からプリントを配布する。/辞書は必須。
履修上の留意点	授業への出席と積極的な参加は、学習の向上に大きく役立ちます。 難易度が高い内容の復習は「1-3-1-3方式」が効果的です。これは、授業後1時間後に5分復習、3日後に同じ内容、1ヶ月後に同じ内容、3ヶ月後に再度同じ内容を復習します。長い時間の勉強は必要なく5分もあれば十分です。
更新日	2024/3/19

開設	国際関係学部多文化コミュニケーション学科
科目ナンバー	CG402
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1CH062400
講義名	地域言語(スペイン語)上級Ⅳ
担当者名	モラレス J.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	上級Ⅱに引き続き、映画なども含む種々の視聴覚教材によって、スペイン語世界に親しみ、受講者がさらに高度なスペイン語修得を目指すようモチベーションを高めることを目指す。
授業の内容	上級Ⅲに引き続き、映画を含む様々な視聴覚教材を通じてスペイン語の世界に親しみ、より高度なレベルのスペイン語習得を目指す事を目的としています。 スペイン語圏に関する文章を読む事で、スペイン語力と文法の向上をはかるとともに、スペイン語圏諸国の政治、経済、社会、文化への理解を深めます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	スペイン語圏の政治、経済、社会、文化に関する文書を理解し、その背景に関しても理解します。
授業形態	演習
授業方法	教科書に従って文法問題や語彙を復習し演習に取り組み、更に視聴覚教材で知識を深めます。

授業計画	【第1回】 スペイン語圏の祝祭、授業ガイダンス、直説法・現在不規則活用 ビデオ:Lec. 1: Granada 【第2回】 文法: 目的格人称代名詞 ビデオ:Lec.2: Sevilla 【第3回】 文法: 現在分詞 ビデオ:Lec. 3: La Habana 【第4回】 文法: 再帰代名詞・点過去 ビデオ:Lec. 4: Teotihuacan 【第5回】 文法: 点過去・線過去 ビデオ:Lec. 5: Tikal 【第6回】 文法: 現在完了・過去完了 ビデオ:Lec. 6: Machu Picchu 【第7回】 まとめ・復習・中間試験 【第8回】 文法: 過去未来・過去未来完了 ビデオ:Lec. 8: Cusco 【第9回】 文法: 接続法・現在 ビデオ:Lec. 9: Potosi 【第10回】 文法: 命令形 ビデオ:Lec. 10: La Santisima Trinidad 【第11回】 文法: 接続法② ビデオ:Lec. 11: Islas Galapagos 【第12回】 文法: 接続法③ ビデオ:Lec. 12: Parque Nacional Rapa Nui 【第13回】まとめ・復習 期末試験
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、70分程度である。
事前・事後学修の内容	毎回の授業前に次回のテーマを読み、分からない単語や表現があれば辞書で調べておくこと。 授業後は、「1-3-1-3 システム」を用いて授業で学んだ新しい単語や表現を復習すること。 質問や不明点がある場合は、教室内またはメールにて問い合わせること。
成績評価方法・基準	50%: 出席、授業態度、小試験、授業中の課題と演習 ※a) 全授業科目の3分の1を超える無断欠席は単位取得を無効とします（授業中に居眠りしたり、私語をしたり、授業を妨害するその他の態度は減点対象とする） 50%: 試験（中間試験と期末試験）
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	Miho Zenno, Yukitaka Inoue, Margarita Nakagawa, Kazushige Hirata著 Conociendo el Patrimonio de la Humanidad Segunda Edición Editorial Asahi 定価2530（本体2300円+税10%） ISBN978-4-255-55068-8
履修上の留意点	授業への出席と積極的な参加は、学習の向上に大きく役立ちます。 難易度が高い内容の復習は「1-3-1-3方式」が効果的です。これは、授業後1時間後に5分復習、3日後に同じ内容、1ヶ月後に同じ内容、3ヶ月後に再度同じ内容を復習します。長い時間の勉強は必要なく5分もあれば十分です。
更新日	2024/3/19